

K 113 遺跡

北34条地点

1995

札幌市教育委員会

例 言

- 1 本書は、札幌市北区北34条西5、6丁目の住友石炭鉱業株式会社北海道支社のマンション建設工事に関連して発掘調査を実施した K113遺跡北34条地点の調査報告書である。
- 2 発掘調査の日程は、平成6年4月15日から平成7年3月31日までである。このうち、現場の作業は平成6年6月1日から6月28日まで市民局文化部文化財課の上野秀一の担当で実施した。整理および報告書作成作業は上野を中心に同課の秋山洋司の協力をえながら平成6年6月29日から平成7年3月31日まで行っている。
- 3 本書の編集および依頼原稿以外の執筆は、上野秀一が担当しているが、動植物遺存体については、下記の先生に執筆をお願いし、玉稿を頂いている。
東北大学文学部 富岡直人
動物遺存体（第7章第1節）
北海道大学文学部 吉崎昌一
植物遺存体（第7章第2節）
- 4 発掘調査・整理作業において、下記の機関および方々より助言と協力を賜った(順不同、敬称略)。
北海道教育庁文化課
(財)北海道埋蔵文化財センター
北海道開拓記念館
札幌大学 木村英明
東海大学 岡田淳子
東北大学 須藤 隆
北海道大学 林 謙作
- 5 発掘調査・整理作業には、下記の人々が従事した。
(現場) 名取さつき、今田瑞恵、波多野美子、畠山 伸、安澤 眞、山下富久治、山田一郎ほか
(整理) 今田瑞恵、波多野美子、吉田友美、三浦 進、名取さつき、種市和嘉子、長田佳宏、畠山 伸、大串智律、阿部将樹、高橋美和、高橋真美、本間直子ほか
- 6 発掘・整理作業、報告書出版にあたっては、住友石炭鉱業株式会社北海道支社、住友・青木・飛島・新太平洋共同企業体北34マンション作業所(所長山神義雄)、村上建築設計室等からご協力のご理解を賜ったことを記し、深く感謝の意を表する次第です。

凡 例

- 1 第1図の地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地形図「札幌」、「札幌北部」を利用した。
- 2 層名の表示方法については、発掘区セクション（基本層序）については算用数字、竪穴住居跡・焼土等の遺構の覆土の層名はローマ数字を基本とし、それにアルファベットを組み合わせで表示している。かまどは、アルファベットの大文字と小文字を組み合わせで表現している。

なお、各遺構で示した地山の層については、基本層序と対比できるものは基本層序名で表現したが、対比が困難あるいは不明瞭なものについては、括弧を付けた算用数字で個別に表示し、個々に層名を注記した。

また、セクション図や平面図の中で、注記せずに均一なドットスクリーンで表示した部分は、地震による噴き上げ砂の痕である。
- 3 挿図の縮尺は、個々にスケールを入れて明示しているが、基本的な縮尺率は、発掘区セクション1/40、竪穴住居跡1/60、同かまど1/30、焼土等1/20であり、遺物については土器実測図および同拓影図1/3、剥片石器・礫石器および紡錘車は1/2である。
- 4 写真図版の縮尺については、遺構は任意であるが、遺物は実測土器・同土器片1/3、石器・紡錘車は1/2である。
- 5 付図1、2の縮尺は1/70である。なお、付図内に貼付した遺物の縮尺は、完形土器1/5.6、剥片石器1/2.1、礫石器・紡錘車1/2.8である。
- 6 付図の中で、第1、2号竪穴住居跡内覆土および床面等出土の遺物の番号は、発掘区毎の遺物番号と区別するために遺物番号の下にアンダーラインを付けて表示してある。
- 7 挿図および付図で使用了遺物記号の内訳は、●：土器および焼成粘土塊、▲：石器および剥片・礫、★：紡錘車である。

また、表等で用いている遺構名の略称は、竪穴住居跡が「HP」、焼土が「F」、ピットが「PIT」、柱穴が「SP」である。
- 8 土器実測図において使用した調整技法の表現方法は、『H317遺跡』札幌市文化財調査報告書46(1995)に示した内容で表示している。

目 次

第1章	発掘調査までの経過	9
第2章	発掘調査の方法と層序	11
第1節	発掘調査の方法	11
第2節	層 序	13
第3章	遺 構（下層）	17
第1節	焼 土	17
第2節	ピット	17
第4章	遺 物（下層）	22
第1節	土 器	22
第2節	石 器	23
第5章	遺 構（上層）	26
第1節	第1号竪穴住居跡	26
第2節	第2号竪穴住居跡	31
第3節	焼 土	38
第6章	遺 物（上層）	45
第1節	土 器	45
第2節	石 器	49
第7章	動植物遺存体	50
第1節	動物遺存体（富岡直人）	50
第2節	植物遺存体（吉崎昌一）	54
結 語		57

挿図目次

第1図	K113遺跡北34条地点付近地形図(1)(1:25,000;○印遺跡)	8
第2図	K113遺跡北34条地点付近地形図(2)(1:2,500)	10
第3図	K113遺跡北34条地点付近地形図(3)(1:1,000)	12
第4図	K113遺跡北34条地点発掘区配置図(1:400)	13
第5図	K113遺跡北34条地点発掘区セクション図(1)(A-B、C-Dセクション)	14
第6図	K113遺跡北34条地点発掘区セクション図(2)(E-Fセクション)	15
第7図	K113遺跡北34条地点焼土9、10(9b層)	18
第8図	K113遺跡北34条地点第1号ピット(9b層)	19
第9図	K113遺跡北34条地点第2号ピット(9b層)	20
第10図	K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物(1)(9b層;土器)	22
第11図	K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物(2)(9b層;石器)	24
第12図	K113遺跡北34条地点第1号竪穴住居跡(3a層)	27
第13図	K113遺跡北34条地点第1号竪穴住居跡かまど(3a層)	29
第14図	K113遺跡北34条地点第1号竪穴住居跡出土遺物(3a層;土器)	30
第15図	K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡(3a層)	32
第16図	K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡かまど(3a層)	34
第17図	K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡出土遺物(1)(3a層;土器)	35
第18図	K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡出土遺物(2)(3a層;土器)	36
第19図	K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡出土遺物(3)(3a層;紡錘車)	37
第20図	K113遺跡北34条地点焼土1~3(3a層)	39
第21図	K113遺跡北34条地点焼土4A・B、5(3a層)	40
第22図	K113遺跡北34条地点焼土6、7(3a層)	41
第23図	K113遺跡北34条地点焼土8、11および土器出土状況図(3a層)	43
第24図	K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物(3)(3a層;土器)	46
第25図	K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物(4)(3a層;土器)	47
第26図	K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物(5)(3a層;石器)	49

付図目次

付図1	K113遺跡北34条地点出土遺物分布図(1)(下層;9b層)
付図2	K113遺跡北34条地点出土遺物分布図(2)(上層;3a層)

表 目 次

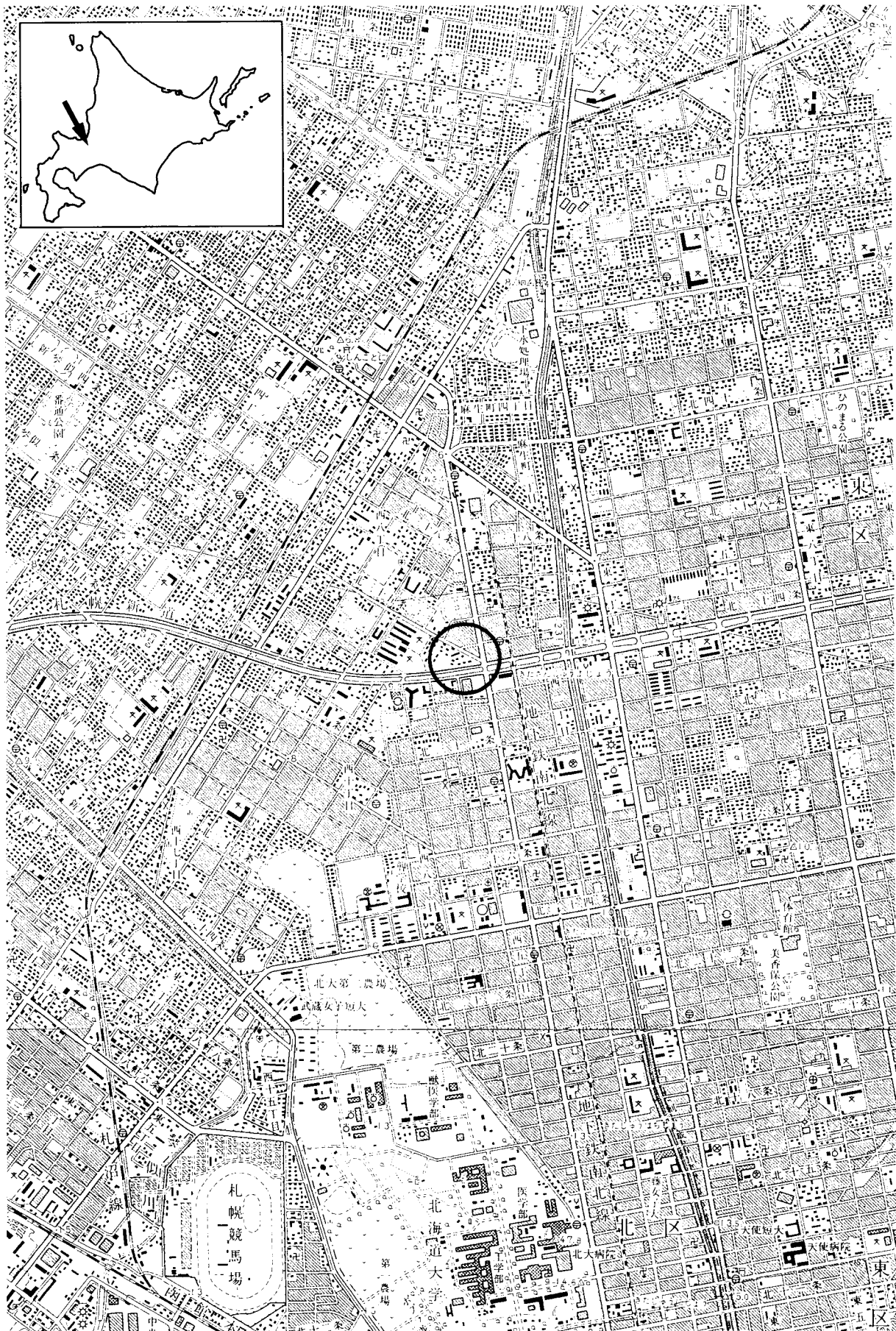
第1表	K113遺跡北34条地点竪穴住居跡柱穴一覧表	38
第2表	K113遺跡北34条地点出土動物遺存体一覧表(1)	52
第3表	K113遺跡北34条地点出土動物遺存体一覧表(2)	52
第4表	K113遺跡北34条地点出土炭化種子表	55
第5表	K113遺跡北34条地点出土アワ計測表(焼土2)	56
第6表	K113遺跡北34条地点遺構および動植物遺存体一覧表	58
第7表	K113遺跡北34条地点出土土器一覧表	60
第8表	K113遺跡北34条地点出土石器・紡錘車一覧表	61
第9表	K113遺跡北34条地点出土遺物集計表	62
第10表	K113遺跡北34条地点出土遺物一覧表(遺物台帳)	63
第11表	K113遺跡北34条地点出土遺物接合一覧表	71

図版目次

図版1	K113遺跡北34条地点付近空中写真(○印は遺跡、1:10,000、平成4年5月31日撮影) …	79
図版2A	K113遺跡北34条地点全景(1)(北北西より)	80
図版2B	K113遺跡北34条地点全景(2)(南東より)	80
図版3A	試掘坑12セクション(1)(05-04区;北より)	81
図版3B	試掘坑12セクション(2)(05-04区;南より)	81
図版4A	試掘坑12セクション(3)(05-04区;南より)	82
図版4B	試掘坑12セクション(4)(05-04、05-03区;南より)	82
図版5A	E-Fセクション(1)(05-03区;北より)	83
図版5B	E-Fセクション(2)(05-03区;北より)	83
図版6A	C-Dセクション(1)(04-03区;東より)	84
図版6B	C-Dセクション(2)(05-03区;東より)	84
図版7A	焼土9(1)(04-04区9b層;北東より)	85
図版7B	焼土9(2)(部分、04-04区9b層;北東より)	85
図版8A	焼土9(3)(部分、04-04区9b層;北東より)	86
図版8B	焼土10(05-04区9b層;東より)	86
図版9A	第1, 2号ピット(05-04区;北より)	87
図版9B	第1号ピット(05-04区;北より)	87
図版10A	第2号ピット(05-04区;南より)	88
図版10B	第2号ピットセクション(05-04区;南より)	88

図版11A	遺物出土状況 (1) (05-04区9b層、礫No.15、16; 北より)	89
図版11B	遺物出土状況 (2) (05-04区9b層、土器等No.35~78; 南より)	89
図版12A	遺物出土状況 (3) (05-04区9b層、土器等No.47~59、66~68、70~78; 西より)	90
図版12B	出土遺物 (1) (1; 発掘区9b層出土土器、2; 第1号竪穴住居跡出土土器)	90
図版13A	出土遺物 (2) (発掘区9b層出土土器)	91
図版13B	出土遺物 (3) (発掘区9b層出土石器)	91
図版14A	第1号竪穴住居跡 (確認面; 東より)	92
図版14B	第1号竪穴住居跡 (全景; 東より)	92
図版15A	第1号竪穴住居跡 (A-Bセクション西側; 南より)	93
図版15B	第1号竪穴住居跡 (A-Bセクション中央付近; 南より)	93
図版16A	第1号竪穴住居跡 (C-Dセクション南側; 西より)	94
図版16B	第1号竪穴住居跡 (C-Dセクション北側; 東より)	94
図版17A	第1号竪穴住居跡 (A-Bセクション東側; 北より)	95
図版17B	第1号竪穴住居跡かまど (全景; 北より)	95
図版18A	第1号竪穴住居跡かまど (セクション; 北より)	96
図版18B	第1号竪穴住居跡かまど (火床; 北より)	96
図版19	出土遺物 (4) (第1号竪穴住居跡出土土器)	97
図版20A	第2号竪穴住居跡 (確認面; 東より)	98
図版20B	第2号竪穴住居跡 (全景; 南東より)	98
図版21A	第2号竪穴住居跡 (全景; 北東より)	99
図版21B	第2号竪穴住居跡 (E-Fセクション; 北東より)	99
図版22A	第2号竪穴住居跡 (A-Bセクション北西側; 北東より)	100
図版22B	第2号竪穴住居跡 (A-Bセクション中央付近; 北東より)	100
図版23A	第2号竪穴住居跡 (A-Bセクションおよび炭化材全景; 北東より)	101
図版23B	第2号竪穴住居跡 (中央部付近炭化材; 南東より)	101
図版24A	第2号竪穴住居跡 (北西壁側炭化材; 東より)	102
図版24B	第2号竪穴住居跡 (かまど付近炭化材および遺物出土状況; 北北東より)	102
図版25A	第2号竪穴住居跡 (南東隅付近炭化材および遺物出土状況; 北西より)	103
図版25B	第2号竪穴住居跡かまど (全景; 北東より)	103
図版26	出土遺物 (5) (第2号竪穴住居跡出土土器)	104
図版27A	出土遺物 (6) (第2号竪穴住居跡出土土器)	105
図版27B	出土遺物 (7) (第2号竪穴住居跡出土紡錘車)	105
図版28A	焼土1~3 (05・06-04区、3a層; 西より)	106
図版28B	焼土1~3 (05・06-04区、3a層; 南より)	106
図版29A	焼土1 (05-04区、3a層; 北より)	107
図版29B	焼土1、2 (05-04区、3a層; 北より)	107
図版30A	焼土3 (05・06-04区、3a層; 北より)	108
図版30B	焼土4A、B (05-04区、3a層; 南より)	108
図版31A	焼土4A、B (05-04区、3a層; 北より)	109
図版31B	焼土5 (05-04区、3a層; 西より)	109

図版32 A	焼土6 (03-03区、3a層；東より)	110
図版32 B	焼土7 (03-03区、3a層；東より)	110
図版33 A	焼土8 (04-03区、3a層；南より)	111
図版33 B	焼土11 (05-03区、3a層；北東より)	111
図版34 A	発掘区遺物出土状況 (1) (05・06-04区No.1～3、3a層；北より)	112
図版34 B	発掘区遺物出土状況 (2) (05・06-04区No.1、3a層；北より)	112
図版35 A	発掘区遺物出土状況 (3) (06-04区No.15～33、3a層；北より)	113
図版35 B	発掘区遺物出土状況 (4) (04-04区No.1・2、3a層；東より)	113
図版36 A	発掘区遺物出土状況 (5) (04-04区No.2、3a層；南東より)	114
図版36 B	発掘区遺物出土状況 (6) (04-04区No.1、3a層；真上より)	114
図版37	出土遺物 (8) (発掘区3a層出土土器)	115
図版38 A	出土遺物 (9) (発掘区3a層出土土器)	116
図版38 B	出土遺物 (10) (発掘区3a層出土石器)	116
図版39	出土遺物 (11) (発掘区3a層出土土器)	117
図版40 A	発掘風景 (1)	118
図版40 B	発掘風景 (2)	118
図版41	K113遺跡北34条地点出土炭化種子 (1)	119
図版42	K113遺跡北34条地点出土炭化種子 (2)	120



第1図 K113遺跡北34条地点付近地形図(1) (1:25,000; ○印遺跡)

第1章 発掘調査までの経過

今回の発掘調査は、住友石炭鉱業株式会社北海道支社のマンション建設工事（仮称「北34西5マンション」）にともなって実施されたものである。

本地区は、かつては低層のアパート群が建っていた場所である。このところ、個人住宅の老朽化・世代交代が進んできたことやJ R北海道函館本線の高架化の効果が現れてきたこと、さらに一時の地価・物価の高騰が沈静化してきたことから、今回の事例のように比較的都市部に近い地域での再開発が活発化し、とくに安価で交通至便な住宅を供給する高層マンションの建設が盛んになってきた。

本工事の計画については、当該地がK113遺跡の隣接地で、また旧琴似川流域の埋蔵文化財が発見される確率が高い地域の中に入り、また開発面積も約3,400㎡と広いため、平成5年6月に建築確認申請が出された時点で、都市整備局開発部宅地課の方から埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて最初に協議があったものである。協議の翌日、現地を確認したところ、盛土され、表面には採石が敷き込まれていたため、重機を利用した試掘調査を実施する必要があると判断された。

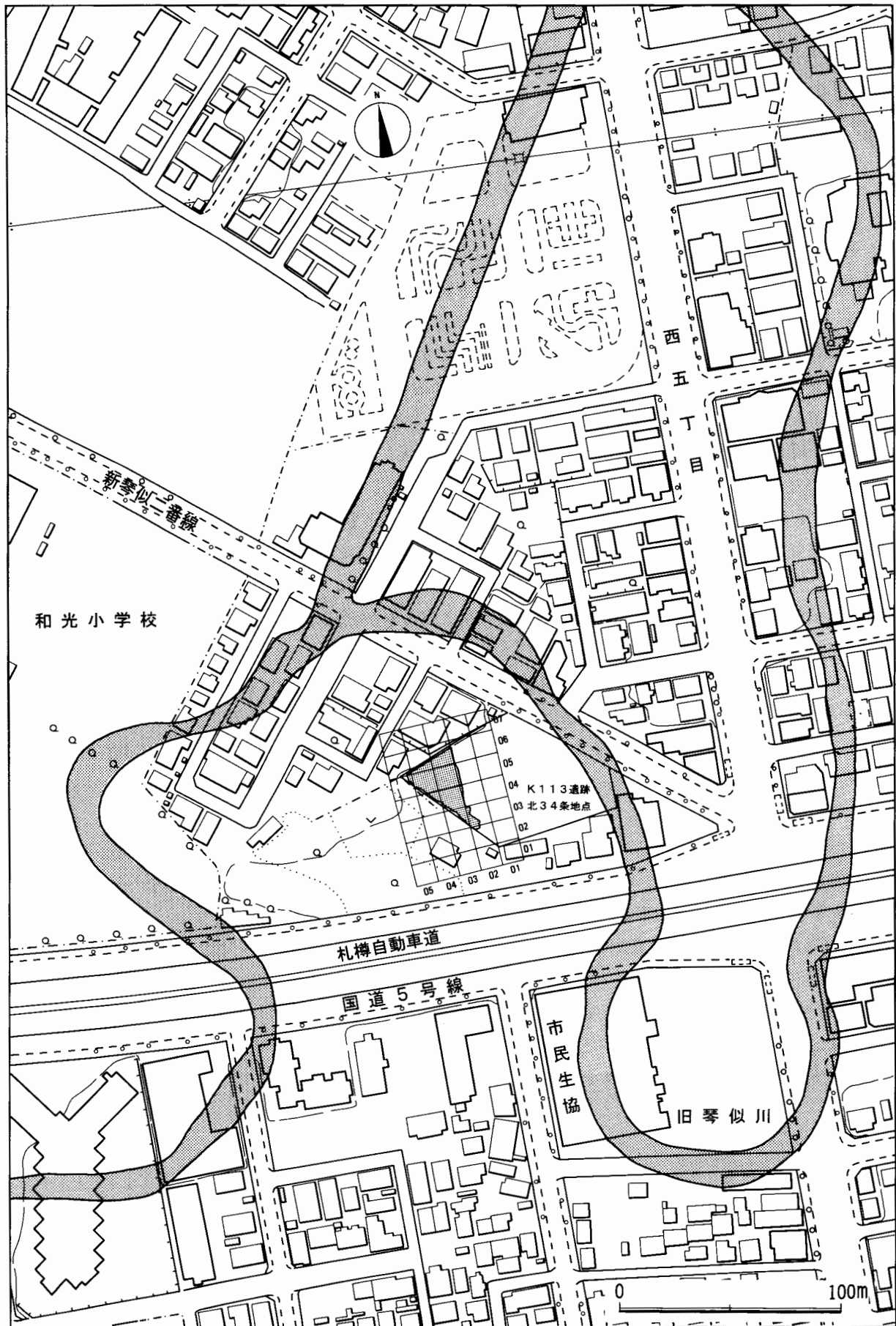
試掘調査は、事業者側の重機の手配の関係で同年7月中旬に実施したが、その結果敷地の中央部から東側にかけては旧琴似川と考えられる旧河道跡が見つかったが、反対の西側約500㎡からは、第4図に示した試掘坑12と15から擦文時代の土器と焼土および炭層が検出され、この部分については正式な発掘調査が必要と判断された。

この結果を得て、早々に開発者と協議し、発掘調査の現場の期間は約1ヶ月であるが、調査時期は平成5年度の8月以降については、既に東区丘珠地区で2ヶ所の発掘調査の日程が組まれており、また西区発寒および北区屯田地区の現場についても早期着手を強く要求されながらも、職員数の関係で、平成5年度中の対応が困難な状況であったため、調査年次については平成6年度実施ということで検討をお願いした。

その結果、9月末になって、マンションの本体の建築工事は早期に着工する必要があるが、発掘調査を実施する地区はマンションの建物本体から離れた駐車場部分に当たるため、平成6年の5、6月中に調査が終了するのであれば、平成6年度実施でもかまわないという結論が出された。

最終的に、平成6年度の文化財課の発掘調査業務の日程を調整した結果、発掘の現場作業は平成6年6月に実施することとなった。

発掘調査期間中は、マンション建設現場内での建設作業との併行作業にも係わらず、無事業務を終了できたのは、偏に現場を監督する住友・青木・飛島・新太平洋建設共同企業体北34マンション作業所の山神義雄所長以下関係者の多大なるご支援とご理解の賜であった。ここに深く感謝の意を表したい。



第2図 K113遺跡北34条地点付近地形図(2) (1:2,500)

第2章 発掘調査の方法と層序

第1節 発掘調査の方法（第1～4図）

今回の調査は、マンション建設にともなう事前調査である。

試掘調査の結果、遺構・遺物の出土位置が敷地の西側約300㎡程に限定され、また耕作土を含めた旧表土の下に黒色土層（「化石腐植土層」）が高い位置（60～70cm付近）に堆積する範囲もこの部分であった。さらに、旧表土が相対的に高く、埋め立てされた現地盤からの深さが1mに満たない地域も上述の約300㎡の範囲を含めた西側の約500㎡のみで、逆に中央部から東側にかけては旧表土が現地盤から1m以上と深く、旧河道（「旧琴似川」）とその氾濫原と判断されたため、西側の約500㎡を発掘調査対象地区とした。

発掘調査は、10×10mのグリッド方式を用いている。基線については、西端の敷地杭から南西向き敷地境界沿いに40mの地点（「基準杭」）と同杭から北向き敷地境界に沿って27mの地点とを結んだ線を基準線にしている。

グリッドの区名および杭番号は、南から北に向かってX軸（00～07列）、東から西に向かってY軸（00～05列）として、ともに二桁の算用数字を用い、X軸とY軸の組み合わせで呼称している（X-Y区およびX-Y杭：第4図参照）。なお、基準杭の番号は「02-02杭」である。

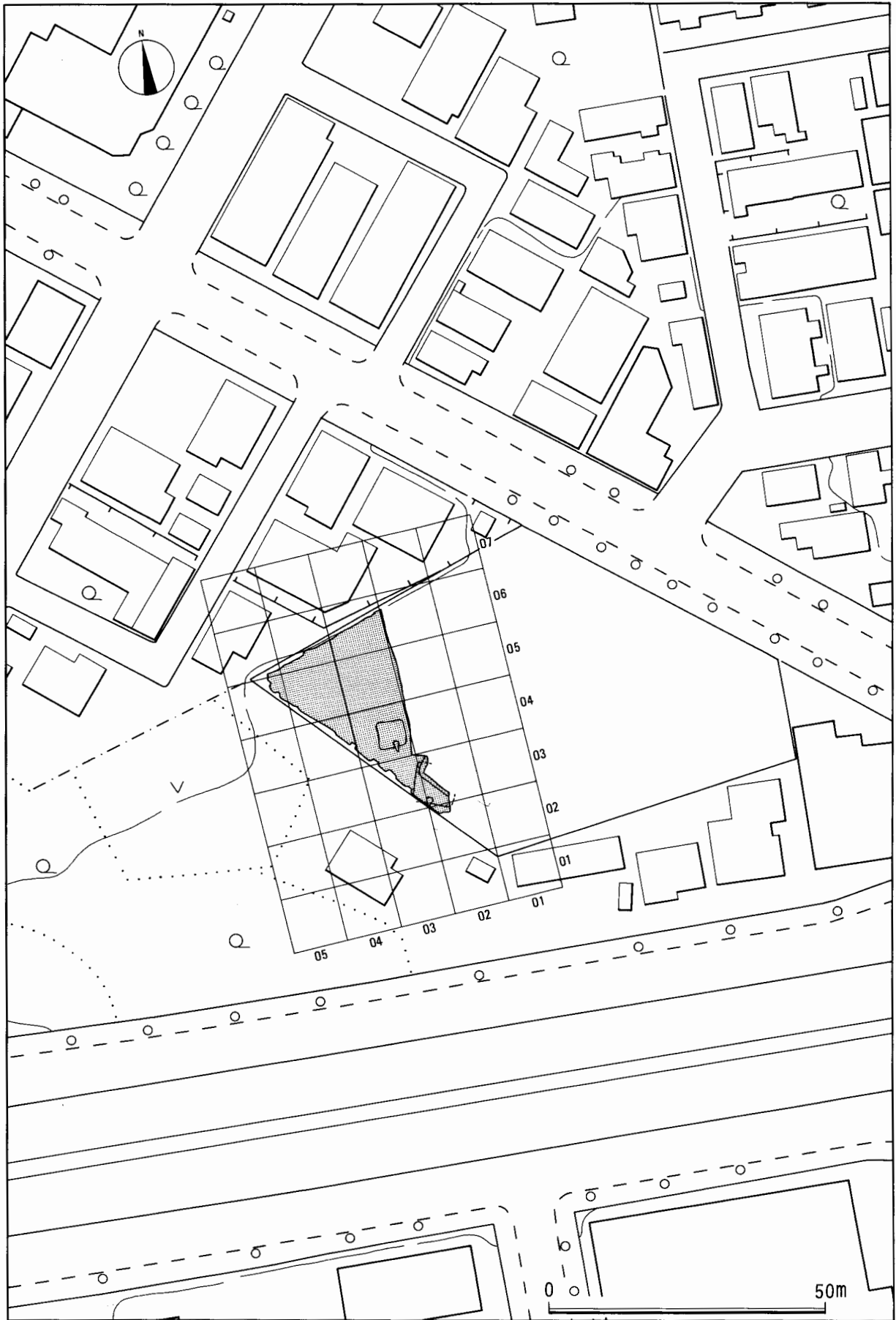
X軸の方位は、磁北でN175°E。

調査方法は、盛土が0.7～1mと厚かったため、盛土および耕作土は重機で削土し、その後グリッドの北側と東側にブリッジを残し、手掘りで層位的に発掘調査を進めた。

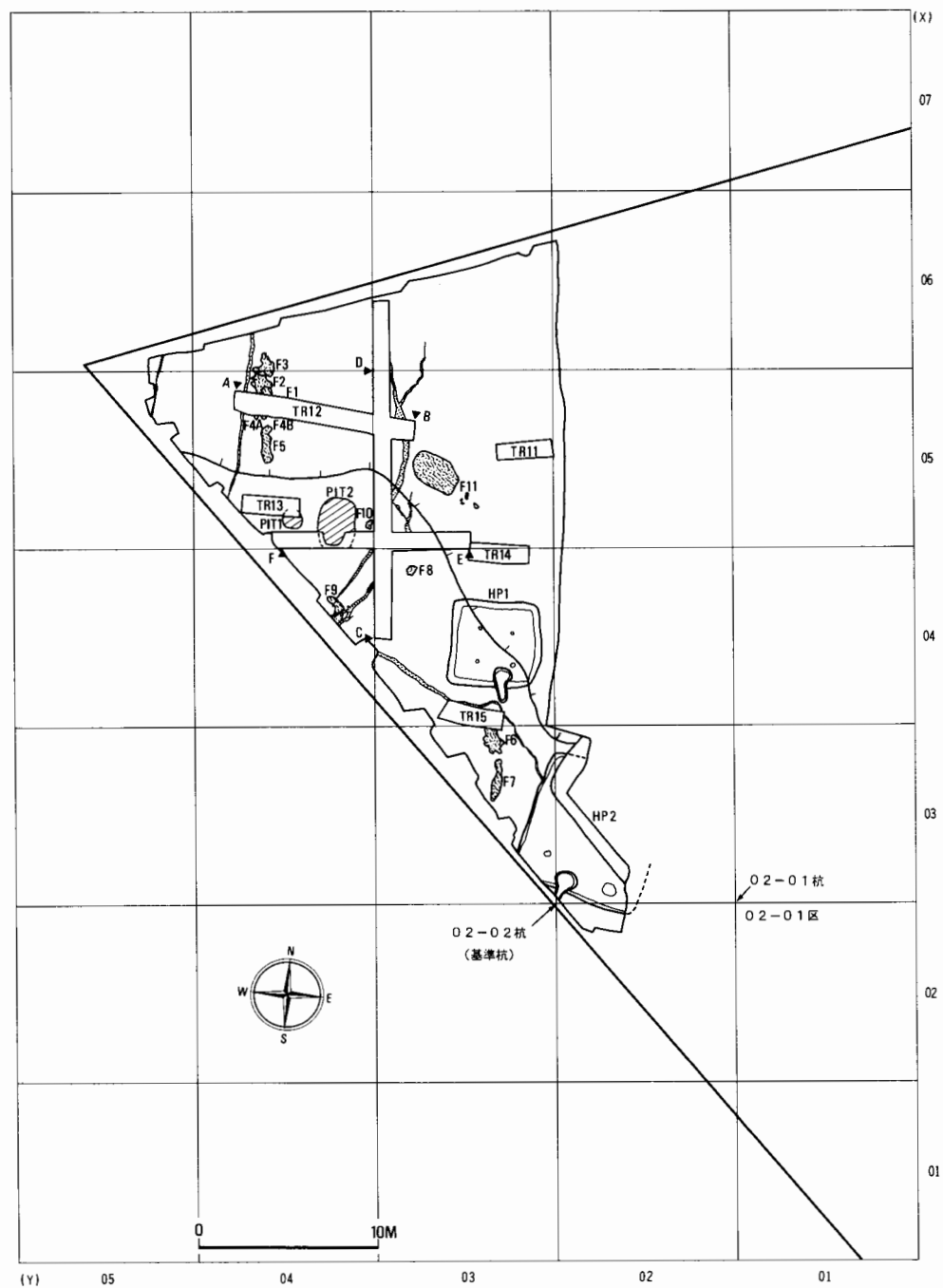
その結果、後述するように基本層序の「3a層」中と旧腐植土層である6層群を挟んでその下位に堆積する「9b層」の2層序から文化層が確認されている。前者を「上層」文化層とし、後者は「下層」文化層と呼称する。

なお、第4図、付図1、2に示したように05-05、05-04区東西方向の中央付近から第1号竪穴住居跡中央をへて第2号竪穴住居跡付近まで北から北東に向かう層の落ち込み線を表示しているが、これは後述する9b層が旧河道に向かって落ち込む肩口部分を示したものである。なお、9b層の上に堆積する6層群についても、位置は9b層より1～2m程旧河川側にずれるが、同様に落ち込む状況が認められた。

「下層」文化層については、高い位置に9b層が堆積している範囲しか分布していなかったため、発掘範囲はこの部分のみとした。「上層」文化層は、文化層をのせる3a層は、9bから6層群で認められた沢状の落ち込み部分が、4、5層群によりほぼ水平になるよう埋積した後に堆積したものである。そのため、第1号竪穴住居跡にみられるように、一部は上述の落ち込み線を越えて生活の範囲を広げており、上層文化層については全域について調査を実施している。なお、試掘調査の結果に基づいて、当初Y軸の02列より東側には包含層が広がっていないと判断し、この部分については排土置き場に利用していたが、調査が進むにつれ03-03区の南東端から竪穴住居跡内の炭化材の一部が検出され、さらに東側に遺構が広がることが判明したため、急遽重機にて排土と盛土を除去したが、遺憾ながら竪穴住居の北東側のほぼ半分程はかつての「ため池」を築造した際に破壊され、遺存していなかった。



第3図 K113遺跡北34条地点付近地形図(3) (1:1,000)



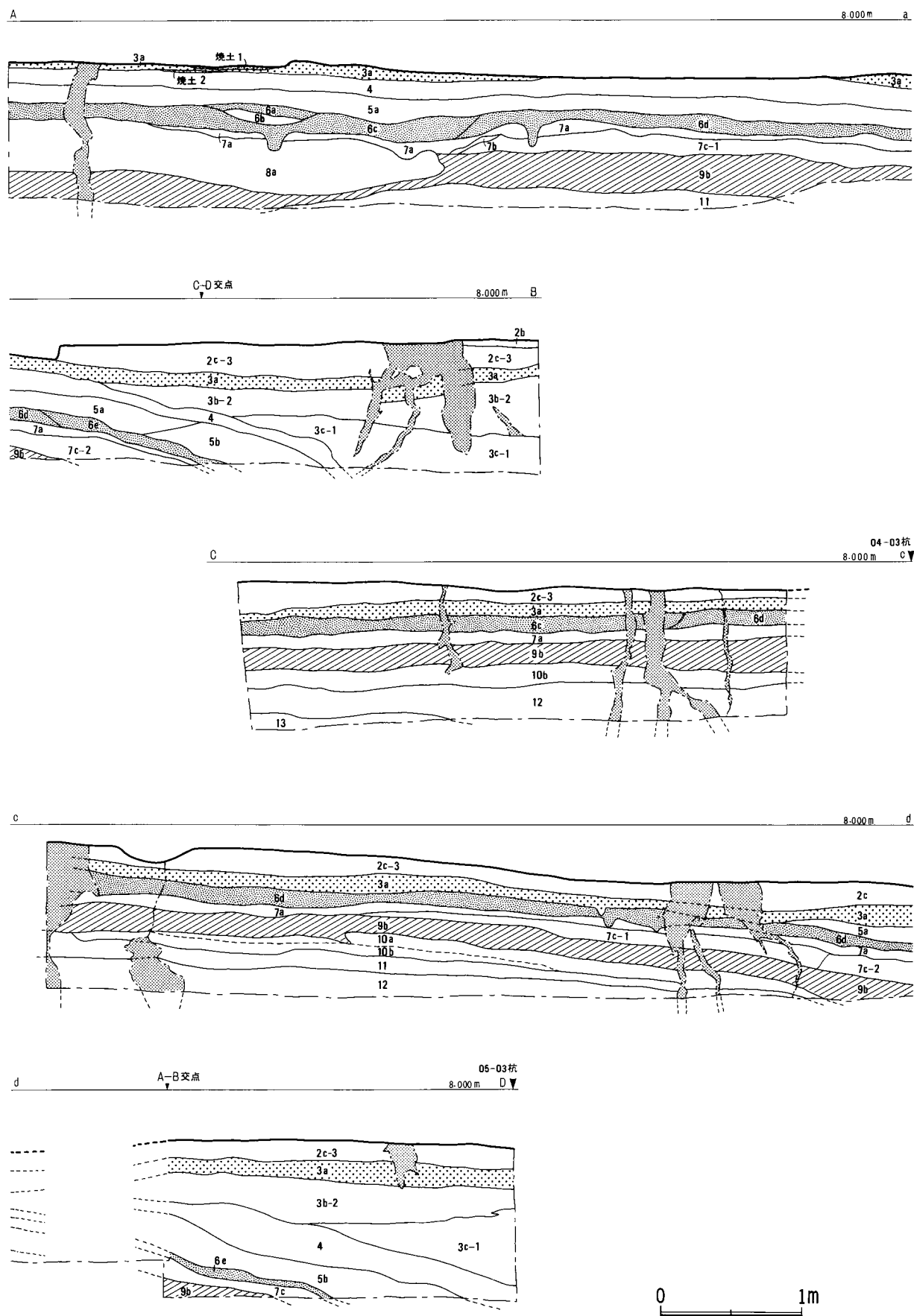
第4図 K113遺跡北34条地点発掘区配置図 (1:400)

第2節 層 序 (第5、6図、図版3A～6B)

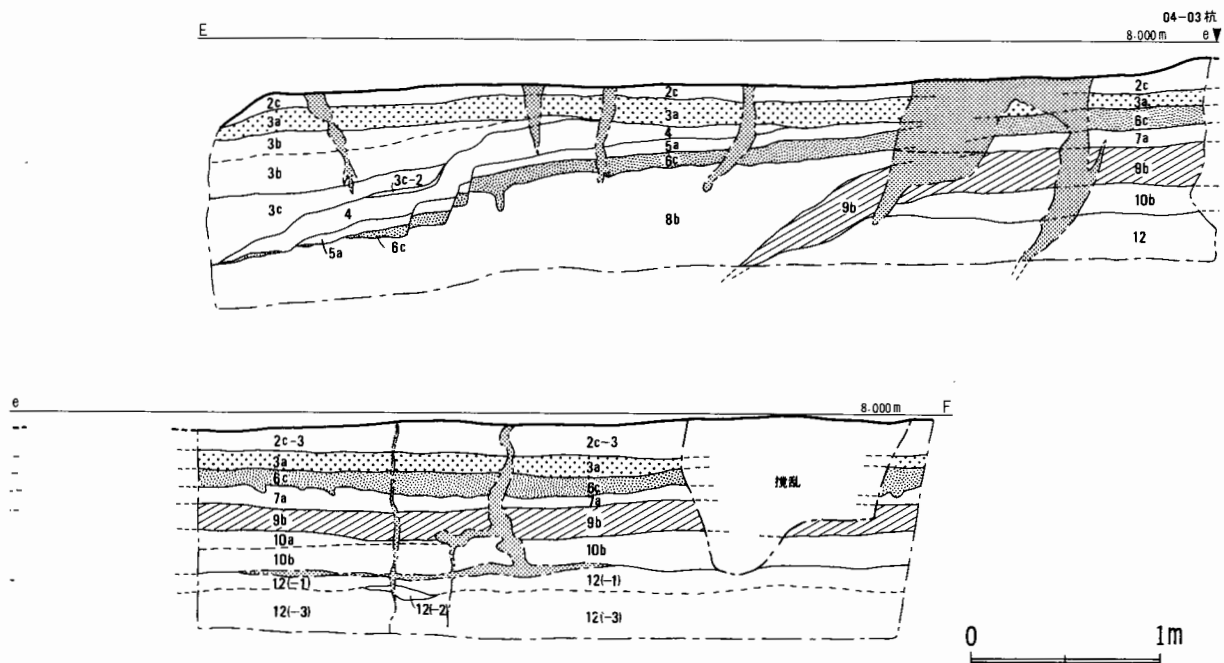
基本層序のセクションは、試掘時点で重機で掘削した「試掘坑12」の北壁側部分 (A-B セクション) と Y 軸の03列 (C-D セクション)、X 軸の04列 (E-F セクション) の3本を取っている。

基本層を列記すると以下のとおりである。

1層：暗黒褐色土層 (旧耕作土)。



第 5 図 K113遺跡北34条地点発掘区セクション図 (1) (A-B、C-Dセクション)



第6図 K113遺跡北34条地点発掘区セクション図(2)(E-Fセクション)

2a層：暗褐色シルト層（耕作土の汚れが及び、堅くしまる。第2号竪穴住居跡のE-Fセクションで見られる）。

2b層：暗灰褐色シルト層（ややしまる。粘性弱い。炭粒点在）。

2c-1層：灰褐色シルト層（粘性強く、しまっている。2c-1、2層については、第2号竪穴住居跡のE-Fセクションでのみみられる）。

2c-2層：暗褐色シルト層（粘性ややあって、しまっている。耕作土と接する部分では暗い色調で淡茶褐色を呈する。02-02区付近では炭化物を多量に含む）。

2c-3層：（暗）灰褐色シルト層（ややしまる。粘性やや強い。所々炭粒群入る）。

3a層：灰褐色シルト層（ややしまる。粘性やや強い。全体に大粒の炭化物等点在する。遺物包含層）。

3b-1層：灰（褐）色シルト層（灰色土粒点在、やや砂質的、しまりは強い。E-Fセクションの西側部分で細分された層）。

3b-2層：灰褐色シルト層（やや砂粒分多いが、粘性ある。炭はなし）。

3c-1層：褐色シルト質砂層（シルト質砂層とシルト層がラミナ状に堆積。しまりなく、粘性もない）。

3c-2層：暗灰色シルト層（黒色土粒点在。E-Fセクションの西側でのみみられる層である）。

4層：（暗）灰褐色シルト層（やや砂質分多く、しまりなし）。

5a層：灰（褐）色シルト層（ややしまり、粘性強い。上部に大粒の炭粒所々みられ、下部は6a～6c層の土粒が点在する）。

5b層：青褐色シルト層（ややしまり弱い。粘性非常に強い）。

6a層：暗茶褐色シルト層（ややしまり、粘性強い）。

6b層：暗灰褐色シルト層（ややしまる。粘性ややある。6a・c層の土粒点在する）。

- 6c 層：黒～黒褐色シルト層（ややしまり、粘性は強い。腐植土層）。
- 6d 層：暗茶褐色シルト層（やや粘性ある。ややしまりある）。
- 6e 層：黒褐色（泥炭質）シルト層。
- 7a 層：灰色シルト層（砂粒分多く、しまりなし、やや粘性はある。6層群の土粒点在）。
- 7b 層：暗茶褐色シルト層（しまりなし。やや砂粒分含む。やや粘性ある）。
- 7c-1層：灰褐色シルト層。
- 7c-2層：青褐色シルト層（ややしまり、粘性は強い）。
- 8a 層：褐色細粒砂層（間層で、A-B セクションの東側で認められた層である）。
- 8b 層：灰褐色細粒砂層（E-F セクションの西側で認められた層）。
- 9a 層：淡青褐～灰褐色シルト（ややしまり、粘性は強い。上部に炭粒点在）。
- 9b 層：淡茶褐色シルト層（大粒の炭化物、骨片と遺物を多く含む。粘性強く、しまりも強い。遺物包含層）。
- 10a 層：（暗）灰褐色シルト層（やや砂質で9b 層の土粒及び炭粒点在）。
- 10b 層：暗灰褐色シルト層（砂質分多く、しまりなし）。
- 11層：灰～褐色細粒砂層（部分的にシルト質で、粘性あるところもある）。
- 12層：（暗）灰褐色シルト層（E-F セクションの05-04区南壁部分では、さらに上から(-1)全体に微量の炭化物を含む部分、(-2)炭化物が数多く混じる部分、(-3)やや砂質度が高い部分の3つに細分される）。
- 13層：灰褐色細粒砂層。

なお、セクションで均一な網をかけて表示した層は、褐色中粒砂層で地震の液状化現象にともなって砂が噴き上げた痕である。平面的な拡がりについては、第4図、付図1、2等に示した。

以上の層群のうち、4層以下の層群については、前節で述べた落ち込み線付近から用地の西側にかけて流れていた河道に向かって整合的に緩く傾斜して堆積している。その後、3b-1～3c-2層等によってそれらの沢部分は埋積され、平坦化された後に、3a 層以降の層群がほぼ水平に堆積している。

これらの層群の内、今回の調査で遺構・遺物が検出された層は、前述したとおり3a 層（上層文化層）と9b 層（下層文化層）である。個々の具体的な内容については後章で詳述しているが、上層文化層が「擦文時代」前期（9世紀代）であり、下層文化層は「続縄文時代」終末期（「北大式土器期」後半＝6世紀代）のものである。従って、その間に挟まれて堆積している「化石腐植土層」である6層群は7、8世紀頃に年代限定できる。6層群については、旧琴似川流域の他の遺跡と対比すると、K435遺跡の「5a 層群」（上野・仙庭編1993）、K460遺跡の「第7層」（上野編1980）、K446遺跡の「第5層」（上野1979）と同一時期の生成層と考えられる。なお、K435遺跡では「5a 層群」から8世紀代の擦文時代早期の遺物が検出されている。

なお、3a 層中検出の遺構群についても、試掘坑12(TR12)の断面でみると、焼土1(F1)は同層中部、焼土2(F2)は同層下部、焼土4A と4B(F4A・B)は同層上部、試掘坑15(TR15)では焼土6(F6)は同層下部で確認されており、営まれた時期に若干の差があることが推測される。

【引用文献】

上野秀一 1979 『K446遺跡』札幌市文化財調査報告書X X

上野秀一編 1980 『K460遺跡』札幌市文化財調査報告書X X II

上野秀一・仙庭伸久編 1993 『K435遺跡』札幌市文化財調査報告書X L II

第3章 遺 構（下層）

9b 層面からは、焼土ないし炭層が2カ所、ピットとして把握したものが2カ所確認されている。

第1節 焼 土（第7図、第6表、図版7A～8B）

9b 層面からは、焼土9、10とした焼土（ないし炭層）が2カ所みつまっている。

焼土9（第7図上、図版7A～8A）

本焼土は、04-04区の9b 層面で確認された例である。その範囲はかなり広く、南西側は敷地外に及んでいたため確認することができなかった。確認できた部分の大きさは167×93cmで、全体としてその形状は半月状を呈する。なお、挿図中に1点鎖線で網を掛けて示した範囲は地震による噴き上げ砂の跡である。

堆積層は、以下のとおりである。

I 層：暗茶褐色土層（大粒の炭化物を多量に含み、また大型の骨片も多くみられ、堅くしまる）。

II 層：茶褐色土層（細かい炭粒が点在。若干砂質的）。

層厚は、全体で7cmほどである。炭化物や骨片の包含量は、場所により多寡がある（図版7A～8A）。土壌のフローテーションの結果では、3.15ℓのサンプルから植物遺存体として、マメ科1片、タデ属1粒、マタタビ属1粒、ブドウ属1片、クルミ属0.21 g、動物遺存体としてコイ科0.01 g、鳥・哺乳類不明骨1.27 g が検出されている（第2～4、6表）。

遺物は、本焼土中およびその周辺から30点以上の資料がまとまって出土しているが、そのほとんどは黒曜石製の石器・剥片・削片、礫（片）である。なお、図中に長めの破線で示した範囲（遺物番号1、2）は、上部の3a 層出土の一括土器の位置を示している。

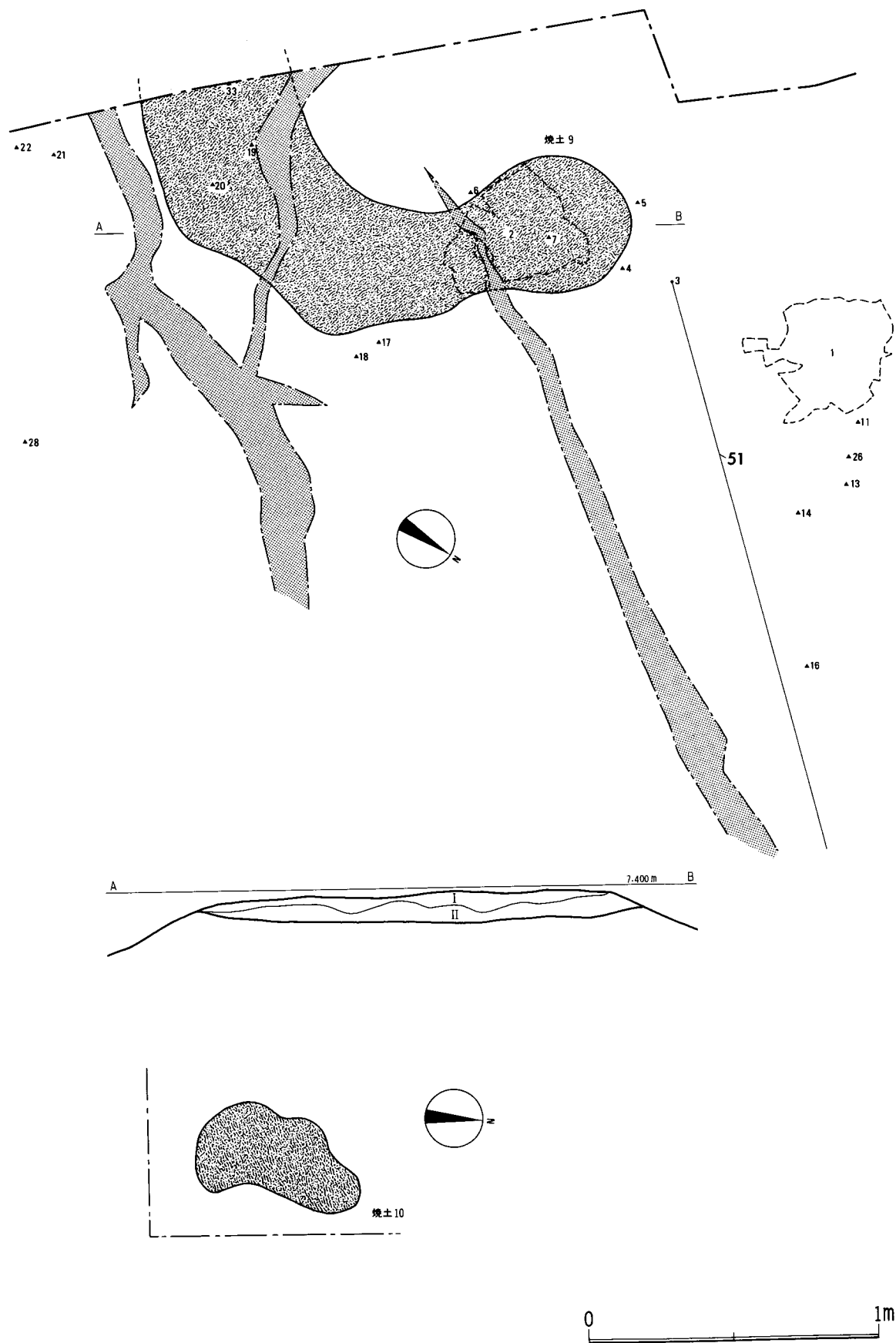
焼土10（第7図下、図版8B）

焼土10とした例は、05-04区南東隅で確認されたもので、層位は9b 層上部である。堆積状況は、9b 層中に大粒の炭化物がやや集中して包含されていた例で、とくに焼土等は認められなかったため、名称としては炭層とした方が適切かもしれない。その大きさは、59×37cm（深さは2cm程度）である。

土壌のフローテーションの結果では、タデ属の種子が1粒検出されたのみである（第4、6表）。

第2節 ピ ッ ト（第8、9図、第6表、図版9A～12A）

第1、2号ピットとしたものは、05-04区にかけた試掘坑13(TR13)およびE-F セクションのトレンチの断面において、6c 層や9b 層などの黒褐～茶褐色系統の土層が局部的に落ち込み、またその下の土層にも乱れがある部分が2カ所確認されたため、調査を実施したものである。



第7図 K113遺跡北34条地点焼土9、10 (9 b層)

第1号ピット (第8図、図版9A、B)

本ピットは、試掘調査時に開けた試掘坑13(TR13)の南壁側の断面において、幅90cm程にわたって6c層や9b層が緩く落ち込んでいる状況が観察され、その存在がわかったものである。

坑内の土層の堆積状況は、基本層序の3a層から9b層までが坑内に向かって緩く落ち込みながら整合的に堆積している状況で、覆土としてかろうじて認識できるのは下記の1層のみであった。

I層：暗灰褐色シルト層（全体に9b層の黒褐色土粒と若干の炭の粒が入る。砂質分多い）。

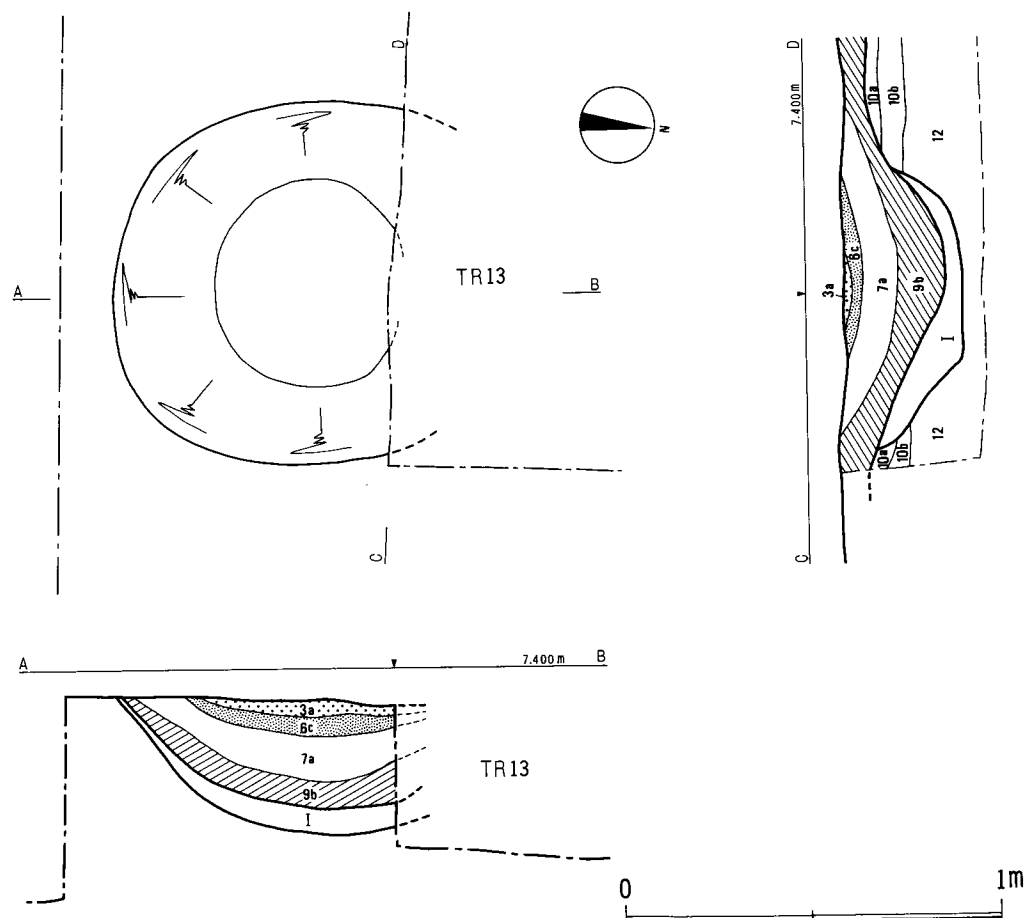
最終的に掘り上がった土層の形状は不整円形で、確認面での現存部の最大長は97cmである。横断面はボール状で、坑底面は狭く、壁の立ち上がりは緩い。掘り込み面と考えられる面は、10a層上面で、そこから坑底面までの深さは25cmある。

人工遺物は、一切検出されていない。

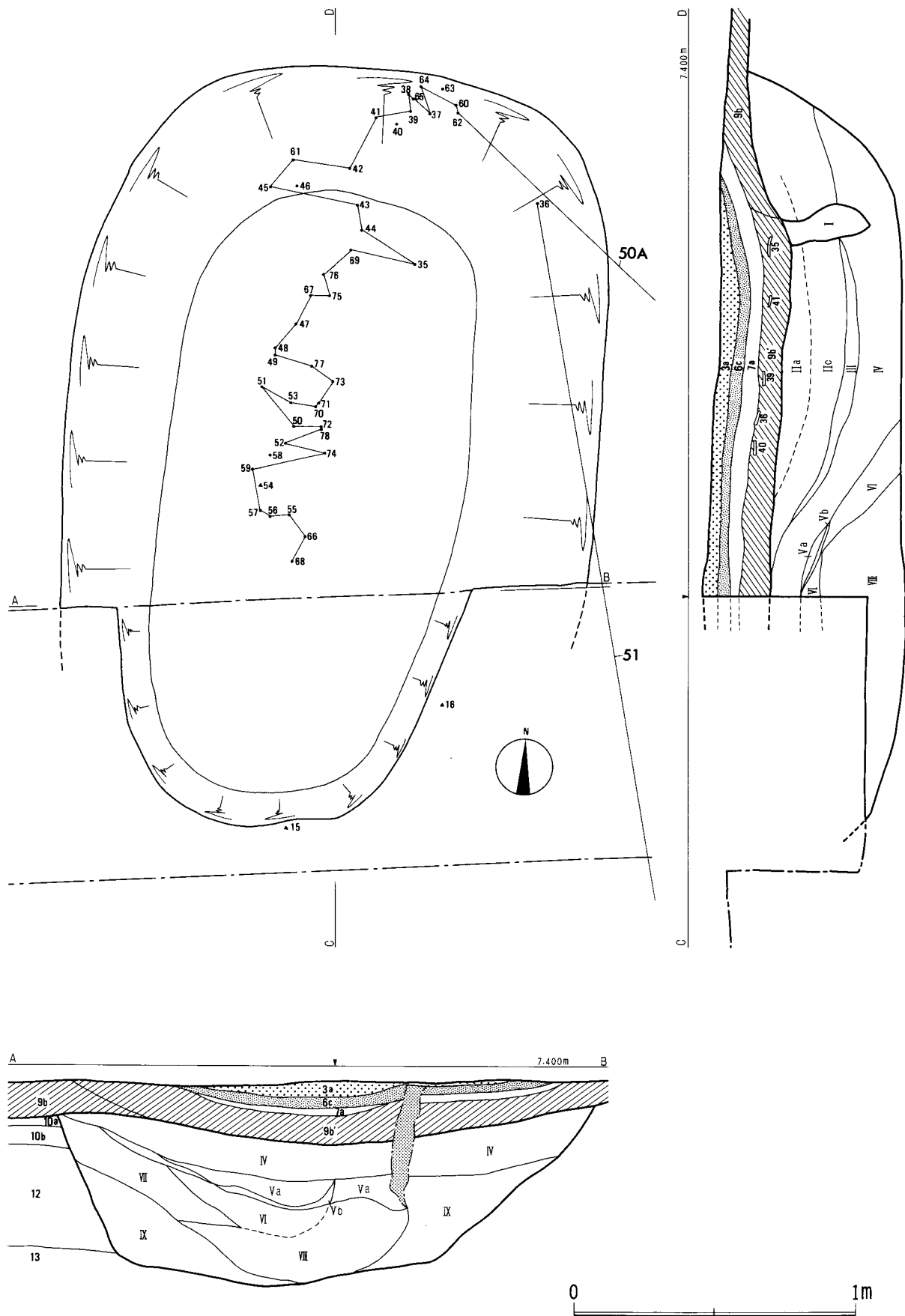
本ピットについては、土層の堆積状況が、なだれ込んでいる各層が水平堆積部分と同様に、比較的均一な厚さのまま整合的に堆積していることやボール状を呈する断面形などからみて、意図的に掘削された土層ではなく、何らかの原因でこの場所に強い土圧がかかり、そのために土層全体が局部的に凹んだ結果である可能性もある。

第2号ピット (第9図、図版10A~12A)

第2号ピットは、05-04区南側に入れたトレンチ (E-F セクション用) の北壁断面において、6c、9b



第8図 K113遺跡北34条地点第1号ピット (9b層)



第9図 K113遺跡北34条地点第2号ピット (9b層)

層等が緩く落ち込み、またその下の土層にも乱れが認められたところから、その存在を確認したものである（図版10B）。

土層の堆積状況は、断面上部に自然堆積層の3a、6c、7a、9b'層が若干の凹みをみせながら整合的に堆積し、その下に下記の土層（いわゆる覆土）が認められた。なお、9b'層は基本的には9b層の範疇に入る土層であるが、土壌の窪みに堆積し、層中に黒色土粒と炭粒を若干含み、また後述するように数多くの遺物を包含していた層である。

I層：暗灰褐色シルト層（黒色土粒、炭粒点在）。

II a層：灰色シルト層（やや砂質分多い、粘性あるが、しまりなし）。

II b層：灰色シルト層（中に炭粒若干含む）。

II c層：灰色シルト層（かなり砂質分多い。粘性、しまりなし）。

III層：暗灰褐色シルト層（炭粒やや多く入る。粘性あるが、しまりなし）。

IV層：灰（褐）色シルト層（炭粒若干入る。砂質分多く、粘性ややある。しまりなし）。

V a層：褐色細粒砂層。

V b層：暗灰褐色シルト層（炭粒点在）。

VI層：灰（褐）色シルト層（砂質分非常に多い。やや粘性あるが、しまりなし）。

VII層：暗灰褐色シルト層（全体に暗い色調。砂質分多く、細かい炭粒点在）。

VIII層：灰（褐）色シルト層（砂質分非常に多いが、やや粘性あって、堅くしまっている）。

IX層：灰褐色シルト層。

この内、I層はII a層上面から入った嵌入状の層である。II a～c、III、IV層等は、覆土上部に全体に緩く凹みながら、ほぼ整合的に堆積している層群で、IV層は土壌全体を覆っているが、II a～c、III層は北側2/3程に堆積しているだけである。一方、V a～IX層までは墳内の南側に偏って堆積している土層群で、層界が不明瞭なところもあり、かなり乱雑な堆積状況を示している。IV層は、V a～IX層群部分ではそれらの上に堆積しているが、北側では墳底面に沿う形でII a～III層群の下に拡がっている。これらの堆積状況は、私見の限りではいわゆる「風倒木痕」に類似したものと理解できる。

なお、覆土からは一切の遺物は検出されていないが、本ピットを覆っている9b'層中からは、図版11 A～12Bに示したように、窪みに投げ込まれたような状態で大量の土器（第10図、図版12B-1）や礫石器（第11図13、14、図版13B）・礫等が検出されている。

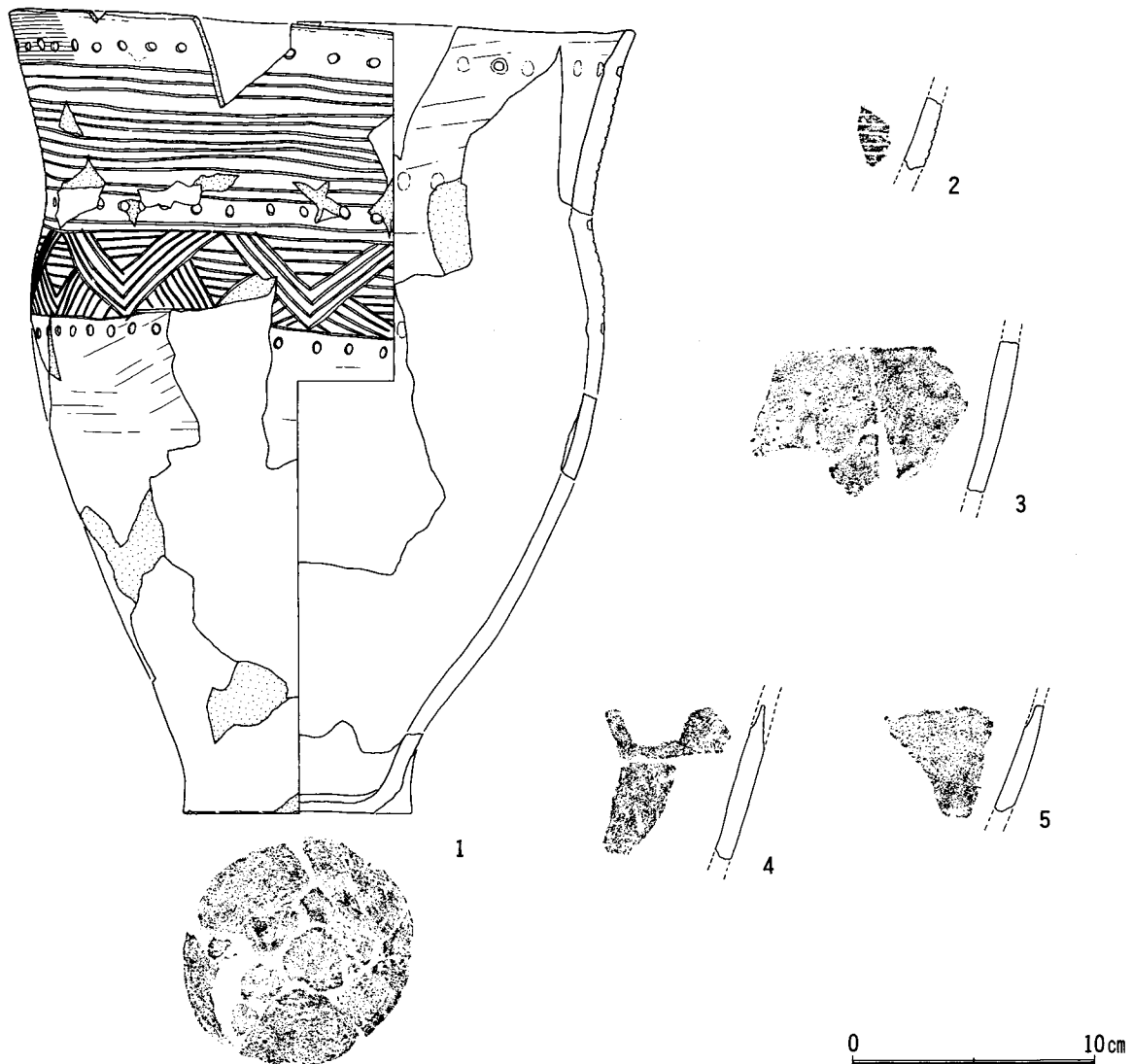
第4章 遺物（下層）

9b層からは、総数157点（総重量3,210.8g）の遺物が検出されている。その内訳は、土器片（深鉢形土器）110点、石器12点、剥片・削片31点、礫4点である（第9表）。

出土区は、9b層が河川微高地に堆積している発掘区の南西側部分である04-03、04-04、05-04、05-05区から出土しているが、集中区は05-04区の南側、04-04区の北西側、04-03区北西側部分の約60㎡程である。

第1節 土器（第10図、第7、10、11表、図版12B1、13A）

本層出土の土器は、第10図に示したとおりである。出土した土器片の半数以上は、1の完形土器（接



第10図 K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物（1）（9b層；土器）

合番号50A；59片）として接合された。

1は、ほとんどの破片が、第2号ピットからまとまって出土したもので、その大きさは高さが33.6cm、口径25.8cm、底径9.4cmで、底径に対し胴張りはやや強く（胴径／底径比率＝2.5）、頸部はややくびれ、口縁部はあまり開かずきつい角度で立ち上がる。口縁部の径と底部の径との比率は2.7である。底面の張り出しはあまり強くはない。また、口唇部までの容積量は、7,000ccである。

文様は、連続的に横方向に施文された円形刺突文が口唇部直下（口縁部上部）と頸部、胴最大幅付近（文様帯の下縁）の3カ所に巡る。工具は、竹管状のもので、先端部はやや不揃いのものである。内面の突瘤については、口唇部直下の例は瘤状の盛り上がり認められるが、頸部と胴部の列には内面の盛り上がりはほとんど認められない。円形刺突文列の間には、口縁部部分では、1本1本引いた細く鋭い沈線文（幅1mmから1mm弱）が12本横走する。頸部と胴最大幅の間には、口縁部と同じ工具で施文した横走沈線文群（8本以上）を最初に引き、その後下半部にハ字状に斜めの同種の沈線文群（9本前後）を施文した後、その上半部にV字状の沈線文群を重ねて施文している。

整形は、口縁部から頸部までの外面側はヨコナデ、胴部はやや風化していて判然としないが、ナデと考えられる。内面もナデのみである。口唇部端もナデで、ほぼ平坦に仕上げている。胎土には、砂・小礫を比較的多く含むが、焼成は堅い方である。外面の胴中央部から口縁部にかけては部分的にはあるが炭化物が付着している。色調は、内外面ともにぶい橙色（Hue7.5YR7/3）を基調にし、上半部の一部はにぶい褐色（Hue7.5YR5/3）、底部付近は二次加熱の影響か橙色（Hue2.5YR6/6）を呈している。なお、底面は平坦であるが、その縁部には環状に黒斑部がある。器厚は、胴部が6mmであるが、口縁部は9mmとかなり厚い。

2～5の資料は、1と同一個体か同種個体の破片である。2は、口縁部の破片で、4～5mm間隔で横走の細い沈線文が巡っている。3～5は、胴部から底部付近の破片である（詳細第7表）。

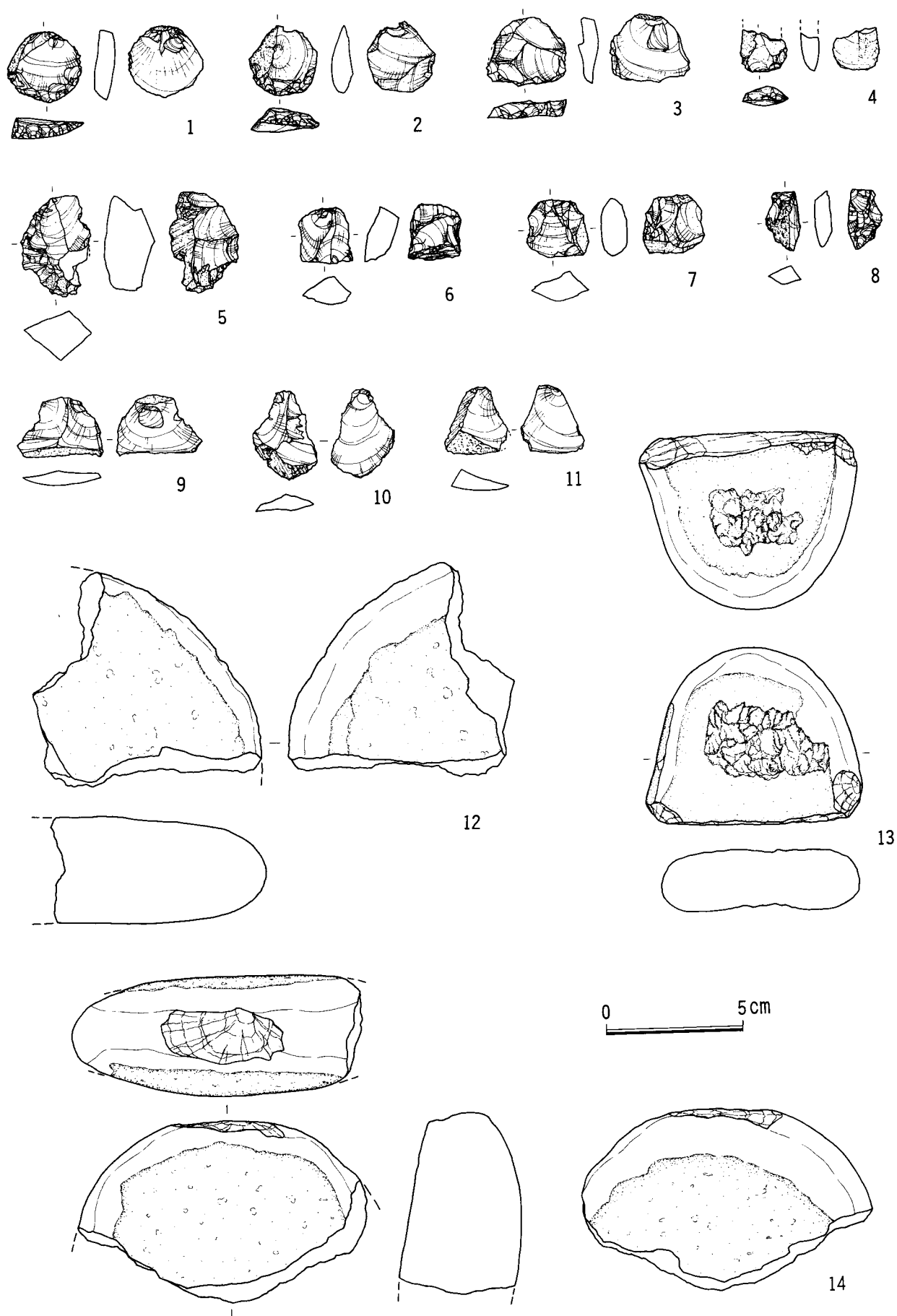
第2節 石器（第11図、第8、10表、図版13B）

9b層からは、黒曜石製の資料が40点（内石器9点）と礫類が7点（内石器3点）がみつまっている。

1～4は、黒曜石製の円形状の搔器類である。1は、側縁に一部原石面を残すが、図示下端縁を中心に円弧状の刃角の高い刃部を作出したものである。2は、全体にやや強く焼けたため、表面は光沢を失っている。素材の打面には原石面を残し、剥片の腹面側の図示面下縁に円弧状に不規則で刃角の高い剥離痕（刃部）が認められる。3は、石核の打面部分を剥取した剥片（？）を素材に、図示下端面（元の石核の側面）に、直角に近い刃角の不規則な剥離列（刃部）がある。4は、小型の資料であるが、全体に強く焼けたため表面が一部融解していると同時に上部が破碎している。やはり図示下端縁に不規則でやや刃角の高い剥離列（刃部）がある。

5～7は、剥片石核である。5は、厚手の資料であるが、二次加熱のため一部熱破碎し剥脱している。裏面側から剥片を生産した後、打面を直交する位置に転位して表面側から最終的に剥片をとっている。6と7は、素材の大きさが2cm近くになるまで、表裏面から剥片を生産した残核である。打面は上下、左右と転位を繰り返している。なお、7はやや強く焼けた資料である。

8は、裏面側の剥離列が上下方向から入り、また剥離の中には溝の深いフィシャー痕が数多くみられたり、随所でヒンジ・フラクチャーがあるところから、上下からの強い力で加圧された石器で、いわゆるピエス・エスキュー（楔形石器）と考えられる。ただし、本資料は、最終的には表面図の右側面に認められる上方向からの加撃で削片（スポール）として剥取されたものである。



第11図 K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物 (2) (9b層; 石器)

9～11は、黒耀石製の横長および縦長の剥片である。いずれも、原石面が一部残っている。とくに加工は認められない。

12から14の3点は、安山岩製の擦石ないし敲石である。12は破片であるが、やや厚手の板状の転礫を素材に表裏面の平坦面を擦面として利用したものである。ただし、擦面そのものはあまり平滑ではなく、使い込んではいない。13は、薄手の板状の転礫を用い、表裏面の平坦面を擦面として利用すると同時に中央部付近を敲打面として使用し、はだけた状態になっている。なお、表面図左側面もストーン・リタッチャー的な敲打によって平坦化した面がある。また、下端面は破損した後に、再度敲打面として利用している。14も大型の礫器の破片であるが、素材は厚手の転礫である。表裏面の平坦面を擦面と使用し、さらに側面を敲打面としても使っている。

第5章 遺 構（上層）

本遺跡の3a層からは、擦文時代の竪穴住居跡2軒と焼土9基がみつまっている。

第1節 第1号竪穴住居跡（第12～14図、第1、6～8、10、11表、図版12B、14A～19）

第1号竪穴住居跡は、04-03区において検出されたものである。本住居跡は、基本層序の6c層（黒～黒褐色シルト層）面まで削土した段階で、西側（壁）と南側（壁）とで基本層序の6c層面を切るかたちで、後述する覆土の灰褐色を呈するⅠa、Ⅱa、Ⅱb層がL字状の輪郭をもって堆積していることが確認され、その存在が明らかになったものである（図版14A）。6c層は本住居跡の北西隅付近から南西隅を結んだ線から北から東側にかけては河川に向かって緩く落ち込み（9b層も合わせて落ち込むところから、第12図および付図では「9b層の落ち込み」と表現している）、さらに途中で消失するため、確認面の段階では東側（壁）と北側（壁）は明確ではなかった。掘り込み面は3a層上面で、その標高は7.700m程である。

平面形は、隅丸（不整）方形で、大きさは主軸方向が4.7m、それに直交する方向が5.0mである。深さは約60cm。主軸はN178°Eで、ほぼ南北方向である。

住居の覆土および周辺の地山等の層内容は、

Ⅰa層：（暗）灰褐色シルト層（全体に暗い色調で、灰色のパミス（?）が小ブロック状に入っている。非常に堅くしまり、粘性はある。覆土の中央部付近に堆積。図版14Aに示したように確認段階で、本層上面にやや大型の炭化材が数本認められている）。

Ⅰb層：灰褐色（砂質）シルト層（灰色のパミス（?）が多く入るが、砂粒分多く、しまりはない。覆土の北壁から東壁側と住居外にかけて堆積している。Ⅰa、Ⅰb層は大まかには基本層序の2b、2c-1～3層に対比される可能性が高い）。

Ⅱa層：灰褐色シルト層（やや砂質的で、やや粘性がある）。

Ⅱb層：灰褐色シルト層（しまりはなし。Ⅱa層より砂粒分多い）。

Ⅱc層：灰褐色シルト層（やや砂粒分含むが、その量はⅡa層とⅡb層の間ぐらいで、粘性はややある。東壁側の一部にみられるのみである）。

Ⅲa層：（明）灰褐色シルト質砂層（粘性、しまりなし）。

Ⅲb層：灰褐色砂質シルト層（Ⅲa層より褐色味強く、砂質分も多い。炭粒所々入る）。

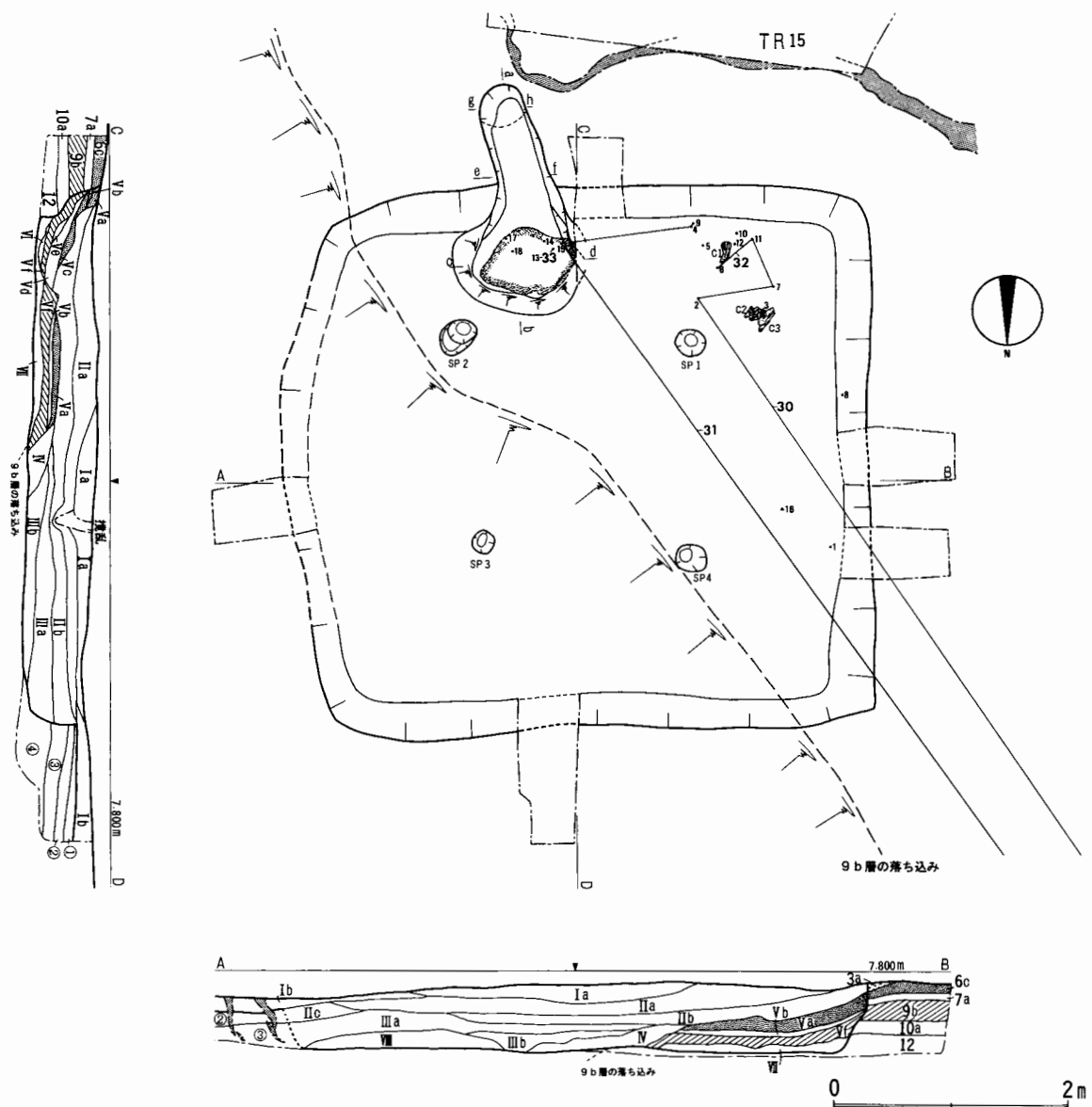
Ⅳ層：灰～灰褐色シルト層（粘性強く、ややしまる。一部炭粒点在。覆土中央の床面付近にのみ堆積する）。

Va層：淡（茶）褐色シルト層（黒褐色土粒不均一に入る。Va～Vf層群は、基本層序の6c層および9b層が堆積する住居跡覆土の南壁から西壁側の南西側部分にのみ堆積している。Va層は、6c層起源の二次堆積層の可能性が高い。なお、A-BセクションのポイントB側でVa層中に破線で図示した範囲は6c層の崩落層である）。

Vb層：暗灰褐色シルト層（間層。粘性、しまりある）。

Vc層：淡茶褐色シルト層（Va層と同起源、同性状の層である）。

Vd層：灰褐色シルト層（間層。粘性やや強いが、しまりない）。



第12図 K113遺跡北34条地点第1号竪穴住居跡（3 a層）

V e層：灰褐色シルト層（V d層よりさらに粘性強く、V f層の汚れた土粒点在）。

V f層：淡茶褐色シルト層（性状は、V a、V c層と類似するが、起源は基本層序の9b層である可能性が高い）。

VI層：赤褐色焼土層（かまどの関連層で、後述するD層に対応する）。

VII層：暗灰褐色（砂質）シルト層（V a～V f層群の下に床面上に堆積する層で、汚れた土粒が点在する。砂質で、粘性・しまりない）。

VIII層：灰色シルトと褐色砂ないしシルト質砂層との互層（A-Bセクションの東側にのみ認められる堆積層で、上部はシルトの薄層厚く、下部はシルト質砂層が主体である。起源は明確にはできなかったが、後述する地山層の①～③層に由来する二次堆積層である可能性もある）。

地山の層は、住居跡の南壁から西壁側の南西側部分については、基本層序と対比可能なため基本層

序名で表示したが、北壁側から東壁側部分については基本層序との対応が不明確なため、個々に示しておく。

①層：暗灰褐色シルト層（全体に暗い色調で、粘性およびしまり強い）。

②層：灰褐色シルト層（しまり弱い、やや粘性ある。砂粒分はやや多い）。

③層：灰褐色シルト質砂層（しまり弱い、やや粘性ある）。

④層：褐色細粒砂層（所々に水平に灰褐色の砂の薄層が入っている）。

以上の層については、①層は基本層序の3a層、②～④層は6層群や9層群が落ち込んだ部分に厚く堆積している3b-1、3b-2、3c-1層等に大まかには対比できる。なお、A-BセクションのポイントA付近に網をかけて示した縦方向の層は褐色中粒砂からなる層で、地震による噴き上げ砂の痕である。

ところで、本住居跡の地山と覆土との層区分については、前述したようにA-BセクションのポイントB側とC-DセクションのポイントC側（北壁側から東壁側部分、図版15A、B、16A）については、地山層が基本層序と対比でき、また6、9層群といった明らかに色調・性状が異なる層が堆積しているため、層界は明瞭であった。しかし、南壁側から西壁側（ポイントAとD側）部分については、覆土と地山と考えられる層との境目が明確ではなく、その中でもポイントD部分（図版16B）については、II b層と③層との土質の差から層界を判断できたが、ポイントA部分（図版17A）についてはII c層と②層、III a層と③層とが非常に類似した層であったため、遺憾ながら明確には分層できなかった。東側壁の中央付近の外形線がやや外側に膨れているのは、掘り過ぎである可能性もある。

柱穴は、各コーナーから各1本ずつ、都合4本みついている。南西隅からみつかったSP1は、確認面での大きさが26×23cmで不整円形を呈し、深さは50cmある。SP2は、南東隅検出の例で、本体は22×21cmの不整円形で、深さは34.4cmある。なお、柱穴本体の北東側には深さ5cmほどの浅い張り出しが認められた。SP3は、北東隅検出のもので、大きさは19×18cm、確認面での外形は不整円形である。深さ30cm。SP4は、北西隅検出の例で、大きさは26×23cmで、平面形は隅丸の不整長方形である。深さは、14.7cmと浅い（第1表）。柱穴間の距離は、1.7～1.9mである。

なお、住居跡の南西隅付近から検出されたC1～3の炭化材（第12図）は、II a層中に含まれていたもので、フローテーションの結果では、各々からタデ属の種子とC2から微量の不明魚類の骨が検出されたのみである（第2、4、6表）。

かまど（第13図、図版17B～18B）は南壁側にあるが、位置は中心部より約50cmほど東によっている。燃焼部の周りには袖の痕跡と考えられる高まりが確認され、その中に86×63cmの大きさの赤く焼けた不整楕円形の火床がある。煙道の方向はN167°Eで、住居の主軸に対し11°東に傾いている。その長さは焼土面の端から約1.2mある。

かまどの層序は、

A層：（暗）灰褐色シルト層（若干黒色土粒入り、粘性ある。A～C層は、煙道の煙出口の覆土堆積層である）。

B層：（暗）茶褐色シルト層（粘性あって、黒色土粒不均一に多く入る）。

C層：明灰褐色砂質シルト（周囲の地山よりは粘性強く、しまりない）。

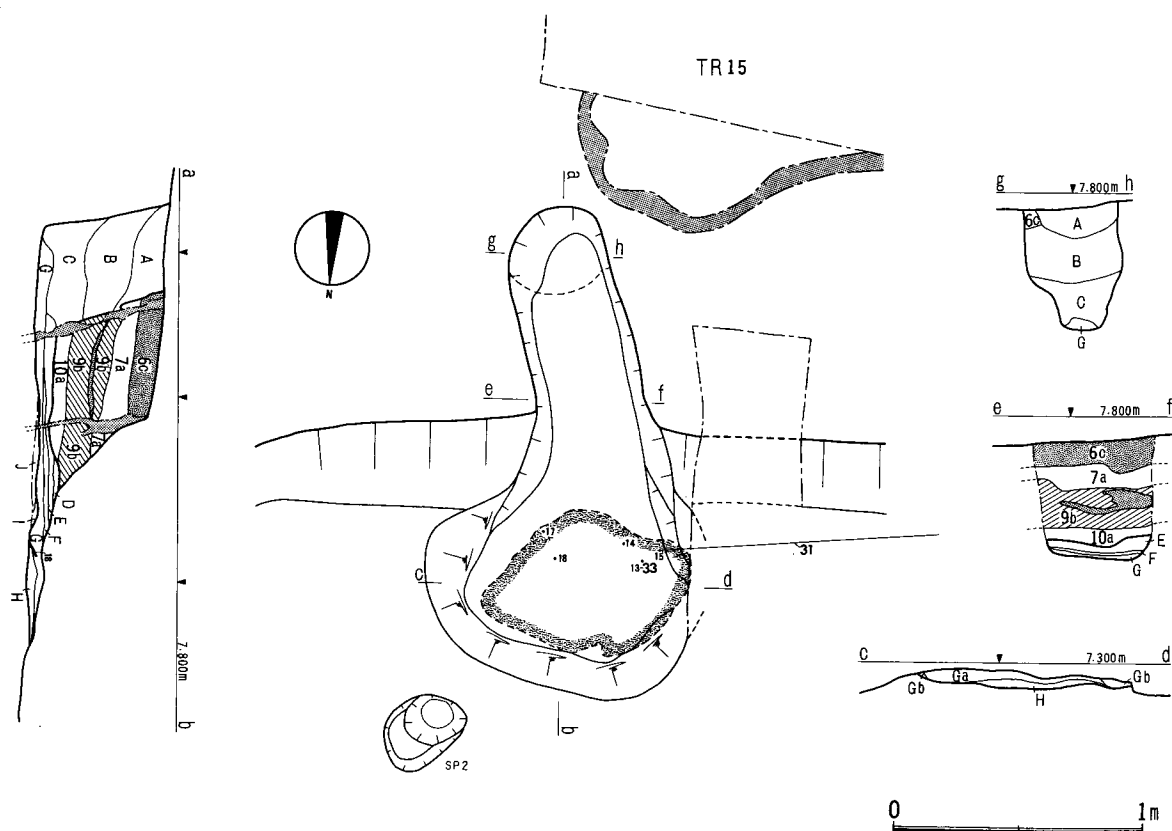
D層：（暗）灰褐色シルト層（上下の層界が焼けて茶褐色を呈する）。

E層：灰褐色シルト層（一部淡赤褐色で加熱うけている）。

F層：淡赤褐色シルト層（すすけた状態で、炭化物含）。

Ga層：暗赤褐色土層（大粒の炭化材と二次的な堆積の焼土粒が多く入る）。

Gb層：茶褐色土層（Ga層の周辺に堆積した暗色部分）。



第13図 K113遺跡北34条地点第1号竪穴住居跡かまど（3 a層）

H層：灰褐色灰層（多くの骨片を含む灰層）。

I層：明赤褐色（焼）土層（火床の床面で、二次加熱をうけた所。地山層）。

J層：灰褐色（砂質）シルト層（地山層）。

これらの堆積状況でみる限り、煙道部分はトンネル状に掘り抜いたものである。

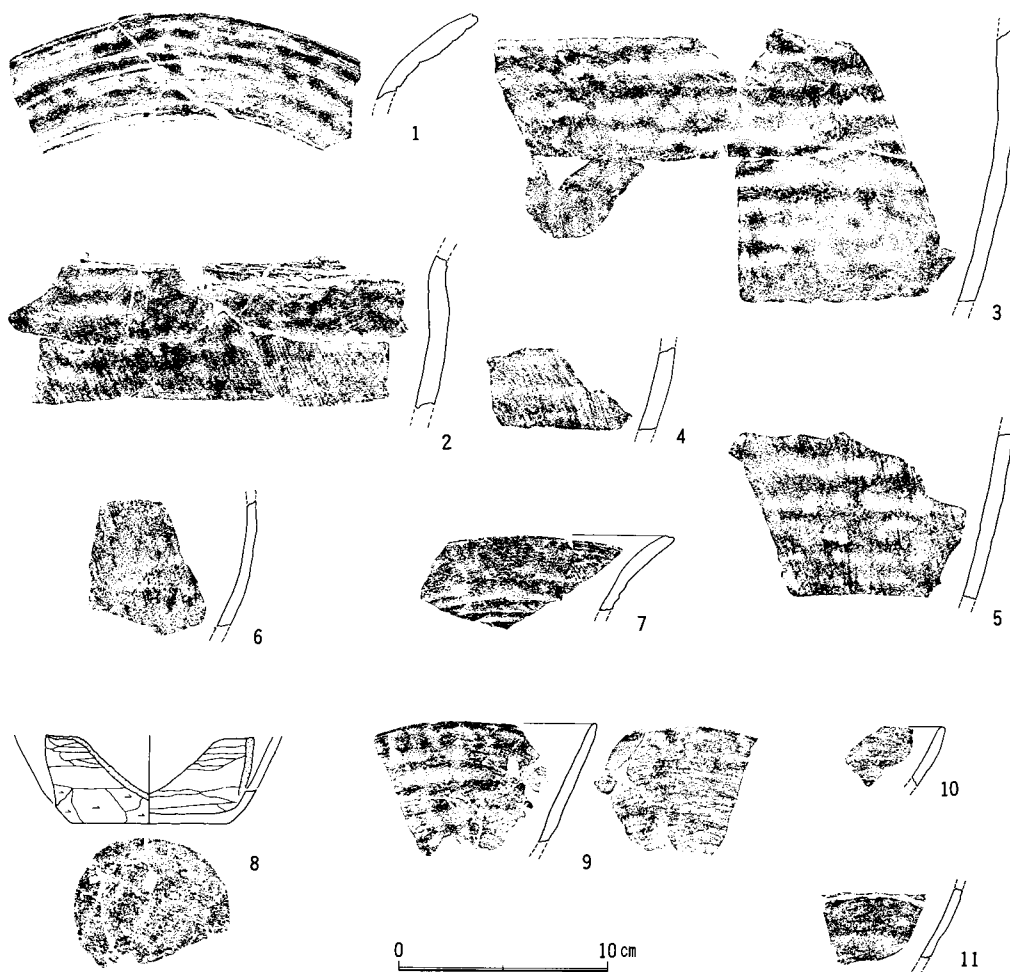
かまどの火床付近のG、H層等から採取した土壌のフローテーションの結果では、植物遺存体はアワ6粒、不明ミレット14粒、動物遺存体はサケ科が6.2g（顎歯0.65g、椎体4.55g、部位骨1g）、コイ科0.2g（腹椎、尾椎）、魚類不明4.72g（椎骨、肋骨、魚棘等）、鳥類不明0.01g、哺乳類不明0.05g、貝殻片0.01g>が検出されている（第2～4、6表）。

遺物の測点は18測点（点数は34点、3,649.8g）で、層位的にはV a～f層出土が7測点（9点）、VII層（床面直上）出土が6測点（7点）、かまど火床出土が5測点（17点）である（詳細は第10表参照）。出土区は、南西コーナー付近と西壁、かまど火床で、総量としては少なかった。内訳は、フローテーション検出の土器1点も加えると、土器31点（甕13点、坏18点）、大型礫2点、軽石1点である（第9表）。

遺物（第14図、第7、8、10、11表、図版12B-2、19）

第14図に本住居跡から出土した土器片を図示した。

1～7は甕で、その内1～5は同一個体である可能性が高い。1は、口縁部片で破片下部に頸部の括れに



第14図 K113遺跡北34条地点第1号竪穴住居跡出土遺物（3a層；土器）

入った沈線文が1本残り、また口唇部から口縁部中段にかけては、ヨコナデ整形した範囲が段がつくかたちで明確に確認され、また輪積み痕も部分的に残っている。器形は、頸部から「く」の字状に一気に大きく開くものである。2と3は、頸部の括れ部分から割れた胴部片で、破片上部には頸部に入った沈線文の一部が残っている。また、3の内面には2cm程の間隔で輪積み痕が認められる。6は、器厚はやや薄手であるが、全体の丸みが強く、また二次的に焼けて橙色の色調を呈しているところから、底部に近い破片と考えられる。7は、かまどから出土した口縁部片で、口縁部の開きはやや小さく、頸部の括れが口縁部文様帯の中央付近から認められ、この部分には浅い段状沈線文が複数条巡る。

8～11は坏で、いずれもかまどから出土したものである。8は、底部の破片で、胴部の立ち上がりはきつい資料である。整形は、外面の下半はヘラケズリ、その上と内面はヘラミガキである。器厚は、4mmと非常に薄い。底板の外面整形は、ナデであるが、全体に5mm程と薄く仕上げられ、また非常に平坦で、一部砂粒子が動いている部分もあるところから、それ以前にケズリ整形されている可能性もある。胎土中には、砂粒分が比較的多く入っている。9、10は、口縁部片である。9は破片下部に丸みが認められるが、その上はきつい立ち上がりである。10は口唇部付近で心持ち内彎傾向が認められる。ともに、整形は内外面ともにヘラミガキで、9の口唇部端は丸みがあるが、10では上端はやや平らに仕上げている。11は、胴下半部分の破片で、上部に浅い沈線文があり、全体として内彎状に開くが、下部はやや括れて、立ち上がりがきつくなっている。

第2節 第2号竪穴住居跡（第15～19図、第1、6～8、10、11表、図版20A～27B）

第2号竪穴住居跡は、03-02・03、02-02区でみつかった例である。住居の存在は、03-03区で基本層序の6c層上面を精査していた段階で、後述する住居跡覆土に堆積した炭化材の一部が検出され、その後南東側部分について6c層上面で精査を行った結果明らかになったものである（図版20A）。しかし、最終的には住居跡の北側から東側にかけての半分以上は、後世の「ため池」の築造によって破壊され、全体を把握することができなかった。掘り込み面は、3a層上面で、その標高は8.150m程である。

平面形は、隅丸（不整）方形と推定され、大きさは主軸方向が7.16m、それに直交する方向が現存部で7.24mである。確認面からの深さは約50cm。主軸はN200°Eである。

住居の覆土および周辺の地山等の層内容は、

I層：（明）灰褐色砂質シルト層（炭化材点在。E-FセクションのI層とIII b層との層界には灰色シルトの土粒点在）。

I（-1）層：灰褐色シルト層（やや砂質、やや粘性あって、しまる。I（-1）～（-3）層は、A-BセクションのポイントA側でのみ分層できた層群で、層界には炭化物がかんでいる）。

I（-2）層：灰褐色砂質シルト層（しまりなし、砂質強い）。

I（-3）層：灰褐色シルト層（砂質分多いが、ややしまる）。

II層：暗赤褐～暗茶褐色シルト層（焼土、炭化物を多量に含む）。

III a層：茶褐色シルト層（III b層より全体に暗い）。

III b層：淡黒灰色シルト層（粘性・しまり強く、黒色土粒（一部炭化材）全体に入る。灰褐色シルト土粒の含量多く、やや明るい色調）。

III c層：淡黒灰色シルト層（堅くしまり、粘性も強い。VII層より細かい炭粒、黒色土粒が均一に入る）。

III d層：暗灰色シルト層（若干汚れある）。

IV層：黒褐色シルト層（炭化物・黒色土粒を多く含む層で、E-Fセクション部分でIII c層とVI層との間層として入る）。

V層：灰褐色シルト層（E-Fセクションの壁の肩に堆積した土層で、やや粘性あって、しまっているが、地山層より砂質的である）。

VI層：暗灰褐色シルト層（黒色土粒点在。粘性強く、しまる）。

VII層：暗灰色シルト層（多量の黒色土粒と炭粒点在し、色調が全体に暗い層。非常に粘性が強く、しまる。大粒の炭粒、黒色土粒点在。壁沿いの肩口に堆積している）。

以上の層の中でII～III層群中に数多くの炭化材が包含されていた。

地山層は、基本層序と対比できる部分については基本層序名で表示したが、A-Bセクションの床面の下の土層については対比が困難なため別記する。

(1)a層：暗灰褐色シルト層（黒色土粒を若干含み、粘性は強い。しまりはIII c層よりは弱い）。

(1)b層：褐色シルト層（A-Bセクションの東側の一部でみられる層。リモナイトを多く含み、色調は暗い。粘性は強いが、(2)層との層界は不明瞭である）。

(1)c層：暗灰褐色シルト層（黒色土粒点在する）。

(2)層：灰色シルト層（非常に粘性強いが、しまりない。基本層序の12層に対応すると考えられる）。

(3)a層：灰（褐）色シルト層（やや砂質的であるが、よくしまり、やや粘性ある）。

(3)b層：青色シルト層（やや砂質であるが、粘性もややあり）。

(4)a層：青色シルト層（やや砂質、しまりない。やや粘性あり）。

(4)b層：青色砂質シルト層。

(1)a～c層については、床面下に不規則な形で堆積する土層で、いずれも黒色土粒等を含み、二次堆積した状態を示すところから、住居構築時に掘った後に埋め戻した土層の可能性が高い。とくに、第15図の平面図の西北西壁沿いに破線で示した範囲は、不規則ではあるが溝状に(1)a層の堆積が認められた部分である（図版20B～21B）。

なお、A-B セクション部分を中心に地震による噴き上げ砂が厚く堆積している状況が認められた。層内容は以下のとおりである。

イ層：灰褐～褐色細（～中）粒砂層。

ロ層：褐（～茶褐）色細粒砂層。

ハ層：灰褐色細粒砂層。

ニ層：褐色中粒砂層。

柱穴は、かまど側の2本が確認されている。SP1は、西南西のコーナーでみつかった例で、確認面の形状は不整楕円形（大きさは45×32cm）で、深さは約49cmである。SP2は、南南東側のコーナーからみつかったもので、本体の大きさは37×34cm（不整三角形）であるが、その周りに84×70cmの浅い張り出しがある。深さは、56.4cm。柱穴内の覆土上部の土壌サンプルのフローテーションの結果では、SP1からはサケ科の骨が若干量（0.01 g >）、SP2からはタデ属の種子6粒とサケ科の骨が微量（0.01 g >）検出されている（第2～4、6表）。

なお、本住居跡では前述したように床面直上の層から数多くの炭化材、炭化物と焼土がみつかり、焼失家屋と考えられる（図版23A～25A）。ただし、炭化材そのものは焼けが強く、元の材の形状を伺い得ない例が多いが、西北西壁側の中央付近にある例は東西方向に5、6本の炭化材が並んで検出されている（図版24A）。

かまどは、南南西壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は住居内にあって、周りには袖の痕跡を示す高まりが環状に認められる。なお、東南東側の袖にはほぼ完形な土器（第17図2）の一部が埋設されていた（図版24B、25B）。袖の内側は加熱のため赤褐色に変色し、その中央部分は46×26cmの大きさ（不整楕円形）で浅く凹んでいる。煙道は、先端部分は敷地境界に近いので確認することができなかったが、方向はほぼ住居の主軸と平行していた。

かまどの層序は、以下に示したとおりであるが、一部住居跡の覆土の堆積層とのつながりから共通のローマ数字で表現している層もある。

Aa層：暗灰色シルト層（暗色部）。

Ab層：暗茶褐色シルト層（6c層の崩落、二次堆積層）。

Ba層：暗灰褐色シルト層（若干黒色土粒を含む程度）。

Bb層：淡茶褐色シルト層（黒色土粒を多量に含む。粘性あるが、しまりはない）。

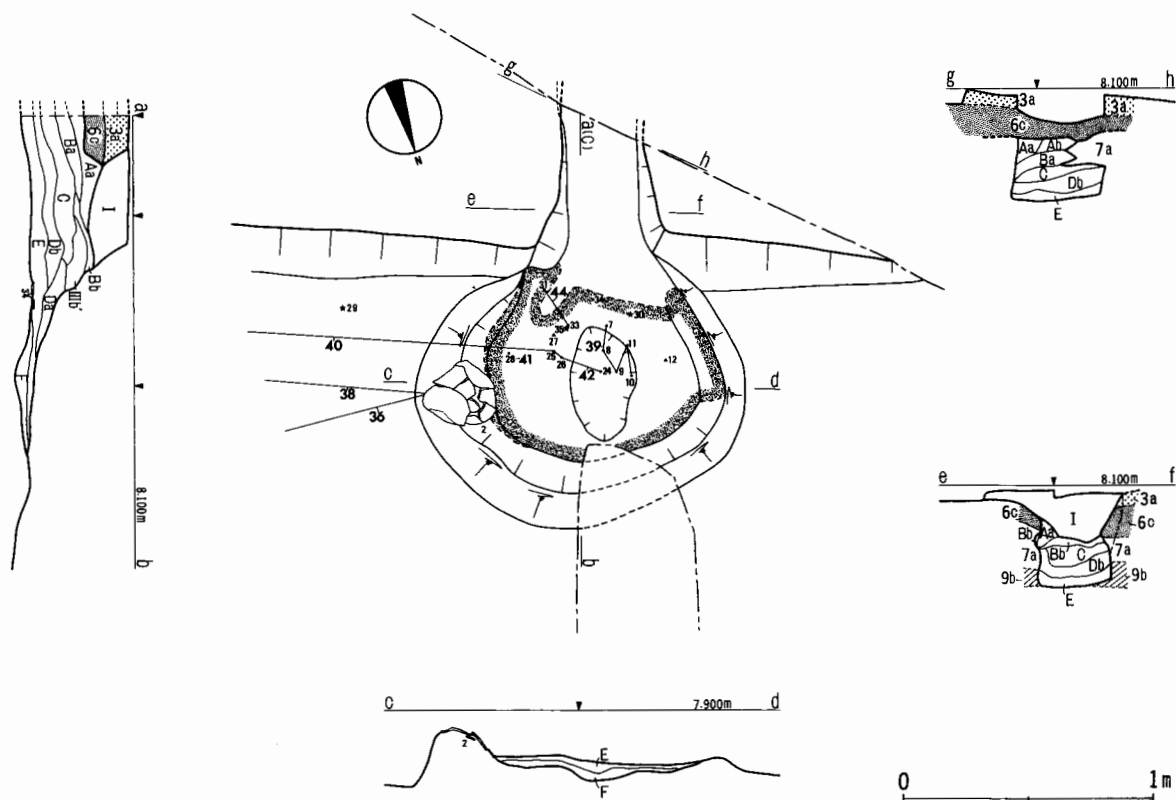
III b'層：（暗）灰褐色シルト層（竪穴覆土のIII b層に対応するかまど付近の堆積層。粘性あるが、しまりなし。灰色シルト層中に所々すすけた状態が及び、若干の炭粒が入る）。

C層：（暗）茶褐色シルト層（すすけた状態で、二次加熱を受けて全体に赤黒い色調を呈する。粘性あるが、しまりなし）。

Da層：暗灰褐色シルト層（粘性あって、部分的にすすけた状態の所がある。崩落した間層）。

Db層：淡（赤）褐色シルト層（全体に二次加熱で淡いピンク色を呈する。崩落した間層）。

E層：暗赤褐色焼土層（全体に黒くすすけた状態で、二次加熱のため赤色化している。粘性あって、炭化材若干分布）。



第16図 K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡かまど（3a層）

F層：灰褐色灰層（細かい骨片多く含む）。

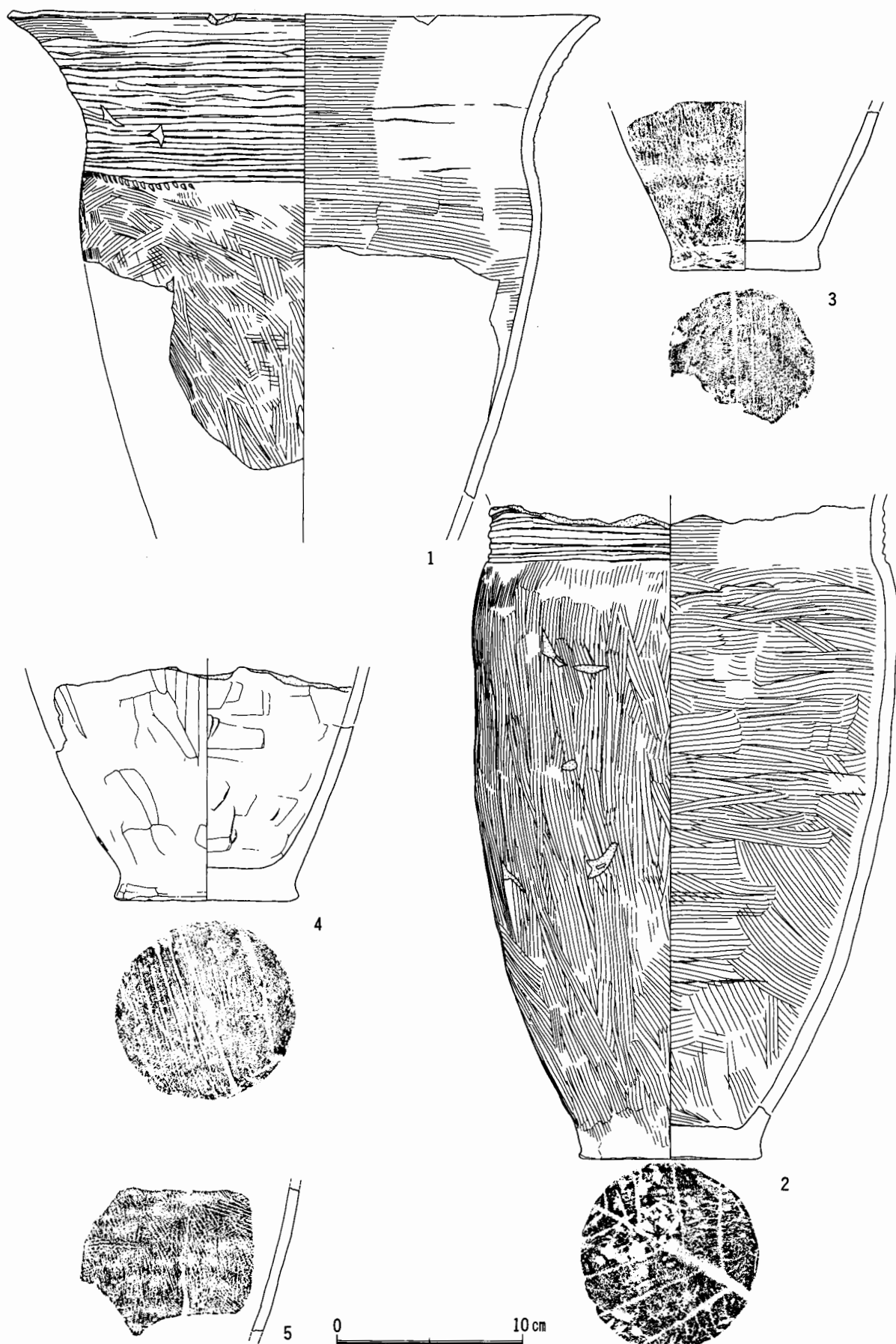
以上の土層堆積状況からみると、煙道の火床側は上からの掘り抜きと判断されるが、セクションa-bやg-hにみられるように、煙出口側は自然堆積層の5a、6c層が煙道部分を覆うように水平に堆積している状況を見ると、途中からトンネル式に工法を変えているものと推考される。煙道本体の層はE層およびF層である。

かまどの火床部分のE、F層からサンプリングした土壌のフローテーションの結果では、植物遺存体としてはキビ1粒、ニワトコ属2粒、不明ミレット3粒、動物遺存体はサケ科0.53g、チョウザメ科0.01g、コイ科0.04g（椎骨）、ニシン科0.15g（椎骨、前耳骨）、魚類不明1.06g、鳥・哺乳類0.13gが検出されている（第2～4、6表）。

遺物については、測点数は35点（総数123点、5,892.2g）で、層位的にはIII b、c層出土例（かまどの東南東側と住居の北北西側に集中）が24測点（92点）、かまど（火床）出土例が11測点（31点）である。内訳は、土器111点（甕95点、坏16点）、紡錘車2点、棒状礫3点、大型礫片1点（焼けている）、小型礫5点（シルト岩）、焼成粘土塊1点である（第9表参照）。

遺物（第17～19図、第7～11表、図版26～27B）

第17図1～5は、甕である。1は、SP2の周りからまとまって出土した資料で、胴中央より上は遺存するが、下半は大きく欠損している。全体の器形は、胴張りは弱く、頸部が若干括れた後次第に開く器形である。頸部から口唇部下2cm程の部分までは、浅い段状に展開する横走の沈線文群が数多く巡り、口縁部文様帯を形作っている。横走沈線文群の下縁には、角張った工具の角を斜めに刺突した三角形



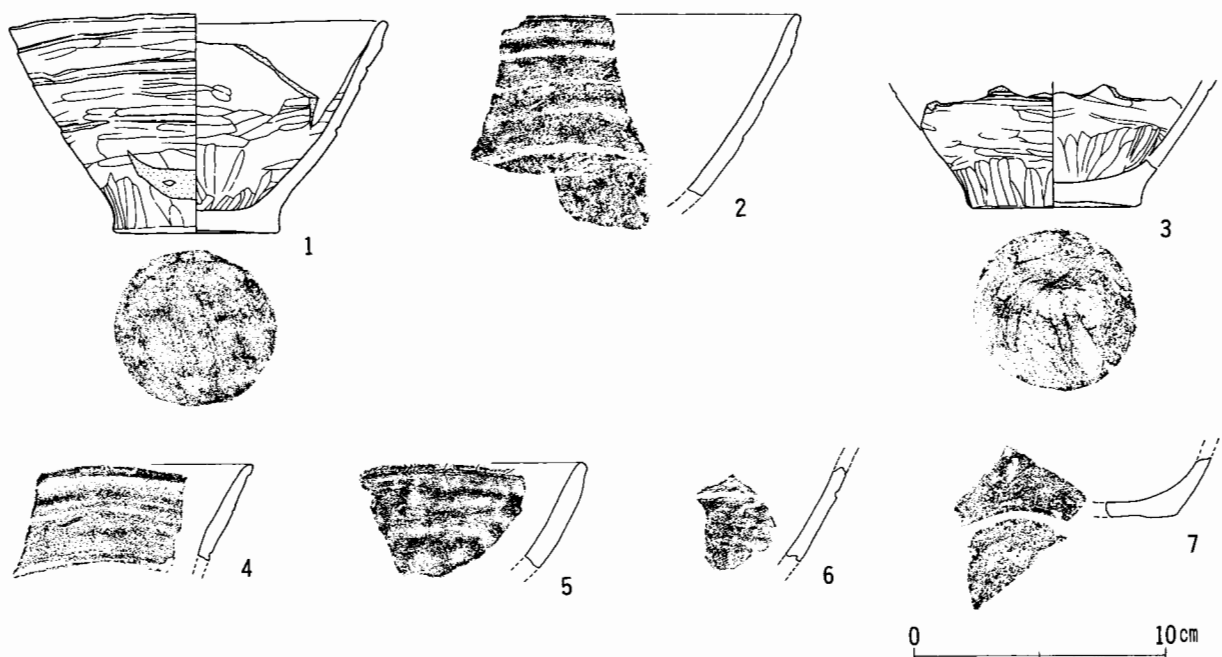
第17図 K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡出土遺物 (1) (3 a層; 土器)

刺突文が全周の2/5程巡っている。整形は、外面は胴部がハケメ、口唇部直下はヨコナデ、内面は口縁部（から頸部）部分是一部ハケメ痕が残るが最終的には粗いナデ、胴部分はハケメで一部ナデで消されている。口唇部端はナデである。内外面には薄く炭化物が付着する。

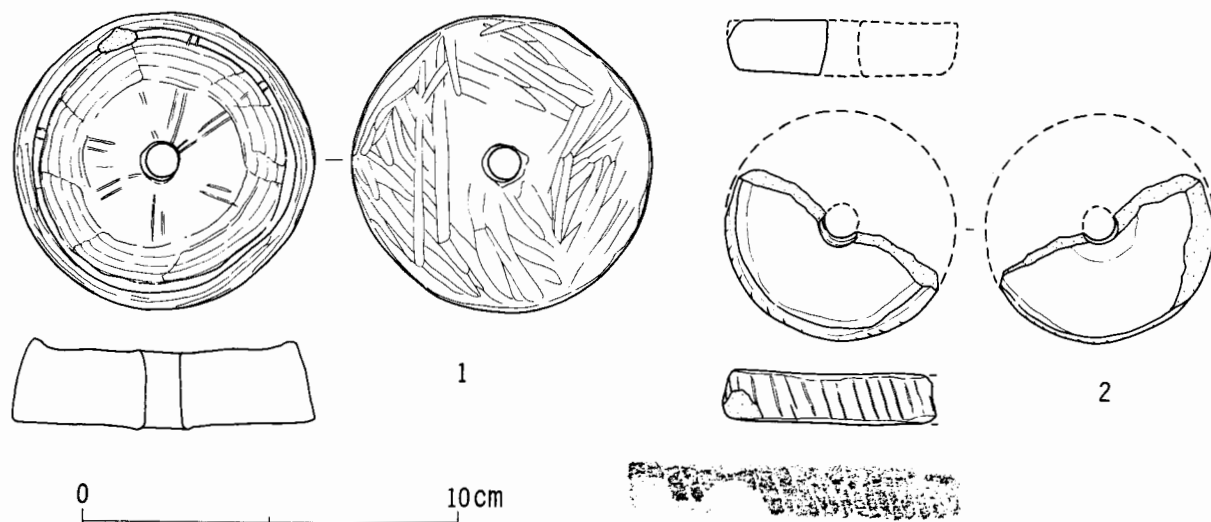
2は、かまどの袖部分を中心に検出された資料で、口縁部部分と図示面裏側の胴部分（胴全体の1/3程）は欠損する。底面は径9.8cmと大きいが、胴部の広がり弱く、胴張りはほとんどないため、全体に狭長な器形である。頸部はやや強く括れ、この部分にはやや幅広で深い横走沈線文が巡るが、全体の流れとしては段状の展開である。整形は、外面の胴部は縦のハケメ、内面は口縁部分はナデ、胴部分は横のハケメである。底板の外面には、枝状に葉脈が走る葉の痕がある。底の内面側は指の爪痕が一面つけられている。炭化物が内面の上半部の一部に厚く付着していた痕跡がある。胎土中には、砂粒分がやや多く含むが焼成は堅緻である。

3、4は、底部片である。ともに、底部に張り出しが弱いながら認められ、底面には笹の圧痕がある。整形は、3の方は外面がハケメ、内面はナデ、4は内外面ともナデであるが、内面には工具のあたりが認められ、ヘラナデと理解できる。5は、胴部片で、2の個体の一部である可能性が高い。

第18図1～7は坏である。1は、かまどの東側の壁よりからみつかったほぼ完形の資料で、器高8.7cm、口径14.9cm、底径6.5cmの規格で、容量は0.52ℓある。底面部分はやや括れるが、その上はきつく直線状に立ち上がる。口唇部直下から体部中央にかけて都合3本の沈線文がある。下2本の沈線文は、やや深くしかも明瞭な段を形成するかたちで施文されているが、口唇部直下の沈線は口唇から7、8mmの部分強いナデで若干凹まし、結果的にその境目に段を形成し、沈線状にしたものである。口唇端部は丸味があるが、外面側はやや外に張り出している。整形は、内外面と底面ともにヘラミガキで、底面は心持ち凹む傾向がある。2も、1に類似した文様構成をもつ口縁部片である。拓影図では、5本の横走沈線文状の空白が示されているが、一番上のものは輪積み痕が残ったもの、同じく3本目は接合面の割れ面の線で、沈線文として認識されるのは残りの3本であるが、いずれも浅いものである。3は、体部



第18図 K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡出土遺物（2）（3a層；土器）



第19図 K113遺跡北34条地点第2号竪穴住居跡出土遺物(3)(3a層;紡錘車)

中央以下の破片で、口縁部は欠損する。器形は1と類似し、整形も底面を含めて内外面とも入念なヘラミガキである。底面は、やや揚げ底気味で、破片上部に沈線文が1本認められる。4も、器形・文様構成は1と同様で、口唇部直下は強く括れ口唇部がやや外に張り出している。沈線は2本認められるが、上の例は半截竹管状工具で引いた可能性もあり細い線2本で構成されている。下部の沈線は断片のため明瞭でないが、段状の盛り上がりは観察できる。

5も口唇部を有する破片であるが、上記の例に較べて器厚が厚く、内彎状に丸味がある器形という点で特異である。口唇部下7～9mm程の部分はやや強くナデ引きし、薄手に仕上げている。6は、破片上部に横走沈線文が1本ある例で、やはり沈線の上下で器厚が異なり、段状気味である。7は、底部片で、底面付近の括れは認められず、底から真っ直ぐ立ち上がっている。底面は、周辺に粘土を貼付し、1mm程盛り上がらせ、中央部は凹む状態になっている。

第19図1、2は紡錘車である。出土位置は、1がかまどの直ぐ東横の壁沿い、2がかまどの火床部分である。1は完形品で、その大きさは上面径が68mm、下面径が79～80mmで、上面の内部は2～4mm程凹ませており、厚さは遠位端で24mm、薄いところで20mmである。中心の孔は9mmで、真っ直ぐに開けられている。重量は、169.2g。整形は、下面部分と側面は入念なヘラミガキであるが、上面部分は中央付近はナデで、周辺は環状にヘラによるナデ痕がつけられている。また、この面には半截竹管状工具によってつけられた2本単位のごく細く、浅い沈線文が、断続的ながら孔部分から放射状に展開し、その一部は周辺の盛り上がった部分にも施文されている。2は、二次加熱のため若干赤色化した半分ほどの破片で、下面の推定径で約60mmである。厚さは14mmで、孔の推定径は9mm。重量は現存部で36.3gで、本来は70g位と推定される。両面はほぼ平坦であるが、上面側は心持ち凹んでいる。側面には、拓影図と図版27Bの2cの写真で示したように、焼成後に金属器のような刃部が狭く鋭い工具で、斜めに連続的に刻線を刻んでいる。そのため、刻文の周辺部は細かく破碎している部分もある。

あと、図化していないが、第10表に示したとおり、棒状礫が3点出土している。ともに完形で、長さが104～121mm、幅48～60mm、厚さ32.2～35.2mmで類似した規格であるが、重量は18と27が各々300gと275gであるが、32は199.4gと軽い。

第1表 K113遺跡北34条地点竪穴住居跡柱穴一覧表

遺構 名称	柱穴 番号	平面形 (確認面)	標高(m) (確認面)	規模1 (cm)	規模2 (cm)	深さ (cm)	備 考
HP1	SP1	不 整 円 形	7.138	26	23	50.1	張り出し部35cm×26cm
	SP2	不 整 円 形	7.171	22	21	34.4	
	SP3	不 整 円 形	7.082	19	18	29.9	
	SP4	不 整 円 形	7.097	26	23	14.7	
HP2	SP1	不整楕円形	7.589	45	32	48.9	張り出し部84cm×70cm
	SP2	不整三角形	7.558	37	34	56.4	

第3節 焼 土 (第20～23図、第6表、図版28A～33B)

3a層面からは、焼土(一部炭層)が9カ所みつまっている。

焼土1、2、3 (第20図、図版29A～30A)

焼土1～3は、05-04、06-04区の西側から南北方向に一直列に並んでみつかった例である。この中で、焼土1と焼土2は、層位的に上下関係を保ちながら、一部重なって分布し、焼土2と3は不明瞭ながら若干の空白部において、ほぼ同一層序の中で隣接して存在する。

セクションについては、3基連続でとっている。

I層：暗灰褐～明茶褐色シルト層(焼土1の堆積層で、基本層序の3a層の中間付近に堆積しているものである。焼土粒と大粒の炭化材と若干の骨片多く入る)。

II層：灰褐色シルト層(焼土1と2との間層である。やや粘性あるが、しまりない)。

III a層：暗褐色シルト層(焼土粒と炭化材点在し、灰を含む層。焼土2の堆積層で、3a層の下底面に堆積しているものである)。

III b層：明赤褐色焼土層(上部は明(赤)褐、下部は暗赤褐色を呈し、全体に強く焼けて赤くなっている。多量の大粒の炭化材と若干の骨片入る。焼土2の堆積層)。

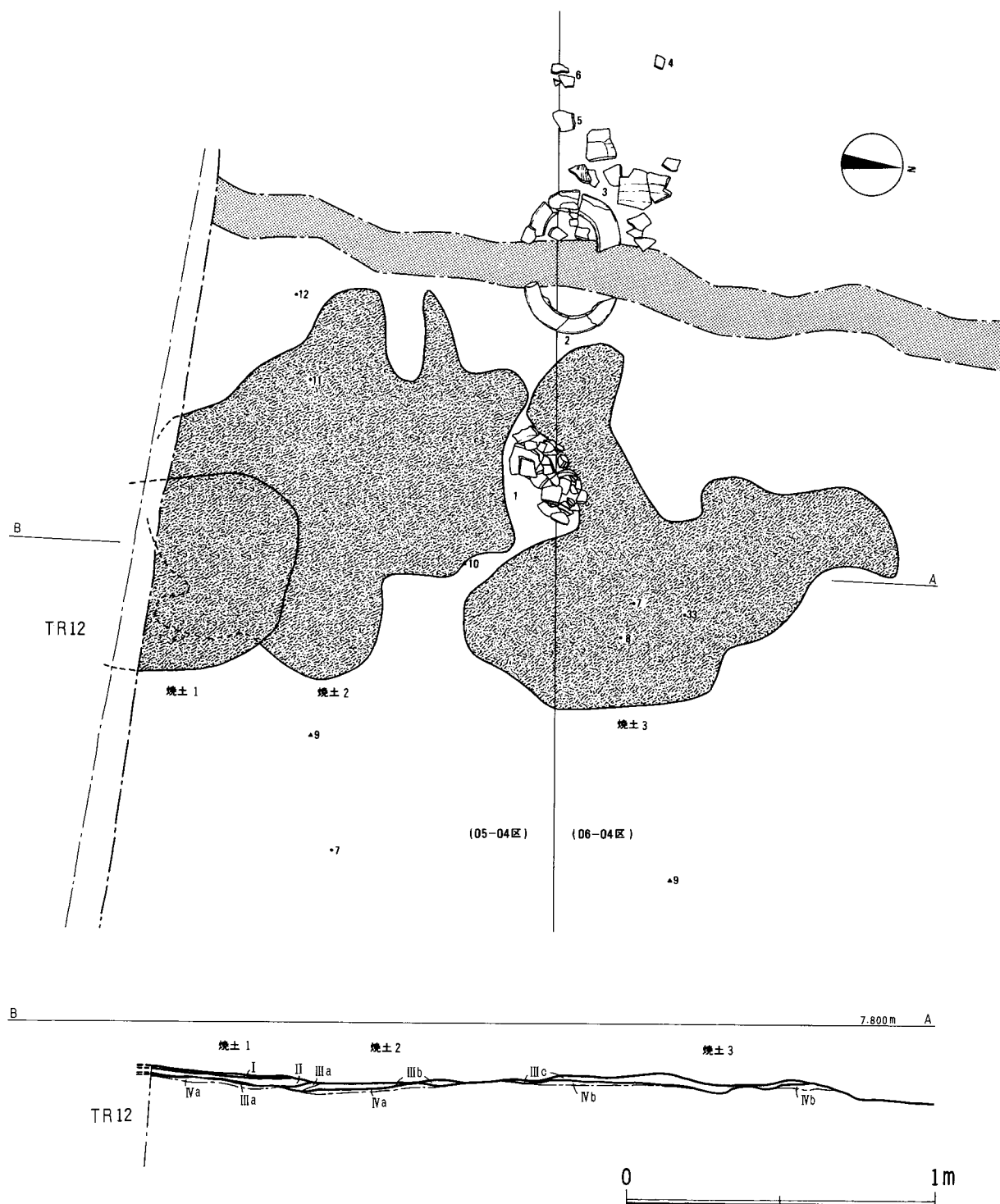
III c層：茶褐色焼土層(全体に砂質で、とくに中央部はシルト質砂層。中に炭化材、焼土粒、灰を含む。焼土3の堆積層)。

IV a層：灰褐色シルト層(地山で、基本層序の3a層に相当する。焼土層の影響を受け、所々黒斑状を呈する。やや粘性ある)。

IV b層：灰褐色砂質シルト層(やはり地山で、3a層に相当。所々黒斑状を呈する。しまりも、粘性もなし)。

焼土1は、半分近くが試掘調査(試掘坑12：TR12)の際に消失してしまったものである。層位的には焼土2の後、3a層の堆積途中に形成されたもので、明確に一次な焼土層の堆積が認められる。現存部の大きさは49×66cm、層厚は4cmである。採取した土壌サンプル(3.35ℓ)のフローテーションの結果では、植物遺存体としてブドウ属1粒、クルミ属0.01g、動物遺存体としてサケ科0.03g、魚類不明0.02gみつまっている(第2、4表)。

焼土2は、3a層の堆積当初の頃に形成されたもので、やはり南側の一部は試掘坑12で断ち切られているが、現存部の大きさは120×127cmで、層厚は3cm程ある。本例も、一次的な焼土層(III b層)が認められる。土壌のフローテーションの結果では、15ℓのサンプル中から植物遺存体としてアワ106粒、キ



第20図 K113遺跡北34条地点焼土1～3（3 a層）

ビ84粒、アサ21粒、シソ属1粒、ナス科4粒、イネ科12粒、キハダ属1粒および5片、ブドウ属3粒と9片、クルミ属3.75g、不明ミレット71粒と本遺跡の中では最大量の検出量である。第5表は、本焼土出土のアワの計測値であるが、平均値では長さ1.24mm、幅1.20mm、厚さ0.86mmである。一方、動物遺存体はサケ科0.08g、魚類不明0.01g＞検出されている（第2、4表）。

焼土3は、接合番号1A、2Aの土器群を挟んで、焼土2の北側にあるもので、大きさは138×119cm、層

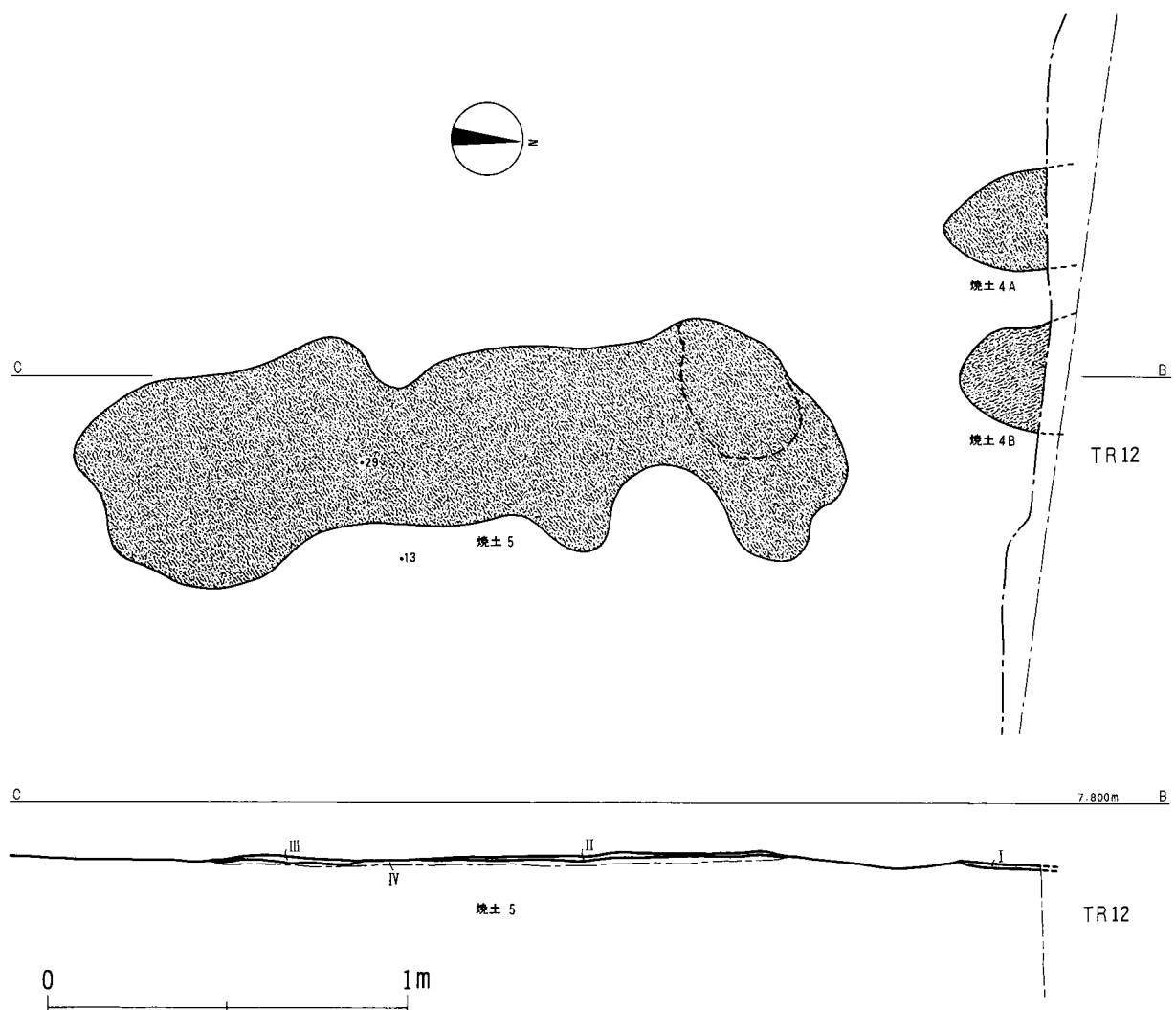
の厚さは最大4cmである。層をみると、焼土1・2で認められた一次的な焼土面の堆積が認められず、小ブロックの焼土粒と炭化材・灰が堆積した状態であるところから、二次的な堆積の焼土層の可能性が高い。土壌のフローテーションの結果では、植物遺存体としてアワ5粒、キビ19粒、タデ科1粒、キハダ属1粒、ブドウ属2粒および1片、クルミ属0.13 g、不明ミレット6粒とややまとまってみつかるが、動物遺存体は魚類不明のものが0.01 g 検出されただけである（第2、4、6表）。

焼土4、5（第21図、図版30B～31B）

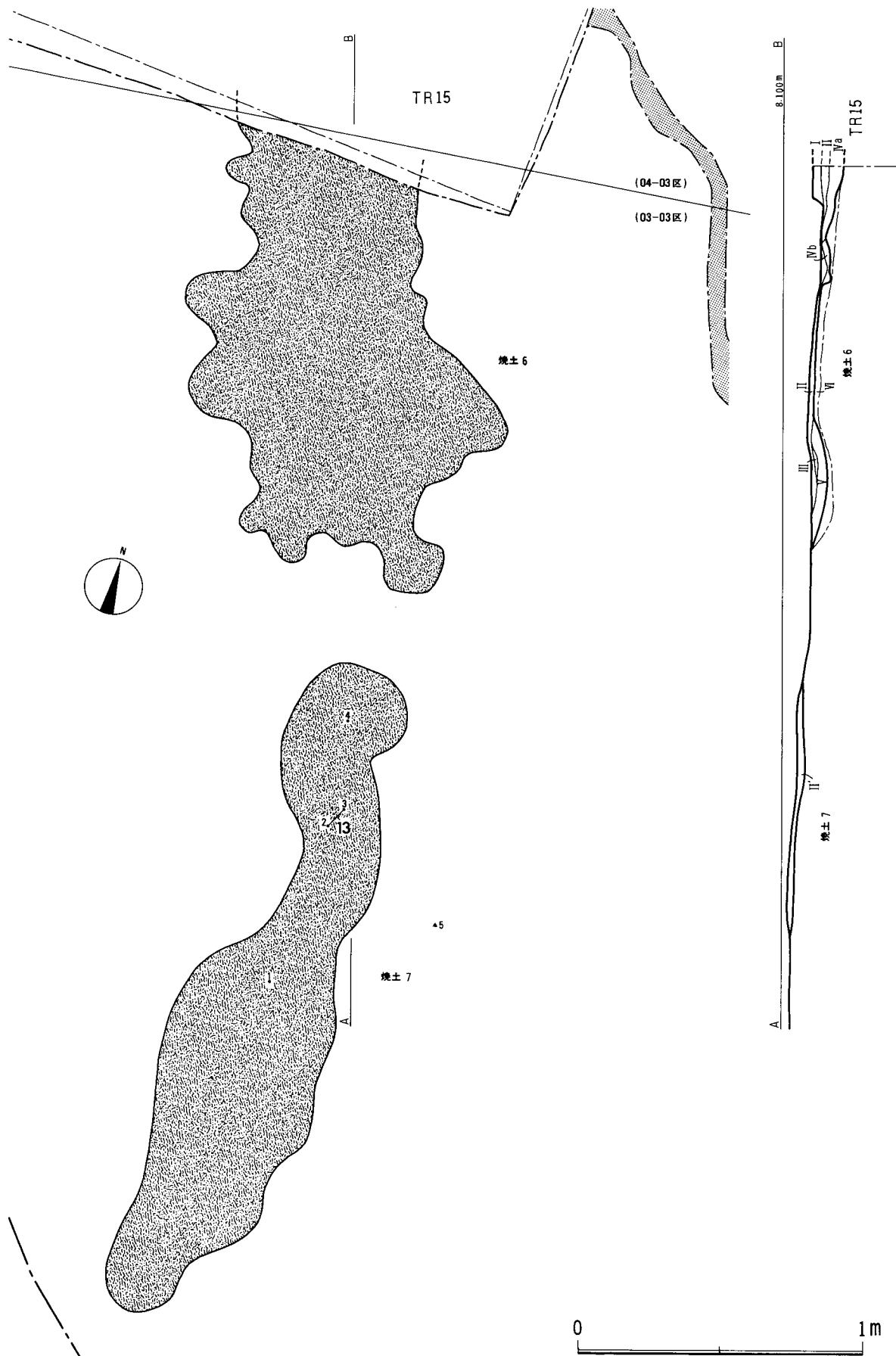
焼土4、5は、05-04区で検出された例である。この内、焼土4は試掘調査時点で、試掘坑12でその存在が確認され、また付近から土器片が出土したことから、後述する焼土6とともに発掘調査を実施する契機になったものである。焼土4、5も、焼土1～3とともに南北方向の同一線上に一系列に並んでいる。セクションは、焼土4Bと焼土5を貫いてとっている。

I層：暗褐色シルト層（焼土4Bの堆積層で、大粒の炭化物が多く入っている。なお、焼土4Aの堆積層は暗赤褐色焼土層）。

II層：淡赤褐色焼土層（焼土粒と炭化物が点在）。



第21図 K113遺跡北34条地点焼土4A・B、5（3a層）



第22図 K113遺跡北34条地点焼土 6、7 (3 a 層)

III層：灰褐色シルト層（大粒の炭化物点在する）。

IV層：灰褐色砂質シルト層（地山のIII a 相当層。II、III層の影響で若干汚れが認められる）。

焼土4は、試掘坑12の掘削の際に過半以上を消失し、2カ所に分かれた状態でその一部が残っていたものである。西側を4A、東側を4Bと呼称する。4Aは、大粒の炭化物がやや密集した状態で検出されているが、焼土粒はほとんど含んでいない。一方、4Bの方は全体に赤く焼けており、一次的な焼土層と考えられる。現存部の大きさは4Aが29×28cm、4Bは31×25cmで、厚さはともに約2cmである。両者合わせた土壌サンプルのフローテーションの結果では、タデ属1粒、キハダ属1粒、クルミ属0.63g、不明ミレット3粒、それに魚類不明が0.01g>みつまっている（第4、6表）。

焼土5は、北側部分で波線で示したII層堆積部分には二次堆積した焼土粒が分布しているが、他の部分についてはやや大粒の炭化物が散発的に分布するだけである。全体の大きさは、213×75cmで、層厚は厚いところで3cmを数える。土壌のフローテーションの結果では、ブドウ属2粒、クルミ属1.32gが検出されている。

焼土6、7（第22図、図版32A、B）

焼土6、7は、03-03区から検出されたもので、この内焼土6は試掘調査時点で試掘坑15（TR15）の断面で確認されたものである。両焼土は、焼土1～5と同様に、南北方向にやはり並んでみつまっているが、相対的な位置としては、第1号竪穴住居跡のかまどの煙道の南側に存在しているといえる。

焼土6は、北側がトレンチで一部切られているが、全体としては横長の形態を呈し、現存部の大きさは165×112cm、層厚が最大で10cmある。層位は、

I層：灰色シルト層（粘性弱く、パサパサ。基本層序の2c-3層に対応すると考えられる）。

II層：暗茶褐色シルト層（大粒の炭化材を多く含む層で、焼土層の上に堆積している）。

III層：灰褐色灰層（灰層のみの集中は、局部的にみられるのみである）。

IV a 層：明茶褐色焼土層（北側部分で認められる焼土層）。

IV b 層：（暗）黒褐色シルト層（IV a 層の周辺に堆積した土層で、焼土粒と炭化物を多く含む）。

V層：明茶褐色焼土層（南側部分でみられる焼土層）。

VI層：灰褐色シルト層（基本層序の3a層（下面）に対応し、焼土層の影響を受け若干焼土粒や炭化物等を含む層で、粘性はややある）。

本焼土は、セクション図からも判断できるように、一次的な焼土面が南側と北側の2カ所に分かれて認められる。焼土の南側の部分の対応層はIII層とV層、北側部分はIV a、IV b層である。土壌のフローテーションの結果では、植物遺存体はイネ科1粒、ブドウ属2粒と1片、クルミ属10.32g、不明ミレット6粒、動物遺存体は、サケ科0.08gが検出されている（第4、6表）。

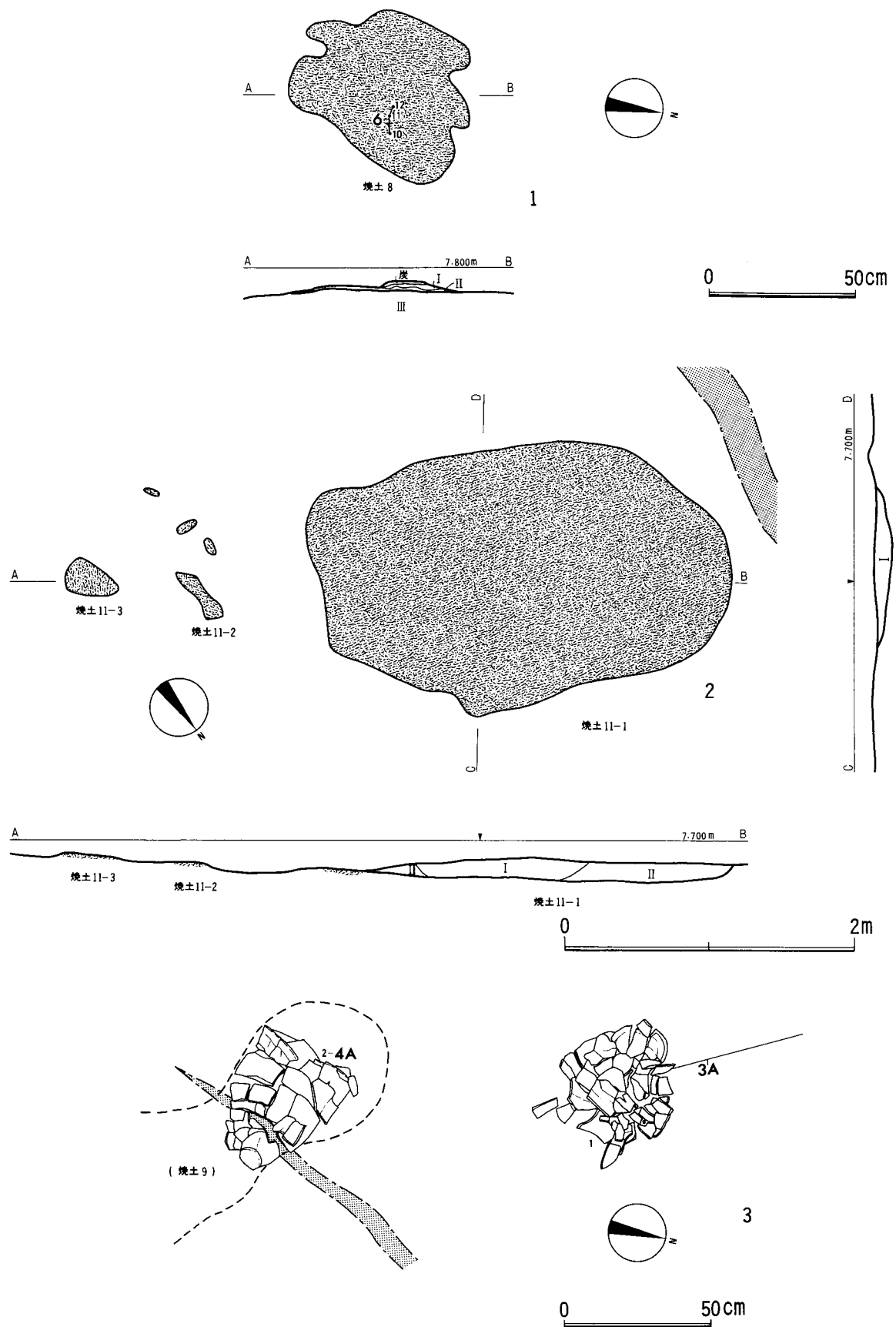
焼土7は、焼土6の南側にあるもので、全体形は不整の長楕円形を呈し、大きさは241×61cm、層厚は3cm程度である。

堆積層は、以下の1層のみである。

II'層：灰褐色シルト層（やや粘性ある。大粒の炭化材点在する）。

本層は、焼土6のII層に対応する層で、二次的な堆積層と理解できる。なお、本層上面から土器片（03-03区Na1～4）が検出されている。

土壌サンプルのフローテーションの結果では、アワ3粒、クルミ属2.19g、魚類不明0.01g>が検出されている（第2、4、6表）。



第23図 K113遺跡北34条地点焼土 8、11および04—04区土器出土状況図 (3 a 層)

焼土8（第23図1、図版33A）

本焼土は、04-03区の北西隅で検出されたものである。大きさは62×60cmで、不整の形状を呈し、層厚は3cm程である。層堆積は、

I層：灰色シルト層（粘性弱い）。

II層：暗褐色シルト層（多量の大粒の炭化材と若干の焼土粒を含む）。

III層：灰褐色シルト層（地山層で、基本層序の3a層に相当する。粘性あって、ややしまる）。

セクション図では、I層の上部には炭化材がのっている。

土壌のフローテーションの結果では、ブドウ属が1片みつただけである（第4、6表）。

焼土11（第23図2、図版33B）

焼土11としたものは、05-03区において3a層面で炭化物のややまとまりが認められたため、その確認作業を進めた結果、図に示したような範囲に炭化物の集中があることが判明したものである。

この中で、もっとも大きな広がりを示す部分は図の右側に示した焼土11-1で、形状は不整楕円形で、大きさは292×189cmである。本例では、後述するI、II層の覆土層の下底面に草本類（？）起源の炭化物が、浅い皿状に薄く分布していた。土壌のフローテーションの結果では、タデ属9粒、マタタビ属1粒、キハダ属1片が検出されている（第4、6表）。

堆積層は、

I層：灰色砂質シルト層（粘性強いが、やや砂質的で、しまりはわるい）。

II層：灰色シルト層（粘性強く、しまっている）。

また、その南東側には同様な炭化物の分布が小さな範囲（焼土11-2、3等）で幾つか認められた。

第6章 遺物（上層）

上層の3a層から検出された遺物の総量は、竪穴住居跡等の遺構関係出土の遺物もあわせると、723点（総重量19,236.8g）ある。内訳は、土器片が693点（内甕637点、坏56点）、棒状礫を含めた石器が16点、礫が14点である（第9表）。

発掘区だけでみると、遺物総量が568点で、内土器片が550点（甕528点、坏22点）、石器13点（内棒状礫11点）、礫5点である。出土区は、04-04区と06-04区の2地区から200点以上と集中して出土しているが、あとは03-03、04-03、05-04区から5～44点検出されたのみである。とくに、06-04区南側から05-04区北側の焼土1～3付近からは後述する第24図2、3の完形土器が2個体まとまって検出されているが、この内2の口縁部片は地震による地割れで二次的に動いた状態でみつまっている（第20図、図版28A、B、30A、34A）。さらに、04-04区では第23図3（図版35B～36B）に示したように、ほぼ完形な大型の甕形土器が隣接して2個体（第24図1、第25図1）押しつぶされたような状態で出土している。

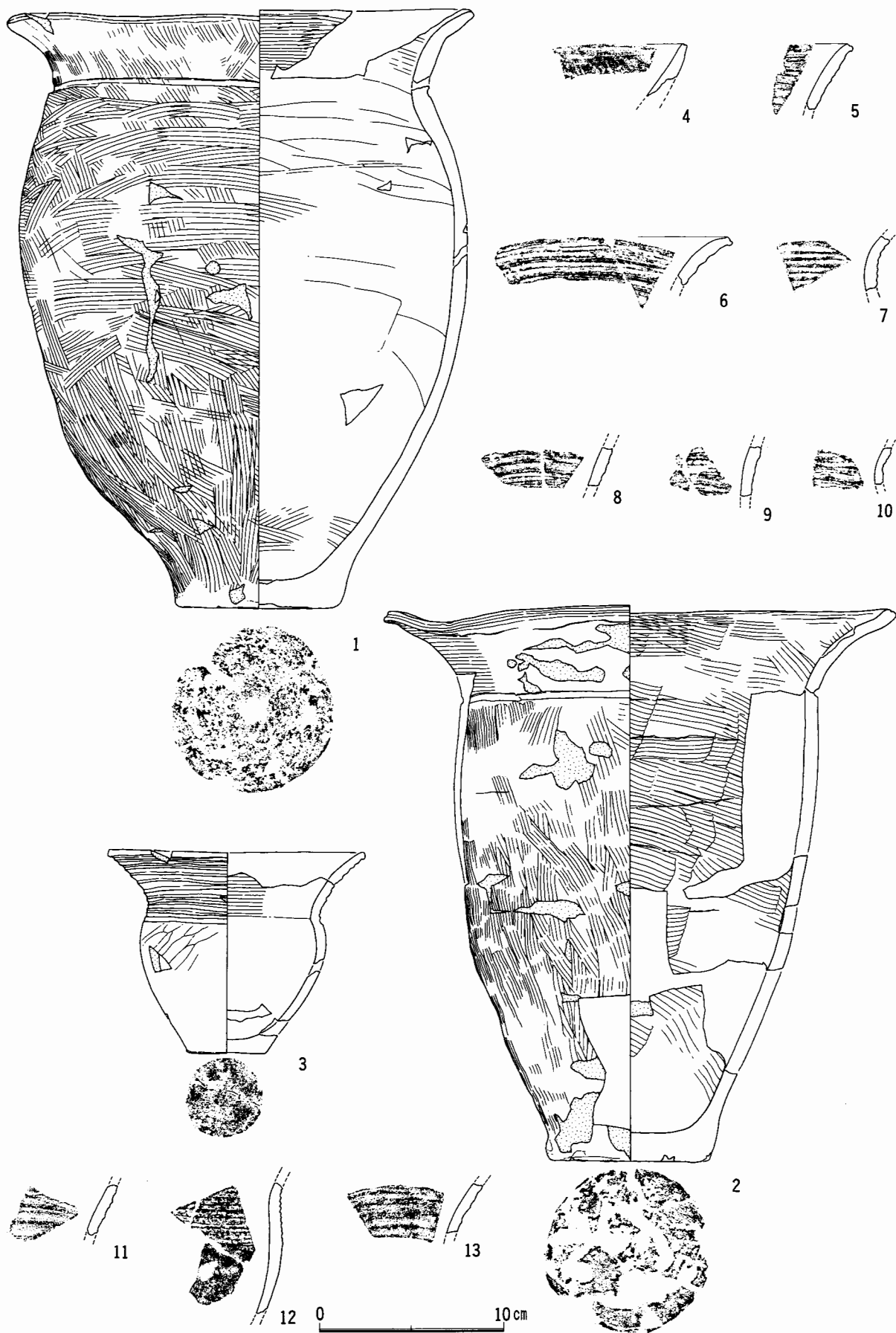
第1節 土器（第23～25図、第7、10表、図版34A～36B、37、38A、39）

第24図1～13、第25図1、2は甕形土器である。

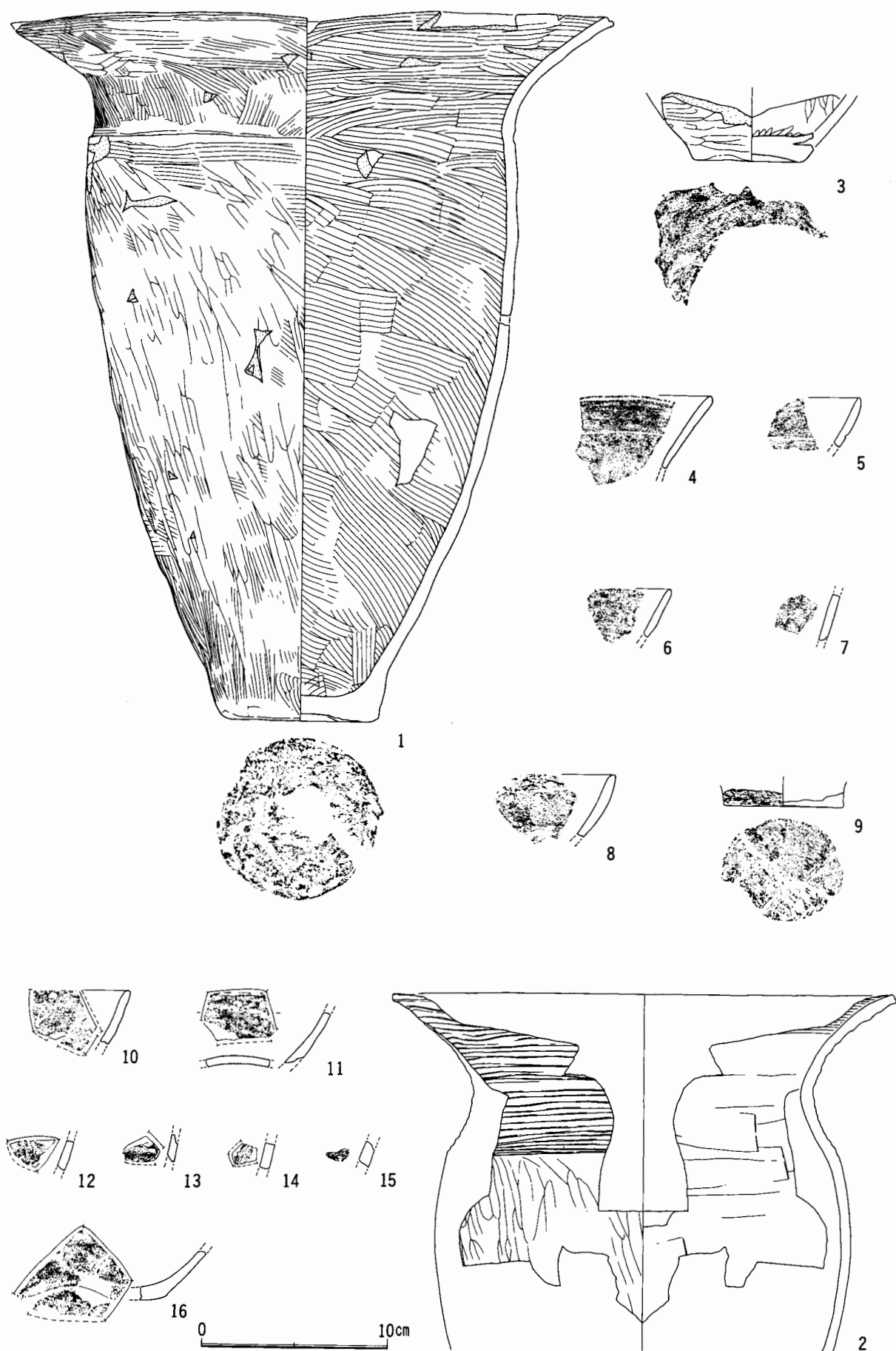
第24図1は、器高32.7cm、口径25.2cm、底径8.9cm、口唇部までの容量6.6ℓのやや大型の甕である。器形は、底面から2cm程のところから急激に開き、そのままやや膨らみながら胴中央より若干上の部分で胴最大幅（径24.2cm）がきて、その後次第に内彎しながら頸部で強く括れ（径20.4cm）、口縁部でまた開くものである。全体として胴部が強くはらみ、口縁部が短めで開きがやや小さい器形で、器厚も8mm前後で厚手の土器である。頸部と胴部の境目には、篋状工具による沈線文を1本入れ、不規則ながら段を作出している。整形は、外面はハケメであるが、口縁部分ではその後粗いナデが入っている所もある。内面は、ハケメとナデである。口唇部は、口唇端部から内面にかけてのナデ整形によって丸味がつけられている。底面は、中央が2cmほど皿状にやや凹み、また全体に砂礫が一面付着したような痕が、孔状に数多く残っている。なお、二次焼成を受けた関係で、底部付近は橙色を呈した部分があり、さらに上半部はパッチ（円孔）状に剥脱したり、内外表皮面の剥脱が著しい。

第25図1は、器高37.9cmと本遺跡の中では最も大きい土器である。口径は32.2cm、底径は8.6cmで、口唇部までの容量は8.8ℓある。器形は、底部からあまり膨らみをもたずに、少しづつ開きながら立ち上がり、胴最大幅は頸部の少し下にきている。頸部でやや括れた後、口縁部は大きく開いているもので、全体として狭長な形である。頸部と胴部の境には、明瞭な段を形成している。整形は、外面は胴部がハケメの後ヘラミガキ、頸部はハケメ、口縁部はハケメの後一部ミガキであるが、口唇部付近はヨコナデが入っている。内面は、ハケメで口唇部付近のみごく一部にナデがみられる。口唇部は、ナデであるが、中央がやや深く凹んでいる。底面は、中央の2.5cm程を残して周りに粘土を貼付し、4～5mm程盛り上げている。

第24図2は、器高30.2cm、口径27.6cm、底径8.8cm、口唇部までの容量5.5ℓのほぼ完形の土器である。器形は、底部の括れはほとんどなく、緩く開きながら立ち上がり、胴最大幅は頸部の若干下にきている。頸部の括れは弱く、逆に口縁部の開きは大きい。頸部と胴部の境には1本の深い沈線が入っている。整形は、外面の胴部はハケメ、頸部から口縁部はハケメの後ヨコナデ、内面は口縁部分はハケメの後



第24図 K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物 (3) (3 a層：土器)



第25図 K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物 (4) (3 a層; 土器)

粗いナデ、胴部はハケメである。口唇部は凹線状にやや凹む。底面には、大型の炭化物等(材、堅果?)が焼成によって脱落したような大きなくぼみが、数多く認められる。

第25図2は、口縁部から胴部にかけての約1/4周分の破片から推定復元した資料である。推定口径は26.9cm。胴最大幅は頸部よりやや下にきており、頸部は強く括れた後、口縁部はさらに大きく開く器形である。頸部から口縁部にかけては、横走る浅い段状沈線文が数多く巡っている。整形は外面の胴部はヘラミガキ、内面は(ヘラ)ナデで、所々工具のヘラのあたりが観察できる。

第24図3は、小型の甕で、大きさは器高11cm、口径13.8cm、底径4.2cmで、口唇部までの容量は0.45ℓである。器形は、底部から急激に開き胴最大幅は10cmある。頸部は強く括れ、その後口縁部は大きく開いている。頸部から口縁部にかけては段状の沈線文が数多く横走している。口唇部はやや丸味をもって仕上げられている。

第24図4～13は、甕の口縁部破片である。4以外は、いずれも段状の浅い横走沈線文群が施文されている。

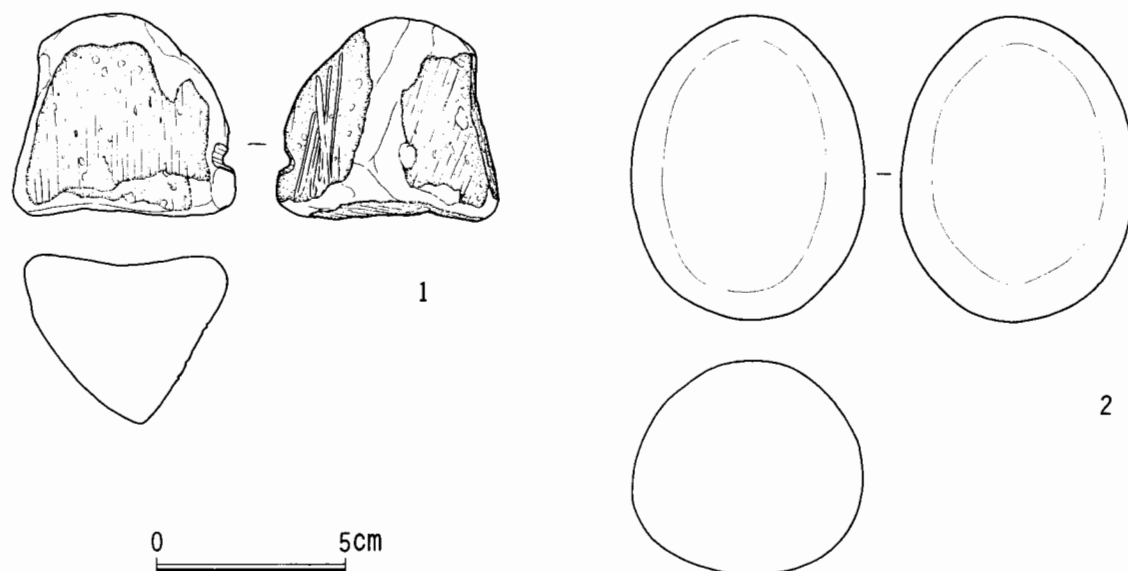
第25図3～9は、坏の破片である。3は、底部の破片で、底径は5.8cmで、底面はかなり揚げ底である。整形は、両面ともミガキで、内面には黒色処理が施されている。4～6、8は、口縁部片で4、5には細い沈線文が1条巡る。4、8の内面には黒色処理がある。7は、焼土2から採取した土壌サンプル中から検出された資料で、器厚が薄いところから、坏の胴部(体部)片と考えられる。9は、坏の底の破片である。底面には笹の圧痕が認められる。

同図10～16は、轆轤水挽きの坏の破片で、いずれも内面は黒色処理が施されている。10は口唇部を有する破片、11～15は体部破片、16は底面に糸切り痕を残す底部片である。これらの資料群に共通する特徴は、15例を除いて、破損後の破断面を研磨していることである。その範囲については、挿図中の拓影図の外形の周りに実線と破線を表示したとおりである。この中で、実線部分は入念な研磨が入り平滑になっている部分を指し、破線は角等の一部が擦られただけの部分である。なお、10については研磨した後に、さらに一部破損しているが、その後も大きい方の破片の破断面の角をまた擦っている。

第2節 石器 (第26図、第8、10表、図版38B)

第26図1は、軽石製の砥石である。断面三角形で、各面と図示手前の小口の4面を砥面として利用している。なお、裏面図に示したように左面側には鋭い工具で抉ったような直線的な傷跡が数多くある。

2は、81×62×57cmの楕円形の磔で、重量は400 g ある。表面全体が滑らか状態で、また面体の変化もとくに認められないため、使用面を特定することは困難であったが、随所に平滑で光沢を持った箇所を認識できるところから、擦石等の用途に利用された可能性が高い。



第26図 K113遺跡北34条地点発掘区出土遺物 (5) (3a層; 石器)

第7章 動植物遺存体

第1節 K113遺跡北34条地点出土動物遺存体

富岡直人

(1) 分析資料 (付表、第2、3表)

分析資料は、各種遺構中の土壌をフロテーション装置 (0.42~1.00mm金属フルイ使用) で水洗して得られたものである。続縄文時代(北大式期)、擦文時代に属する資料が中心で、カマドや焼土ブロック、炭化物ブロックから検出されている。これらは、全て火を受けており、多くは白色、一部は黒色に変色しており、熱のため激しく収縮して変形・亀裂を生じている。

軟体動物門 資料は5mm角程の大きさが残されており、厚さ0.2mm程で、火を受けて大きく変形し、表面の一部は剥落して失われている。綱は特定できなかった。真珠光沢などはみられず、札幌市のK435遺跡で出土したイシガイ科の貝類(カワシンジュガイなど) ではないと考えられる。擦文時代の第1号竪穴住居跡のかまどから検出されている。

サケ科 サケ属・イワナ属 出土動物遺存体の主体を占めているが、続縄文時代に属する遺構、堆積層からは検出されていない。出土したサケ科の部位骨は、現在の北海道に生息するアメマス(イワナ属)、オシヨロコマ(イワナ属)、サクラマス(サケ属)、カラフトマス(サケ属)、サケ(サケ属)、ギンザケ(サケ属)、マスノスケ(サケ属)、ヒメマス(サケ属)である可能性が高い。その中でもほとんどの部位骨は大形で、体長50cm~1m近くなる個体のものと考えられる。これらは降海型サクラマス、カラフトマス、サケ、ギンザケ、マスノスケ、ヒメマスである可能性が高い。

金子(1987)を参考に91個検出された犬歯状歯による最小個体数算定をおこなったところ、6個体という数値が得られた(Aタイプの犬歯状歯に基づく)。特に第1号と第2号竪穴住居跡での出土量が卓越しており、54個体に及んだ。

チョウザメ目 チョウザメ科 出土資料は、破片であり属・種は特定できなかったが、現在北海道に生息するダウリアチョウザメ *Huso dauricus* (Georgi)あるいはチョウザメ *Acipenser medirostris* Grayである可能性が高い。

擦文時代前期の第2号竪穴住居跡のかまどから出土している。

コイ科 コイ科に同定した資料は特徴が不明確な椎骨類であったため属・種の特定はできなかった。コイ科に同定した資料は、擦文時代前期に属する第1号と第2号の竪穴住居跡のかまどから出土している。

付表 出土動物遺存体種名表

List of animal remains from K113 N34 site

軟体動物門 MOLLUSCA classis indet

脊椎動物門 VERTEBRATA

硬骨魚綱 OSTEICHTHYES

サケ科 Salmonidae

サケ属 *Oncorhynchus* sp. indet

イワナ属 *Salvelinus* sp. indet

チョウザメ目 Acipenseriformes

チョウザメ科 Acipenseridae

コイ科 Cyprinidae

ニシン亜科 Clupeinae

ニシン *Clupea pallasii* Valenciennes

鳥綱 AVES ordo indet

哺乳綱 MAMMALIA ordo indet

ニシン亜科 ニシン 本遺跡で出土した比較的小形の個体は、周年接岸する生態を持つものであり、年間を通して捕獲された可能性があるが、成魚で回遊する生態を持った大型個体は春に捕獲された可能性が高い。

擦文時代前期に属する第2号竪穴住居跡のかまどから出土している。

鳥綱 資料は全て破片であり、科・属・種は特定できなかった。破片の大きさから中・小形鳥類の遺存体と考えられる

哺乳綱 資料は全て破片であり、中・小形哺乳類の遺存体と考えられる。特に続縄文時代の焼土9では哺乳類の占める率が特徴的に高い。

(2) K113遺跡における狩猟・漁撈活動

本遺跡の続縄文時代後期末に属する動物遺存体資料が少なかったため、この時期の狩猟・漁撈活動の内容は明確ではない。検出された遺存体のうち、哺乳類が重量的に多い。ただし、遺存体の組成は遺構ごとに変化がある可能性も考えられるので、哺乳類狩猟が活発であったとの即断はしがたいであろう。

また、擦文時代前期出土の動物遺存体の内容は、札幌市に所在するほぼ同時期の N426遺跡(擦文時代：金子1992)、K39遺跡 N11地点(第3文化層、擦文時代中期前葉から中葉)でみられる状況と類似し、特にサケ科を主体として構成されていることが共通している。このような状況は、本遺跡が擦文時代に旧琴似水系の河川でのサケ漁を盛んにおこなっていた集落遺跡であったことをうかがわせる。

大形のサケ科やチョウザメ科など、大形魚種の捕獲には刺突漁や網漁、罟漁がおこなわれていたと考えられる。特に秋から冬にかけてはサケ科を大量に捕獲したことが推定できる。また、小形の魚種には網や罟類を使った漁撈方法がとられたことが考えられる。

鳥類や哺乳類は種が特定できる資料が検出されなかったため、狩猟の実態をうかがうのは困難であるが、小形・中形鳥類の鳥類や小形・中形の哺乳類を対象とした猟がおこなわれていたと考えられる。

【引用文献】

- 金子浩昌 1987 「IV動植物遺存体 第1章 K135遺跡の脊椎動物遺存体」『K135遺跡4丁目地点、5丁目地点』札幌市文化財調査報告書XXX
- 金子浩昌 1992 「N426遺跡出土の動物遺存体」『N426遺跡』札幌市文化財調査報告書XLI
- 金子浩昌 1993 「V 動植物遺存体 第1章北海道札幌市 K435遺跡検出の魚・鳥・獣類遺体」『K435遺跡』札幌市文化財調査報告書XLII

第2表 K113遺跡北34条地点出土動物遺存体一覧表(1)

		魚類 Pisces																		
		サケ科 Salmonidae																		
		イワナ属・サケ属 犬歯状歯 Canine-like teeth												椎骨 Vertebra			部位骨 Ap.skeleton			
遺構・ ブロック	層位 Layer	A		B		C1		C2		D2		不明(?)		状態 Condi- tion	点数 N	重量(g)	部位 Part L/R	点数 N	重量(g)	
		点数 N	重量(g)	点数 N	重量(g)	点数 N	重量(g)	点数 N	重量(g)	点数 N	重量(g)	点数 N	重量(g)							
HP1 C2	3a																			
HP1 SP1	3a																			
HP1 カマド	3a	50	0.53	5	0.04	3	0.02	3	0.03	4	0.03			-	-	4.55	頭部骨 他	-	-	0.21
																	海面状 硬組織	-	-	0.40
																	距鱗骨 Pg	-	-	0.01>
																	不明 Indet.	-	-	0.39
HP2 SP1	3a													-	-	0.01>				
HP2 SP1	3a													-	-	0.01>				
HP2 カマド	3a	4	0.01					2	0.01	1	0.01			-	-	0.46	不明 Indet.	-	-	0.03
																	尾部棒 状骨 Uros- style	-	1	0.02
05-04区 F1	3a	1	0.01									1	0.01	-	-	0.01>	-	-	-	0.01
05-04区 F2	3a	3	0.03	1	0.01							2	0.01	-	-	0.03				
06-04区 F3	3a																			
05-04区 F4	3a																			
03-03区 F6	3a	8	0.05	1	0.01			1	0.01			1	0.01							
03-03区 F7	3a																			
04-04区 F9	9b																			
合 計		66	0.63	7	0.06	3	0.02	6	0.05	5	0.04	4	0.03			5.07				1.06

第3表 K113遺跡北34条地点出土動物遺存体一覧表(2)

両生類・爬虫類 Amphibia・Raptilia							鳥 類 Aves				
遺構・ブロック	層位 Layer	種 名 Name	部位名 Part	L/R	点数 N	重量 (g)	種 名 Name	部位名 Part	L/R	点数 N	重量 (g)
HP1 カマド	3a						不明 Indet.	破片 Fragmemt	?	-	0.01>
HP2 カマド	3a						不明 Indet.	破片 Fragmemt	?	-	0.07
04-04区 F9	9b						不明 Indet.	破片 Fragmemt	?	-	0.05
合 計											0.13

チョウザメ科 Acipenseridae		コイ科 Cyprinidae				ニシン科 Clupeinae				そ の 他 Others				魚類 重量	フローテーション サンプル番号 Adjusted sample No. for fl. analysis		
鱗板 Ganoid scale		種名 Name	部位 Part	L/R	点数 N	重量 (g)	種名 Name	部位名 Part	L/R	点数 N	重量 (g)	種名 Name	部位名 Part			点数 N	重量 (g)
点数 N	重量 (g)													Total (g)			
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01>	0.017	11302
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01>	0.017	11304
		不明 Indet.	腹椎 Av	—	—	0.09						不明 Indet.	不明 Indet.	—	4.64	10.73	11308~ 11311
		不明 Indet.	尾椎 Cv	—	—	0.11						不明 Indet.	椎骨 Vert	—	0.01>		
												不明 Indet.	肋骨	—	0.01		
												不明 Indet.	魚棘	—	0.07		
																0.01>	11312
																0.01>	11313
—	0.01>	不明 Indet.	椎骨 Vert	—	—	0.01>	ニシン C.p.	尾椎 Cv	—	17	0.07	不明 Indet.	椎骨 Vert	—	0.07	1.79	11314~11316
		不明 Indet.	腹椎 Av	—	2	0.01>	ニシン C.p.	腹椎 Av	—	1	0.06	不明 Indet.	魚棘	—	0.01		
		不明 Indet.	尾椎 Cv	—	4	0.04	ニシン C.p.	前耳骨 Pto	R	1	0.02	不明 Indet.	不明 Indet.	1	0.94		
							ニシン C.p.	第一椎 骨 Atlas	—	3	0.01>	不明 Indet.	顎骨片 椎骨破 片 Vert	1	0.01>		
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.04		
												不明 Indet.	尾椎 Cv	2	0.01>		
												不明 Indet.	方骨 R Qua	1	0.01>		
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.02	0.05	11318
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01>	0.08	11319
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01	0.01	11320
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01>	0.01>	11321
																	11323
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01>	0.01>	11324
												不明 Indet.	不明 Indet.	—	0.01>	0.01>	11326
	0.01					0.23				22	0.16			5	5.93		

哺乳類 Mammalia					合計 重量 Total (g)	備 考 Remarks column	フローテーション サンプル番号 Adjusted sample No. for fl. analysis
種 名 Name	部位名 Part	L/R	点数 N	重量 (g)			
不明 Indet.	破片 Fragment	?	—	0.05	0.06	貝殻片0.01>	11308~11311
不明 Indet.	破片 Fragment	?	—	0.06	0.13		11314~11316
不明 Indet.	破片 Fragment	?	—	1.22	1.27		11326
				1.33	1.46		

第2節 札幌市 K113遺跡北34条地点出土の炭化植物種子

吉 崎 昌 一

遺跡の名称・所在：K113遺跡北34条地点、札幌市北区北34条西5、6丁目

発掘調査者：札幌市埋蔵文化財センター

発掘担当者：上野秀一

遺跡の性格と年代：西暦9世紀、擦文時代の集落址および西暦6世紀、北大式を伴う焼土

本報文掲載文献：上野秀一編『K113遺跡北34条地点』札幌市文化財調査報告書49, 1995

出土した炭化植物種子（第4、5表、図版41、42）

1994年に発掘調査された K113遺跡北34条地点から採取された土壌について調査担当者がフローテーション処理を行って得られた炭化植物種子が同定のために送付されてきた。その種子について報告する。送付されてきたサンプルは顕微鏡で観察、同定したが、必要に応じて走査型顕微鏡も利用して微細構造をチェックした。フローテーション処理を行った土壌サンプルの採取されたグリッドと遺構名は第6表に示しておいた。これらの遺構と層準の内、上層文化層のものは、発掘調査者によっておおむね西暦9世紀と考えられており、いわゆる擦文時代に属するものである。この層準のやや下層からは、いわゆる北大式を伴うと見られる焼土が検出されているが、その年代観は西暦6世紀と考えられている。

検出された植物種子は北大式土器の層準のものを含めて総数403粒。ほかにブドウ属種子の破片と人為的に破碎されたクルミ属の堅果破片およびキハダ種子の破片がある。栽培植物としては、アワ *Setaria italica*、ヒエ *Echinochloa utilis*、キビ *Panicum miliaceum*、アサ *Canabis sativa*、シソ属 *PERILLA* が確認されている。マメ科の種子が1例検出されているが、ダメージが大きく詳細は不明。そのほかには雑草のタデ属 *POLYGONUM*、イネ科 *GRAMINEAE* などがある。木本としてはニワトコ属 *SAMBUCUS*、マタタビ属 *ACTINDIA*、キハダ属 *PHELLODENDRON*、ブドウ属 *VITIS*、クルミ属 *JUGLANS* が検出された。これらの種子のうち代表的なものについては微細構造も含めて図版41、42に示しておいた。

若干のコメント

アワ、キビおよびアサは擦文時代の焼土2から集中して出土している。この地点で採取された土壌サンプル量が15ℓであったことを考えると、この中に含まれていたアワ・キビの量的密度は他に比較してたかい様に見える。しかも、検出されたアワ・キビは殆どが包穎の除去された状態であった（第5表）。この地点は住居外でもあるし、とくに構造物がつくられた形跡もない様なので、ここを脱穀作業の行われていた場所であるとするには無理があろう。おそらく、この地点の焼土堆積がプライマリーのものであるか、二次的に移動されたものであるかが確認されれば、問題の核心に迫れるかもしれない。こうした追求はこの時代の集落構造を考えるうえに興味ある資料となるに違いない。なお、不明ミレットとしてあげたものは、ダメージが大きく、イネ科雑穀のうちどれであるかが判明しなかったものである。

第4表 K113遺跡北34条地点出土炭化種子表

遺構名	ブロック	層位	アワ (粒)	キビ (粒)	アサ (片)	シソ属 (粒)	マメ科 (片)	ナス科 (粒)	イネ科 (粒)	タデ属 (粒)	ニワトコ属 (片)	マタビ属 (粒)	キハダ属 (粒)	ブドウ属 (粒)	クルミ属 (g)	不明シト (粒)	不明種子 (粒)	サンプル番号
HP1	C1	3a								1								11301
HP1	C2	3a								1								11302
HP1	C3	3a								3								11303
HP1	SP1	3a															1	11305
HP1	カマド	3a	6							6						14		11309, 11310
HP2	SP2	3a																11313
HP2	カマド	3a		1							2					3		11314, 11317
F1		3a												1	0.01>			11318
F2		3a	106	84	21	1		4	12				1	3	3.75	71		11319
F3		3a	5	19						1			1	2	0.13	6		11320
F4		3a								1			1		0.63	3		11321
F5		3a												2	1.32			11322
F6		3a							1					2	10.37			11323
F7		3a	3												2.19			11324
F8		3a																11325
F9		9b				1				1					0.21			11326
F10		9b								1								
F11-1		3a								9		1	1					11328
合計			120	104	21	1	1	4	13	24	2	2	3	6	10	13	97	1

第 5 表 K113遺跡北34条地点出土アワ計測表(焼土2)

No.	L (mm)	W (mm)	T (mm)
1	1.20	1.20	0.85
2	1.30	1.40	1.10
3	1.25	1.25	0.80
4	1.40	1.40	0.95
5	1.20	1.20	0.80
6	1.20	1.15	0.70
7	1.30	1.20	0.80
8	1.35	1.25	0.95
9	1.25	1.30	0.70
10	1.20	1.10	0.70
11	1.25	1.20	0.90
12	1.30	1.10	1.20
13	1.30	1.25	1.00
14	1.05	1.10	0.80
15	1.20	1.05	0.80
16	1.30	1.30	0.85
17	1.20	1.15	0.70
18	1.20	1.10	0.60
19	1.20	1.10	0.90
20	1.20	1.10	1.00
平 均	1.24	1.20	0.86
分 散	0.01	0.01	0.02
標 準 偏 差	0.07	0.10	0.15

結 語

本遺跡は、旧琴似川流域の微高地上に立地した遺跡の一つである。明治時代に高畑宜一氏が作成した地図（上野1979）でみると付近の河川は、北陽中学校・和光小学校付近から新琴似二番線をへて今時発掘調査地点を取り囲むように蛇行しながら流れている（第2図）。

調査の結果、黒～暗茶褐色系シルト層の6層群を挟んで上層の3a層から擦文時代前期の文化層、下層の9b層から続縄文時代末の北大式土器期の文化層がみつまっている。上層文化層からは、遺構としては竪穴住居跡2軒と焼土9基がみつまっているが、それらの関係は焼土6、7でみると明らかに第1号竪穴住居跡のかまどの煙道に続く位置に並んで残されており、かまど側に入り口がある例が多いことともあわせて、住居と関連した屋外炉である可能性が高い。同様なパターンは、K435遺跡D1地点の5a層面検出の第14、15号竪穴住居跡においても認められる（上野・仙庭編1993）。これらの事例から推察すると、焼土6、7と同様に南北方向に一直線上に並んでいる焼土1～5の例も、用地外になるが、その北側に住居が存在し、それに関連した焼土であった可能性が高い。

上層文化層の土器群は、第1、2号竪穴住居跡及び発掘区出土の資料とも同様式のものである。甕では第24図1を除いては口縁部が大きく開く例が多く、頸部から口縁部にかけては胴部と頸部の間に沈線文を1本入れ、段を形成するタイプと浅い段状の連続沈線文が口唇部付近まで巡るタイプとがある。坏は、第18図1の例と発掘区出土の第25図10～16の轆轤水挽きの例（いわゆる土師器）とに集約できる。前者は、体部の立ち上がりはきつく、開きがあまり大きくない器形で、体部には段状の浅い沈線文が3条巡るものである。轆轤水挽きの例は、内黒で、ほとんどの破片は最終的にその破損面を擦っているという特異な利用方法が認められた。これらの土器群は、K446遺跡第2号竪穴住居跡、K435遺跡D地点の第20、22号竪穴住居跡等で出土した資料群と対比できるもので、宇田川編年でいう擦文前期の前半期に相当し、K435遺跡D1地点の一括資料群（8世紀後半）の次に位置する資料と判断されるところから、その年代は9世紀前半と考えられる。

下層文化層は、北大式期の単一包含層で、第10図1に代表される土器は、器形・整形の点からみても上野(1994)でいう「北大Ⅱ－Ⅲ式」期の段階の資料で、その年代は6世紀代と考えられる。

遺構としては焼土が2基と人為的な遺構の可能性が少ないピットが2基みつまっている。焼土9では、覆土中に炭化物と同時に骨片が数多く包含されていたが、その内訳は魚類は少なく、哺乳類が多いという結果が得られている。同様な傾向は、市内のK39遺跡の北大式期の包含層でも顕著に認められている（上野1992、p.805）。

【引用文献】

上野秀一 1979『K446遺跡』札幌市文化財調査報告書XX

上野秀一・仙庭伸久編1993『K435遺跡』札幌市文化財調査報告書XLII

上野秀一 1992「北海道における天王山式系土器について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』加藤稔先生還暦記念論文集

上野秀一 1994「北海道続縄文文化の諸問題—北大式をめぐる—」『北日本続縄文文化の実像』第5回縄文文化検討会シンポジウム

第 6 表 K113遺跡北34条地点遺構および動植物遺存体一覧表

確認 層位	区 名	遺構名	ブロック	規模 1 (cm)	規模 2 (cm)	深 さ (cm)	挿図番号	図 版 番 号	土壌容量 (ℓ)
9b	04-04	F9		(167)	(93)	11.0	7	7AB, 8A	3.15
9b	05-04	F10		59	37	2.0	7	8B	1.00
9b	05-04	Pit1		97	(76)	25.0	8	9AB	
9b	05-04	Pit2		(272)	190	53.0	9	9A, 10AB	
3a	04-03	HP1		470	500	60.0	12~14	12B-2, 14AB ~18AB, 9	
3a			C1	9	4	1.0			0.20
			C2	7	7	1.0			0.20
			C3	12	4	1.0			0.15
			SP1	26	23	50.1			1.50
			SP2	22	21	34.4			1.20
			SP3	19	18	29.9			1.15
			SP4	26	23	14.7			1.20
			カマド				13	17B, 18AB	14.20
3a	03-02	HP2					15~19	20AB~25AB	
	03-03							26, 27	
	02-02								
3a			SP1	45	32	48.9			0.40
			SP2	37	34	56.4			0.50
			カマド				16	25B	6.00
3a	05-04	F1		(49)	(66)	1.5	20	28AB, 29AB	3.35
	05-04	F2		(120)	(127)	3.0	20	28AB, 29AB	15.00
3a	06-04	F3		138	119	4.0	20	28AB, 30A	14.70
3a	05-04	F4A		(29)	(28)	2.0	21	30B, 31A	2.10
		F4B		(31)	(25)	2.0	21	30B, 31A	
3a	05-04	F5		213	75	3.0	21	31B	3.80
3a	03-03	F6		(165)	(112)	10.0	22	32A	3.80
3a	03-03	F7		241	61	3.0	22	32B	10.75
3a	04-03	F8		62	60	3.0	23-1	33A	2.00
3a	05-03	F11-1		292	189	8.0	23-2	33B	0.75

種子・堅果等 (粒)	炭 化 材 重量 (g)	動 物 骨 重量 (g)	魚骨・鳥獣骨等 点数・重量 (g)	サンプル番号
マメ科(1)、タデ属1、マタタビ属1、 ブドウ属(1)クルミ属0.21 g		1.27	コイ科0.01>、鳥・哺乳類1.27	11326
タデ属1	0.00			
				11327
タデ属1				11301
タデ属1		0.01>	魚類不明0.01>	11302
タデ属3				11303
		0.01>	魚類不明0.01>	11304
不明種子1				11305
				11306
				11307
アワ6、不明ミレット14		11.17	サケ科6.20、コイ科0.20、魚類不明4.72、鳥・哺乳類0.05、貝殻片、0.01>	11308~11311
		0.01>	サケ科0.01>	11312
タデ属6		0.01>	サケ科0.01>	11313
キビ1、ニワトコ(2)、不明ミレット3		1.90	サケ科0.53、チョウザメ0.01>、コイ科0.04、ニシン科0.15、魚類不明1.06、鳥・哺乳類0.13	11314~11317
ブドウ属1、クルミ属0.01>		0.03	サケ科0.03、魚類不明0.02	11318
アワ106、キビ84、アサ(21)、シソ属1、ナス科4、イネ科12、キハダ科属(5)、ブドウ属3(9)、クルミ属3.75 g、不明ミレット71		0.03	サケ科0.08、魚類不明0.01>	11319
アワ5、キビ19、タデ属1、キハダ属1、 ブドウ属2(1)、クルミ属0.12 g		0.01	魚類不明0.01	11320
タデ属1、キハダ属1、 クルミ属0.63 g、不明ミレット3		0.01>	魚類不明0.01>	11321
ブドウ属2、クルミ属1.32 g		0.00		11322
イネ科1、ブドウ属2(1)、クルミ属10.32 g、不明ミレット6		0.00	サケ科0.08	11323
アワ3、クルミ属2.19 g		0.01	魚類不明0.01>	11324
ブドウ属(1)		0.00		11325
タデ属9、マタタビ属1、キハダ属(1)		0.00		11328

第7表 K113遺跡北34条地点出土土器一覧表

挿図 番号	接合 番号	器種	規格(cm) 高×口×底	器厚 (mm)	器面調整		色調		図版 番号	備考
					外面	内面	外面	内面		
10-1	50A	深鉢	33.6×25.8×9.4	6.0	ナデ	ナデ	7.5YR7/3	7.5YR7/3	12B-1	容量7.1%
2		深鉢		8.0	ナデ	ナデ?	7.5YR6/4	7.5YR7/6	13A	
3		深鉢		7.0	ナデ	ナデ	10YR8/3	10YR8/3	13A	
4		深鉢		8.0	ナデ	ナデ	2.5YR6/6	10YR8/3	13A	
5		深鉢		7.0	ナデ	ナデ	2.5YR6/6	10YR8/2	13A	
14-1	32	甕		7.0	ヨコナデ	ハケメ→ミガキ	10YR8/3	10YR8/3	19	
2	31	甕		9.0	ハケメ→ミガキ	ハケメ→ミガキ	10YR8/3	10YR8/2	19	
3	30	甕		8.0	ハケメ→ミガキ	ミガキ	10YR8/3	5YR7/8	19	
4		甕		8.0	ミガキ	ナデ(風化)	10YR6/3	10YR8/3	19	
5		甕		7.0	ミガキ	ミガキ(風化)	7.5YR6/4	10YR8/2	19	
6		甕		5.0	ハケメ→ミガキ	ハケメ→ナデ?	2.5YR6/4	7.5YR8/2	19	
7	45	甕		5.0	ハケメ→(ヨコ)ナデ	ミガキ	5YR5/3	5YR4/2	19	
8	33	坏	底径7.4	4.0	ミガキ、ヘラケズリ	ミガキ	10YR7/2	7.5YR6/3	12B-2	
9	34	坏		5.0	ミガキ	(ハケメ→)ミガキ	7.5YR5/3	7.5YR3/1	19	
10		坏		5.0	ミガキ	ミガキ	10YR8/4	7.5YR7/4	19	
11		坏		4.0	ミガキ(風化)	ミガキ	10YR6/2	2.5YR5/6	19	
17-1	37	甕	口径31.8	6.0	ナデ、ハケメ	ハケメ→ナデ	10YR8/3	5YR7/4	26-2	
2	35	甕	底径9.8	7.0	ハケメ	ナデ、ハケメ	10YR8/3	7.5YR7/6	26-1	
3	40	甕	底径8.0	6.0	ハケメ	ナデ	5YR8/3	10YR8/2	26-3	底筈痕
4	39	甕	底径9.8	7.0	ナデ	(ヘラ)ナデ	7.5YR5/3	7.5YR5/3	26-4	底筈痕
5	42	甕		6.0	ハケメ	ハケメ→ナデ	10YR7/3	7.5YR6/6	27A	
18-1	38	坏	8.7×14.9×6.5	5.0	ミガキ	ミガキ	5YR7/6	7.5YR8/3	26-5	容量0.52%
2	43	坏		6.0	ミガキ	ミガキ	5YR6/6	5YR6/6	27A	
3	41	坏	底径6.6	4.5	ミガキ	ミガキ	2.5YR5/6	2.5YR4/1	26-6	底面ミガキ
4		坏		6.0	ナデ(風化)	ミガキ	10YR8/2	10YR2/1	27A	内黒
5		坏		7.5	ミガキ(風化)	ミガキ	10YR8/4	7.5YR8/3	27A	
6		坏		6.0	ミガキ	ミガキ	5YR3/2	5YR1.7/1	27A	内黒
7		坏		5.0	ミガキ(風化)	ミガキ	10YR8/2	7.5YR8/3	27A	一部内黒
24-1	3A	甕	32.7×25.2×8.9	8.0	ハケメ(→ナデ)	ハケメ→ナデ	10YR8/2	10YR8/2	37-1	容量6.6%
2	2A	甕	30.2×27.6×8.8	7.0	ハケメ(→ヨコナデ)	ハケメ(→ナデ)	10YR8/2	10YR8/2	37-2ab	容量5.5%
3	1A	甕	11.0×13.8×4.2	5.0	ナデ、ミガキ	ハケメ、ナデ	10YR8/2	10YR8/2	37-4	容量0.45%
4		甕		7.0	ハケメ→(ヨコ)ナデ	ハケメ(→ナデ)	10YR7/3	10YR7/3	39	
5		甕		6.0	ナデ	ハケメ→(ヨコ)ナデ	10YR6/2	10YR4/2	39	
6	10	甕		7.0	ナデ	ハケメ→(ヨコ)ナデ	10YR5/3	10YR5/3	39	
7		甕		7.0	ナデ	(ハケメ→)ナデ	10YR4/2	10YR7/3	39	
8	11	甕		6.0	ナデ	(ヨコ)ナデ	10YR5/2	10YR8/3	39	
9	8	甕		6.0	ナデ	(ヨコ)ナデ	10YR4/2	10YR4/2	39	
10		甕		5.0	ナデ	ミガキ	7.5YR4/4	7.5YR6/6	39	
11		甕		6.0	ナデ	(ヨコ)ナデ	10YR6/2	7.5YR5/3	39	
12	9	甕		7.0	ナデ	(ヘラ?)ナデ	7.5YR5/3	10YR8/2	39	
13	12	甕		6.0	ナデ	ナデ?(風化)	10YR8/2	10YR8/2	39	
25-1	4A	甕	39.9×32.2×8.6	6.0	ハケメ→ミガキ、ナデ	ハケメ(→ナデ)	10YR8/2	10YR8/2	38-1ab	容量8.8%
2	5	甕	推口径26.9	6.0	ミガキ、ナデ	ナデ、(ヘラ)ナデ	10YR7/2	10YR8/2	37-3	

挿図 番号	接合 番号	器種	規格 (cm) 高×口×底	器厚 (mm)	器 面 調 整		色 調		図版 番号	備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面		
3	14	坏	底径5.8	5.5	ミガキ	ミガキ	7.5YR8/6	7.5YR2/1	37-5	内黒
4	15	坏		4.0	ミガキ(風化)	ミガキ	10YR7/2	10YR2/1	39	内黒
5		坏		4.0	ナデ	(風化)	10YR6/3	10YR6/3	39	
6		坏		4.0	ナデ?(風化)	ナデ?(風化)	10YR7/3	10YR8/2	39	
7		坏		4.5	ミガキ	ミガキ	7.5YR5/3	7.5YR5/3	39	
8		坏		5.0	ミガキ	ミガキ	10YR2/1	10YR2/1	39	内黒
9	6	坏	底径6.4		ナデ		10YR8/1	10YR8/1	39	底笹痕
10	16	坏		5.0	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒
11		坏		5.0	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒
12		坏		4.5	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒
13		坏		4.0	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒
14		坏		5.0	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒
15		坏		6.0	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒
16		坏		4.0	ロクロ水挽	ロクロ水挽	10YR8/2	10YR2/1	39	内黒、底糸切

(注) 色調は『新版標準土色帖』による。

第 8 表 K113遺跡北34条地点発掘区出土石器・紡錘車一覧表

挿図 番号	確認 層位	遺構名 ／区名	遺物番号	器 種 名	規 格 (cm)			重量 (g)	石質	図版番号	備 考
					長さ	幅	厚さ				
11-1	9b	04-04	18	搔器	2.6	2.7	0.8	5.2	Obs.	13B	
2	9b	05-05	2	搔器	2.5	2.5	0.8	4.2	Obs.	13B	焼け
3	9b	04-03	14	搔器	2.5	2.9	0.7	4.8	Obs.	13B	
4	9b	04-04	15	搔器	(1.6)	(1.7)	(0.6)	(1.8)	Obs.	13B	焼け
5	9b	05-04	33	剥片石核	(3.7)	(2.5)	(1.8)	(12.4)	Obs.	13B	焼け
6	9b	05-04	31	剥片石核	2.0	1.9	1.1	4.1	Obs.	13B	
7	9b	04-04	25	剥片石核	2.1	2.3	1.1	5.0	Obs.	13B	焼け
8	9b	04-04	9	楔形石器	2.2	1.2	0.6	1.7	Obs.	13B	
9	9b	04-04	17	剥片	2.2	3.1	0.5	3.3	Obs.	13B	
10	9b	05-04	30	剥片	(3.3)	(2.3)	(0.6)	(3.4)	Obs.	13B	
11	9b	04-04	4	剥片	(2.5)	(2.3)	(0.8)	(3.3)	Obs.	13B	
12	9b	04-03	28	擦石	(7.9)	(8.3)	(4.0)	(290.0)	And.	13B	
13	9b	05-04	54	敲石	6.5	7.9	2.3	174.6	And.	13B	
14	9b	05-04	16	擦石	(6.7)	(10.5)	(4.4)	(440.0)	And.	13B	
19-1	3a	HP2	29	紡錘車	8.0	7.9	2.4	169.2		27B-1a、b	III b、c 層
2	3a	HP2	35	紡錘車	(4.5)	(5.7)	(1.4)	(36.3)		27B-2a～c	カマド
26-1	3a	04-03	4	砥石	5.4	5.9	4.4	46.9	Pum.	38B	
2	3a下	03-03	5	擦石	8.1	6.2	5.7	400.0	Mud.	38B	

〔石質略号〕

And. (Andesite): 安山岩、Mud. (Mudstone): 泥岩、Obs. (Obsidian): 黒曜石、Pum. (Pumice): 軽石

第9表 K113遺跡北34条地点出土遺物集計表

区名・遺構	器種		9 b層		3 a層	
			点数	重量(g)	点数	重量(g)
03-03	土器	深鉢・甕			3	25.9
		坏			2	15.7
	石・礫	石器			1	400.0
		剥片・削片				
		礫				
04-03	土器	深鉢・甕	19	103.2	17	101.4
		坏			1	11.4
	石・礫	石器	2	294.8	1	46.9
		剥片・削片				
		礫				
04-04	土器	深鉢・甕	2	49.9	265	5,277.4
		坏				
	石・礫	石器	7	13.7		
		剥片・削片	26	37.7		
		礫	2	42.1		
05-04	土器	深鉢・甕	89	1,823.3	32	402.4
		坏				
	石・礫	石器	2	614.6	9	505.0
		剥片・削片	4	22.7		
		礫	2	204.6	3	471.6
05-05	土器	深鉢・甕				
		坏				
	石・礫	石器	1	4.2		
		剥片・削片	1	?		
		礫				
06-04	土器	深鉢・甕			211	2,054.3
		坏			19	126.0
	石・礫	石器			2	128.8
		剥片・削片				
		礫			2	125.6
小計			157	3,210.8	568	9,692.4
HP1	土器	深鉢・甕			13	505.9
		坏			18	136.4
	石・礫	石器				
		剥片・削片				
		礫			3	3,007.5
小計					34	3,649.8
HP2	土器	深鉢・甕			95	4,054.6
		坏			16	559.1
	石・礫	石器			3	774.4
		剥片・削片				
		礫			6	504.1
小計					120	5,892.2
F2	土器	深鉢・甕			1	2.4
		坏				
	石・礫	石器				
		剥片・削片				
		礫				
小計					1	2.4
合計 (内訳)	土器	深鉢・甕	110	1,976.4	637	12,424.0
		坏			56	848.6
	石・礫	石器	12	927.3	16	1,855.1
		剥片・削片	31	60.4		
		礫	4	246.7	14	4,108.8
総計			157	3,210.8	723	19,236.8

第10表 K113遺跡北34条地点出土遺物一覽表(遺物台帳)

区名	遺物 番号	枝番号	層位	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時期	種別	器種	点数	重量(g)	部位	備考	挿図番号	図版番号
03-03	1		3a	8.087			擦文前期	土器	甕	1	11.5	胴部			
03-03	2		3a	8.045	13		擦文前期	土器	甕	1	10.4	胴部			
03-03	3		3a	8.044	13		擦文前期	土器	甕	1	4.0	胴部			
03-03	4		3a	8.030	15	T7	擦文前期	土器	坏	2	15.7	口縁部		25-4	39
03-03	5		3a下	7.970			擦文前期	石器	擦石	1	400.0	完形		26-2	38B
04-03	1		3a	7.868			擦文前期	土器	甕	1	5.0	胴部			
04-03	2		3a	7.891			擦文前期	土器	甕	1	14.4	胴部			
04-03	3		3a	7.892			擦文前期	土器	甕	1	23.6	胴部			
04-03	4		3a	7.904			擦文前期	石器	砥石	1	46.9	完形		26-1	38B
04-03	5		3a	7.755			擦文前期	土器	甕	1	2.2	胴部			
04-03	6		3a	7.729		T10	擦文前期	土器	甕	1	4.2	胴部		25-5	39
04-03	7		3a	7.752			擦文前期	土器	甕	1	9.2	胴部			
04-03	8		3a	7.825		T11	擦文前期	土器	甕	1	4.4	口縁部		25-6	39
04-03	9		3a	7.742		T12	擦文前期	土器	甕	1	4.0	口縁部		24-10	39
04-03	10	1	3a	7.737	6	T1	擦文前期	土器	甕	4	11.8	底部		25-9	39
04-03	11	2	3a	7.737			擦文前期	土器	甕	1	15.0	胴部			
04-03	12		3a	7.747	6	T1	擦文前期	土器	甕	2	4.0	底部		25-9	39
04-03	13		3a	7.741	6	T1	擦文前期	土器	甕	1	2.5	底部		25-9	39
04-03	14		3a	7.730		T13	擦文前期	土器	坏	1	11.4	口縁部		25-8	39
04-03	15		9b	7.373			縄文後期	石器	槌器	1	4.8	一部欠損		11-3	13B
04-03	16		9b	7.347	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	3	6.7	胴部			
04-03	17		9b	7.406	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	1.7	胴部			
04-03	18		9b	7.430	50B	T35	縄文後期	土器	深鉢	1	12.1	胴部		10-4	13A
04-03	19		9b	7.428	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	12.2	口縁部		10-1	12B-1
04-03	20		9b	7.429	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	7.6	口縁部		10-1	12B-1
04-03	21		9b	7.428	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	0.4	胴部			
04-03	22	1	9b	7.435	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	2	5.0	胴部			
04-03	23	2	9b	7.446	50(C)	T37	縄文後期	土器	深鉢	1	14.7	胴部		10-5	13A
04-03	24		9b	7.446	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	1.8	胴部			
04-03	25		9b	7.439	50B	T35	縄文後期	土器	深鉢	1	11.4	胴部		10-4	13A
04-03	26		9b	7.419	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	2.7	胴部			
04-03	27		9b	7.429	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	11.1	胴部		10-1	12B-1
04-03	28		9b	7.433			縄文後期	土器	深鉢	1	3.1	口縁部			
04-03	28		9b	7.415	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	6.6	胴部			
04-03	28		9b	7.428			縄文後期	石器	擦石	1	290.0	破片		11-12	13B

区名	遺物 番号	枝番号	層位	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時 期	種別	器 種	点数	重量(g)	部 位	備 考	挿図番号	図版番号
04-03	29		9b	7.422	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	1.2	胴部		10-2	13A
04-03	30	1	9b	7.443	50(C)	T 38	縄文後期	土器	深鉢	1	4.9	胴部		25-2	37-3
04-03	30	2	3a	7.443	5		擦文前期	土器	甕	1	1.1	口縁部		23-3, 24-1	35B, 36B, 37-1
04-04	1	1	3a上	7.792	3A		擦文前期	土器	甕	136	2,542.1	口—底部		23-3	35B, 36B
04-04	1	2	3a上	7.792	3(B)		擦文前期	土器	甕	15	6.4	胴部			
04-04	1	3	3a上	7.792			擦文前期	土器	甕	5	0.8	胴部			
04-04	2	1	3a上	7.784	4A		擦文前期	土器	甕	83	2,710.0	口—底部		23-3, 25-1	35B, 36A, 38-1ab
04-04	2	2	3a上	7.784	4(B)		擦文前期	土器	甕	26	18.1	胴部		23-3	35B, 36A
04-04	3		9b	7.448	51	T 36	縄文後期	土器	深鉢	1	22.9	胴部		10-3	13A
04-04	4		9b	7.455			縄文後期	石器	剥片	1	3.3	一部欠損		11-11	13B
04-04	5		9b	7.450			縄文後期	石器	削片	1	0.4	完形	焼け		
04-04	6		9b	7.415			縄文後期	石器	削片	1	0.1	破片			
04-04	7		9b	7.413			縄文後期	石器	削片	1	0.4	完形			
04-04	8		9b	7.434			縄文後期	石器	削片	1	0.3	完形			
04-04	9		9b	7.452			縄文後期	石器	楔形石器	1	1.7	完形	焼け	11-8	13B
04-04	10		9b	7.450			縄文後期	石器	削片	1	0.3	完形			
04-04	11		9b	7.465			縄文後期	石器	削片	1	0.8	完形			
04-04	12		9b	7.437			縄文後期	ク ル ミ	破片	3	0.2				
04-04	13		9b	7.455			縄文後期	礫	破片	1	4.3				
04-04	14		9b	7.433			縄文後期	石器	剥片	1	1.8	完形	焼け・厚手		13B
04-04	15		9b	7.441			縄文後期	石器	搔器	4	1.8	破片	焼け	11-4	
04-04	16		9b	7.442			縄文後期	石器	剥片	1	4.9	完形	石核関係剥片・厚手		13B
04-04	17		9b	7.443			縄文後期	石器	剥片	1	3.3	完形		11-9	13B
04-04	18		9b	7.424			縄文後期	石器	搔器	1	5.2	完形	円形	11-1	13B
04-04	19		9b	7.368			縄文後期	石器	削片	1	0.6	一部欠損			
04-04	20		9b	7.373			縄文後期	石器	削片	1	0.6	完形			
04-04	21		9b	7.315			縄文後期	礫	破片	1	18.0	破片			
04-04	22		9b	7.322			縄文後期	石器	剥片	1	4.0	破片	過度に焼けている		
04-04	23		9b	7.323			縄文後期	石器	剥片	1	2.6	破片	焼け・厚手		
04-04	24	1	9b	7.337			縄文後期	石器	削片	1	0.1	完形			
04-04	24	2	9b	7.337			縄文後期	石器	剥片	1	0.1	破片			
04-04	25		9b	7.455			縄文後期	石器	楔形石器	1	5.0	完形	焼け	11-7	13B
04-04	26		9b	7.457			縄文後期	石器	削片	3	0.6	完形			
04-04	27		9b	7.420	51	T 36	縄文後期	土器	深鉢	1	27.0	胴部		10-3	13A
04-04	28		9b	7.349			縄文後期	礫	破片	1	37.8	完形	シルト岩		

区名	遺物番号	枝番号	層位	標高(m)	接合番号	拓本番号	時期	種別	器種	点数	重量(g)	部位	備考	挿図番号	図版番号
04-04	29		9b	7.380			縄文後期	石器	剥片	1	1.8	完形	発掘時一部欠損		
04-04	30		9b	7.519			縄文後期	石器	剥片	1	8.4	完形	石核関係剥片・厚手		
04-04	31		9b	7.373			縄文後期	石器	剥片	1	1.6	完形			
04-04	32	1	9b	7.366			縄文後期	石器	削片	1	0.7	完形			
04-04	32	2	9b	7.366			縄文後期	石器	削片	2	0.8	破片			
04-04	33		9b	7.291			縄文後期	石器	削片	1	0.2	完形	焼付		
05-04					2A		縄文前期	土器	甕	2	166.1	胴部	T R 12	24-2	37-2ab
05-04	1		3a	7.581			擦文前期	石器	棒状礫	1	65.2	完形	74×36×22mm		
05-04	2		3a	7.540			擦文前期	石器	棒状礫?	3	29.3	破片	三分割8×35×32.6mm		
05-04	3		3a	7.525			擦文前期	石器	棒状礫	1	98.7	完形	68×37×25.2mm		
05-04	4		3a	7.510			擦文前期	石器	棒状礫	1	64.0	完形	50×36×27.3mm		
05-04	5		3a	7.526			擦文前期	石器	棒状礫	1	64.4	完形	56×31×27.6mm		
05-04	6		3a	7.512			擦文前期	石器	棒状礫	1	75.6	完形	66×39×23mm		
05-04	7		3a	7.568	5		擦文前期	土器	甕	1	3.9	胴部		25-2	37-3
05-04	8		3a	7.571			擦文前期	石器	棒状礫	1	107.8	完形	72×42×31mm		
05-04	9		3a	7.582	S19		擦文前期	礫	礫片	1	79.0	破片	焼付・熱破碎		
05-04	10		3a	7.583			擦文前期	礫	小型礫	1	7.6	完形			
05-04	11		3a	7.623	2A		擦文前期	土器	甕	1	17.0	胴部		24-2	37-2ab
05-04	12		3a	7.623	5		擦文前期	土器	甕	1	56.0	頸—胴部		25-2	37-3
05-04	13		3a	7.609	7		擦文前期	土器	甕	5	44.4	胴部			
05-04	14		3a	7.551	S19		擦文前期	礫	礫片	1	385.0	破片	焼・熱破碎		
05-04	15		9b	7.321			縄文後期	礫	礫片	1	40.0	欠損			11A
05-04	16		9b	7.257			縄文後期	石器	擦石	1	440.0	破片		11-14	11A、13B
05-04	17		3a下	7.543		T14	擦文前期	土器	甕	1	6.8	口縁部		24-11	39
05-04	18		3a下	7.531	5		擦文前期	土器	甕	2	28.4	口縁部		25-2	37-3
05-04	19		3a下	7.548	5		擦文前期	土器	甕	1	5.5	口縁部		25-2	37-3
05-04	20		3a下	7.527			擦文前期	土器	甕	1	0.7	口縁部			
05-04	21	1	3a下	7.544	5		擦文前期	土器	甕	1	16.0	口縁部		25-2	37-3
05-04	21	2	3a下	7.544	8	T2	擦文前期	土器	甕	5	6.3	口縁部		24-9	39
05-04	22		3a下	7.538	5		擦文前期	土器	甕	1	4.9	胴部		25-2	37-3
05-04	23		3a下	7.533	5		擦文前期	土器	甕	1	4.0	胴部		25-2	37-3
05-04	24	1	3a下	7.543	5		擦文前期	土器	甕	2	11.7	胴部		25-2	37-3
05-04	24	2	3a下	7.543	18		擦文前期	土器	甕	2	0.9	胴部			
05-04	25		3a下	7.542	5		擦文前期	土器	甕	1	13.2	胴部		25-2	37-3
05-04	26		3a下	7.537	5		擦文前期	土器	甕	1	4.1	胴部		25-2	37-3

区名	遺物 番号	枝番号	層位	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時期	種別	器種	点数	重量(g)	部位	備考	挿図番号	図版番号
05-04	27		3a下	7.541			擦文前期	土器	甕	1	3.1	胴部			
05-04	28		3a下	7.543			擦文前期	土器	甕	1	7.5	胴部		25-2	37-3
05-04	29		3a	7.616	5		擦文前期	土器	甕	1	1.9	胴部			
05-04	30		9b	7.440			統縄文後期	石器	剥片	1	3.4	一部欠損		11-10	13B
05-04	31		9b	7.406			統縄文後期	石器	剥片石核	1	4.1	完形		11-6	13B
05-04	32		9b	7.388			統縄文後期	礫	礫片	1	164.6	破片	焼け		
05-04	33		9b	7.605			統縄文後期	石器	剥片石核	1	12.4	一部欠損	焼け	11-5	13B
05-04	34		9b	7.086			統縄文後期	石器	剥片	1	2.8	破片	厚手		
05-04	35		9b	7.150	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	38.9	胴—底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	36		9b	7.249	51	T 36	統縄文後期	土器	深鉢	1	4.5	胴部		10-3	11B, 13A
05-04	37	1	9b	7.250	50A		統縄文後期	土器	深鉢	3	45.2	胴部		10-1	11B, 12B-1
05-04	38	2	9b	7.258	50(C)		統縄文後期	土器	深鉢	5	2.0	胴部			11B
05-04	39	1	9b	7.243	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	0.9	胴部			11B
05-04	40	2	9b	7.243	50(C)		統縄文後期	土器	深鉢	1	1.4	胴部		10-1	11B, 12B-1
05-04	41		9b	7.244	50(C)		統縄文後期	土器	深鉢	1	0.2	胴部			11B
05-04	42		9b	7.245	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	1.9	胴部			11B
05-04	43		9b	7.211	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	0.4	底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	44	1	9b	7.211	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	29.0	胴部		10-1	11B, 12B-1
05-04	45	2	9b	7.211	50(C)		統縄文後期	土器	深鉢	1	1.9	胴部			11B
05-04	46		9b	7.184	50A		統縄文後期	土器	深鉢	2	77.3	口縁部		10-1	11B, 12B-1
05-04	47		9b	7.153	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	51.1	胴—底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	48		9b	7.146	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	59.7	胴—底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	49		9b	7.195	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	3.7	胴部		10-1	11B, 12B-1
05-04	50	1	9b	7.101	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	35.0	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	51	2	9b	7.096	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	110.6	胴—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	52		9b	7.118	50A		統縄文後期	土器	深鉢	3	52.0	胴—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	53		9b	7.132	50A		統縄文後期	土器	深鉢	3	20.0	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	54		9b	7.132	50(C)		統縄文後期	土器	深鉢	1	2.0	胴部			11B, 12A
05-04	55		9b	7.126	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	84.0	胴—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	56		9b	7.133	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	9.0	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	57	1	9b	7.128	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	89.6	胴—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	58	2	9b	7.128	50(C)		統縄文後期	土器	深鉢	1	1.5	胴部			11B, 12A
05-04	59		9b	7.144			統縄文後期	石器	敲石	1	174.6	完形		11-13	11B, 12A, 13B
05-04	60		9b	7.166	50A		統縄文後期	土器	深鉢	4	54.0	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	61		9b	7.154	50A		統縄文後期	土器	深鉢	1	6.9	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1

区名	遺物 番号	枝 番号	層	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時 期	種別	器 種	点数	重量(g)	部 位	備 考	挿図番号	図版番号
05-04	57		9b	7.151	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	8.2	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	58		9b	7.146	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	1.8	胴部			11B, 12A
05-04	59		9b	7.154	50A		縄文後期	土器	深鉢	3	5.1	口—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	60	1	9b	7.222	50A		縄文後期	土器	深鉢	4	5.7	胴—底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	60	1	9b	7.222	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	4	3.3	胴部			11B
05-04	61	1	9b	7.193	50A		縄文後期	土器	深鉢	5	40.6	胴—底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	61	2	9b	7.193	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	1	0.2	胴部			11B
05-04	62		9b	7.187	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	6.4	胴部		10-1	11B, 12B-1
05-04	63		9b	7.243	50(C)		縄文後期	土器	深鉢	4	3.6	胴部			11B
05-04	64		9b	7.245	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	23.7	胴—底部		10-1	11B, 12B-1
05-04	65		9b	7.243	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	3.0	胴部		10-1	11B, 12B-1
05-04	66		9b	7.175	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	2.6	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	67		9b	7.090	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	37.6	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	68		9b	7.181	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	65.6	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	69		9b	7.106	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	128.0	口縁部		10-1	11B, 12B-1
05-04	70		9b	7.138	50A		縄文後期	土器	深鉢	2	127.0	口—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	71		9b	7.113	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	111.6	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	72		9b	7.118	50A		縄文後期	土器	深鉢	6	134.4	口—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	73		9b	7.120	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	38.5	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	74		9b	7.130	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	66.8	口—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	75		9b	7.100	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	51.9	胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	76		9b	7.092	50A		縄文後期	土器	深鉢	2	56.4	口—胴部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	77		9b	7.093	50A		縄文後期	土器	深鉢	1	32.8	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-04	78		9b	7.105	50A		縄文後期	土器	深鉢	4	85.8	口縁部		10-1	11B, 12A, 12B-1
05-05	1		9b	7.055			縄文後期	石器	削片	1			遺物紛失		
05-05	2		9b	7.028			縄文後期	石器	搔器	1	4.2	完形	焼け・凹形	11-2	13B
06-04	1	1	3a	7.631	1A		縄文前期	土器	搔器	24	265.0	完形		24-3	37-4
06-04	1	2	3a	7.631	1(B)		擦文前期	土器	小型甕	2	1.4	口縁部			
06-04	1	3	3a	7.631	2A		擦文前期	土器	甕	37	442.5	胴—底部		24-2	37-2ab
06-04	1	4	3a	7.631	2(B)		擦文前期	土器	甕	20	18.0	口—胴部			
06-04	2	1	3a	7.630	2A		擦文前期	土器	甕	9	226.0	口—頸部		24-2	37-2ab
06-04	2	2	3a	7.630	2(B)		擦文前期	土器	甕	15	7.8	胴部			
06-04	3	1	3a	7.584	2A		擦文前期	土器	甕	38	787.8	口—胴部		24-2	37-2ab
06-04	3	2	3a	7.584	2(B)		擦文前期	土器	甕	16	13.9	口—胴部			
06-04	3	3	3a	7.584	3A		擦文前期	土器	甕	1	6.2	口縁部		24-1	37-1

区名	遺物 番号	枝番号	層位	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時期	種別	器種	点数	重量(g)	部位	備考	挿図番号	図版番号
06-04	4		3a	7.626			擦文前期	土器	甕	1	1.3	口縁部		24-2	37-2ab
06-04	5		3a	7.592	2A		擦文前期	土器	甕	1	26.5	胴部		24-1	37-1
06-04	6		3a	7.560	3A		擦文前期	土器	甕	3	42.5	口縁部		24-5	39
06-04	7		3a	7.604		T15	擦文前期	土器	甕	1	3.8	口縁部			
06-04	8		3a	7.576			擦文前期	土器	甕	1	3.4	口縁部	焼・熱破砕、No19と同一個		
06-04	9		3a	7.607			擦文前期	土器	甕	1	90.0	破片			
06-04	10		3a	7.602	14	T39	擦文前期	土器	破片	2	69.1	底部		25-3	37-5
06-04	11	1	3a	7.651	14	T39	擦文前期	土器	坏	2	8.5	底部		25-3	37-5
06-04	11	2	3a	7.651	17	T9	擦文前期	土器	坏	3	9.5	体—底部		25-16	39
06-04	12	1	3a	7.660	16	T8	擦文前期	土器	坏	2	6.5	口縁部		25-10	39
06-04	12	2	3a	7.660	31	T20	擦文前期	土器	甕	2	35.0	胴部		14-2	19
06-04	12	3	3a	7.660			擦文前期	土器	甕	1	3.0	胴部			
06-04	13	1	3a	7.656	17	T9	擦文前期	土器	坏	1	3.6	体—底部	ロクロ引き(内黒)	25-16	39
06-04	13	2	3a	7.656		T16	擦文前期	土器	甕	1	7.1	口縁部		24-7	39
06-04	13	3	3a	7.656		T42	擦文前期	土器	坏	1	1.1	体部	ロクロ引き(内黒)	25-15	39
06-04	13	4	3a	7.656			擦文前期	土器	甕	6	10.8	胴部			
06-04	14	1	3a	7.665	9	T3	擦文前期	土器	甕	1	6.2	胴部		24-12	39
06-04	14	2	3a	7.665		T43	擦文前期	土器	坏	1	1.2	体部	ロクロ引き(内黒)	25-13	39
06-04	15	1	3a	7.663		T44、 T45	擦文前期	土器	坏	2	2.5	体部	ロクロ引き(内黒)	25-12、14	39
06-04	15	2	3a	7.663		T17	擦文前期	土器	坏	1	5.7	口縁部	ロクロ引き(内黒)	25-11	39
06-04	15	3	3a	7.663			擦文前期	土器	小型甕？	15	20.7	胴部			
06-04	16		3a	7.628			擦文前期	土器	坏	1	1.6	体部		24-12	39
06-04	17		3a	7.621	9	T3	擦文前期	土器	甕	1	1.2	口縁部			
06-04	18		3a	7.591			擦文前期	土器	甕	1	1.4	胴部			
06-04	19		3a	7.623	10	T4	擦文前期	土器	甕	1	6.9	口縁部		24-6	39
06-04	20	1	3a	7.669	2A	T5	擦文前期	土器	甕	1	10.2	胴部		24-2	37-2ab
06-04	20	2	3a	7.669	11	T5	擦文前期	土器	甕	1	5.6	口縁部		24-8	39
06-04	21	1	3a	7.636	11	T5	擦文前期	土器	甕	1	3.2	口縁部		24-8	39
06-04	21	2	3a	7.636			擦文前期	土器	甕	3	3.0	胴部			
06-04	22		3a	7.625			擦文前期	土器	破片	1	35.6	破片			
06-04	23		3a	7.657	31	T20	擦文前期	土器	甕	1	31.9	胴部		14-2	19
06-04	24		3a	7.650	31	T20	擦文前期	土器	甕	1	7.2	胴部		14-2	19
06-04	25		3a	7.653	30	T19	擦文前期	土器	甕	1	19.3	胴部		14-3	19
06-04	26		3a	7.645			擦文前期	石器	棒状礫	1	75.4	完形	66×43×24.2mm		

区名	遺物 番号	枝 番号	層 位	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時 期	種別	器 種	点数	重量(g)	部 位	備 考	挿図番号	図版番号
06-04	27		3a	7.624	12	T6	擦文前期	土器	甕	1	7.0	口縁部		24-13	39
06-04	28		3a	7.622	12	T6	擦文前期	土器	甕	1	4.0	口縁部		24-13	39
06-04	29		3a	7.526	10	T4	擦文前期	土器	甕	1	15.0	口縁部		24-6	39
06-04	30		3a下	7.492			擦文前期	石器	棒状礫	1	57.4	完形			
06-04	31		3a下	7.533	9	T3	擦文前期	土器	甕	1	9.5	口縁部	54×37×25.3mm	24-12	39
06-04	32	1	3a下	7.440			擦文前期	土器	坏	1	2.7	底部			
06-04	32	2	3a下	7.440			擦文前期	土器	坏	1	2.0	底部			
06-04	33		3a下	7.581		T18	擦文前期	土器	坏	1	12.0	口縁部		24-4	39
HP1	1	1	Va~f	7.394	35		擦文前期	土器	坏	2	1.6	底部	内黒		
HP1	1	2	Va~f	7.394	30	T19	擦文前期	土器	坏	1	2.8	底部			
HP1	2		Va~f	7.241		T23	擦文前期	土器	甕	1	44.4	胴部		14-3	19
HP1	3		Va~f	7.247	31	T20	擦文前期	土器	甕	1	73.0	胴部		14-5	19
HP1	4		VII	7.225		T24	擦文前期	土器	甕	1	13.1	胴部		14-2	19
HP1	5		VII	7.227	32	T21	擦文前期	土器	甕	1	23.2	胴部		14-6	19
HP1	6		Va~f	7.243	30	T19	擦文前期	土器	甕	1	44.7	口縁部		14-1	19
HP1	7		Va~f	7.244			擦文前期	土器	甕	1	77.0	胴部		14-3	19
HP1	8		Va~f	7.393			擦文前期	礫	軽石	1	7.5				
HP1	9		VII	7.221	31	T20	擦文前期	土器	甕	1	26.6	胴部		14-2	19
HP1	10		VII	7.220		T25	擦文前期	土器	甕	1	24.0	胴部		14-4	19
HP1	11	1	VII	7.223	30	T19	擦文前期	土器	甕	1	70.3	胴部		14-3	19
HP1	11	2	VII	7.223	32	T21	擦文前期	土器	甕	1	54.4	口縁部		14-1	19
HP1	12		VII	7.187			擦文前期	礫	大型礫	1	1,350.0	完形			
HP1	13		カマド	7.236	33		擦文前期	土器	坏	5	84.2	体—底部		14-8	12B-2
HP1	14		カマド	7.245		T26	擦文前期	土器	坏	1	11.4	底部		14-11	19
HP1	15	1	カマド	7.271	31	T20	擦文前期	土器	甕	1	24.9	胴部		14-2	19
HP1	15	2	カマド	7.271		T27	擦文前期	土器	坏	1	4.6	口縁部		14-10	19
HP1	16		Va~f	7.213			擦文前期	礫	大型礫	1	1,650.0	完形			
HP1	17		カマド	7.273	34	T22	擦文前期	土器	坏	8	31.8	口—体部		14-9	19
HP1	18		カマド	7.233	45	T28	擦文前期	土器	甕	1	26.9	口縁部		14-7	19
HP1			カマド		45	T28	擦文前期	土器	甕	1	3.4	口縁部	7ローテーションH.F.検出	14-7	19
HP2	1		IIIb,c	7.641		T31	擦文前期	土器	坏	1	9.0	底部		18-6	27A
HP2	2	1	カマド袖	7.771	36		擦文前期	土器	甕	17	1,078.7	口—胴部		17-2	26-1
HP2	2	2	カマド袖	7.771	38		擦文前期	土器	坏	1	37.4	口—体部		18-1	26-5
HP2	3	1	IIIb,c	7.726	36		擦文前期	土器	甕	8	461.6	胴—底部		17-2	26-1
HP2	3	2	IIIb,c	7.726			擦文前期	土器	甕	1	1.1	胴部			

区名	遺物 番号	枝番号	層位	標高(m)	接合 番号	拓本 番号	時 期	種別	器 種	点数	重量(g)	部 位	備 考	挿図番号	図版番号
HP2	4		IIIb,c	7.665	38		擦文前期	土器	坏	6	260.1	口—底部		18-1	26-5
HP2	5	1	IIIb,c	7.646	36		擦文前期	土器	甕	1	6.2	胴部		17-2	26-1
HP2	5	2	IIIb,c	7.646	37		擦文前期	土器	甕	51	1,685.0	口—胴部		17-1	26-2
HP2	6		IIIb,c	7.713		T32	擦文前期	土器	坏	1	20.3	底部		18-7	27A
HP2	7		IIIb,c	7.717	39		擦文前期	土器	甕	2	141.5	胴—底部		17-4	26-4
HP2	8		IIIb,c	7.709	39		擦文前期	土器	甕	1	13.6	胴部		17-4	26-4
HP2	9		IIIb,c	7.694	39		擦文前期	土器	甕	2	77.9	胴—底部		17-4	26-4
HP2	10		IIIb,c	7.712	39		擦文前期	土器	甕	3	98.0	胴部		17-4	26-4
HP2	11		IIIb,c	7.734	39		擦文前期	土器	甕	1	202.5	底部		17-4	26-4
HP2	12		IIIb,c	7.719			擦文前期	土器	甕	1	425.0	破片	焼け・熱破砕	17-4	26-4
HP2	13		IIIb,c	7.679		T33	擦文前期	土器	大型破片	1	22.8	口縁部		18-4	27A
HP2	14		IIIb,c	7.762		T34	擦文前期	土器	坏	1	24.5	口縁部		18-5	27A
HP2	15		IIIb,c	7.668	40	T40	擦文前期	土器	甕	1	8.6	胴部		17-3	26-3
HP2	16		IIIb,c	7.579	40	T40	擦文前期	土器	甕	1	49.6	胴部		17-3	26-3
HP2	17		IIIb,c	7.550			擦文前期	土器	坏	1	0.8	口縁部			
HP2	18		IIIb,c	7.540			擦文前期	石器	棒状礫	1	300.0	完形	105×59×35.2mm		
HP2	19		IIIb,c	7.558			擦文前期	礫	小型礫	1	19.2	完形	シルト岩		
HP2	20		IIIb,c	7.565			擦文前期	礫	小型礫	1	18.0	完形	シルト岩		
HP2	21		IIIb,c	7.558			擦文前期	礫	小型礫	1	14.2	完形	シルト岩		
HP2	22		IIIb,c	7.566			擦文前期	礫	小型礫	1	14.4	完形	シルト岩・発掘時一部破損		
HP2	23		IIIb,c	7.582			擦文前期	礫	小型礫	1	13.3	完形	シルト岩・発掘時一部破損		
HP2	24		カマド	7.667	42	T29	擦文前期	土器	甕	1	25.0	胴部		17-5	27A
HP2	25		カマド	7.720	40	T40	擦文前期	土器	甕	1	98.5	底部		17-3	26-3
HP2	26	1	カマド	7.703	40	T40	擦文前期	土器	甕	1	25.8	胴部		17-3	26-3
HP2	26	2	カマド	7.703	42	T29	擦文前期	土器	甕	1	36.4	胴部		17-5	27A
HP2	27		カマド	7.713			擦文前期	石器	棒状礫	1	275.0	完形	121×60×32.2mm		
HP2	28		カマド	7.727	41		擦文前期	土器	坏	1	144.2	体—底部		18-3	26-6
HP2	29		IIIb,c	7.702			擦文前期	土製品	紡錘車	1	169.2	完形		19-1	27B-1ab
HP2	30		カマド	7.696			擦文前期	土製品	粘土塊	1	2.2	破片			
HP2	31		カマド	7.773	44		擦文前期	土器	甕	1	18.0	胴部			
HP2	32		IIIb,c	7.541			擦文前期	石器	棒状礫	1	199.4	完形	104×48×32.5mm		
HP2	33		カマド	7.733	44		擦文前期	土器	甕	1	26.6	胴部			
HP2	34		カマド	7.709	43	T30	擦文前期	土器	坏	3	40.0	口—体部		18-2	27A
HP2	35		カマド	7.702		T41	擦文前期	土製品	紡錘車	1	36.3	破片		19-2	27B-2a~c
F2			カマド			T46	擦文前期	土器	甕	1	2.4	胴部	7ローテーション・H.F.検出	25-7	39

第11表 K113遺跡北34条地点遺物接合一覽表

接合 番号	拓本 番号	区 名	遺物 番号	枝番号	層位	点数	重量(g)	器種	部 位	挿図 番号	図 版 番 号	接 合 距離(m)	方 向
1A		06-04	1	1	3a	24	265.0	小型甕	完形	24-3	37-4	4.2	NE-SW
1(B)		06-04	1	2	3a	2	1.4	小型甕	口縁部				
2A		05-04	11		3a	1	17.0	甕	胴部	24-2	37-2ab		
2A		06-04	1	3	3a	37	442.5	甕	胴一底部	24-2	37-2ab		
2A		06-04	2	1	3a	9	226.0	甕	口一頸部	24-2	37-2ab		
2A		06-04	3	1	3a	38	787.8	甕	口一胴部	24-2	37-2ab		
2A		06-04	5		3a	1	26.5	甕	胴部	24-2	37-2ab		
2A		06-04	20	1	3a	1	10.2	甕	胴部	24-2	37-2ab		
2A		05-04				2	166.1	甕	胴部	24-2	37-2ab		
2(B)		06-04	1	4	3a	20	18.0	甕	口一胴部				
2(B)		06-04	2	2	3a	15	7.8	甕	胴部			12.8	NW-SE
2(B)		06-04	3	2	3a	16	13.9	甕	口一胴部				
3A		04-04	1	1	3a上	136	2,542.1	甕	口一底部	23-3 24-1	35B、36B、 37-1		
3A		06-04	3	3	3a	1	6.2	甕	口縁部	24-1	35B、36B、 37-1		
3A		06-04	6		3a	3	42.0	甕	口縁部	24-1	35B、36B、 37-1		
3(B)		04-04	1	2	3a上	15	6.4	甕	胴部	23-3	35B、36B		
3(B)		04-04	不明		3a上	5	0.8	甕	胴部				
4A		04-04	2	1	3a上	83	2,710.0	甕	口一底部	23-3 25-1	35B、36A、 38-1ab		
4(B)		04-04	2	2	3a上	26	18.1	甕	胴部	23-3	35B、36A	16.0	NW-SE
5		04-03	30	2	9b	1	1.1	甕	口縁部	25-2	37-3		
5		05-04	7		3a	1	3.9	甕	胴部	25-2	37-3		
5		05-04	12		3a	1	56.0	甕	頸一胴部	25-2	37-3		
5		05-04	18		3a下	2	28.4	甕	口縁部	25-2	37-3		
5		05-04	19		3a下	1	5.5	甕	口縁部	25-2	37-3		
5		05-04	21	1	3a下	1	16.0	甕	口縁部	25-2	37-3		
5		05-04	22		3a下	1	4.9	甕	胴部	25-2	37-3		
5		05-04	23		3a下	1	4.0	甕	胴部	25-2	37-3		
5		05-04	24	1	3a下	2	11.7	甕	胴部	25-2	37-3		
5		05-04	25		3a下	1	13.2	甕	胴部	25-2	37-3	0.1	NW-SE
5		05-04	26		3a下	1	4.1	甕	胴部	25-2	37-3		
5		05-04	28		3a下	1	7.5	甕	胴部	25-2	37-3		
6	T1	04-03	10	1	3a	4	11.8	甕	底部	25-9	39		
6	T1	04-03	11		3a	2	4.0	甕	底部	25-9	39		
6	T1	04-03	12		3a	1	2.5	甕	底部	25-9	39		
7		05-04	13		3a	5	44.4	甕	胴部				
8	T2	05-04	21	2	3a下	5	6.3	甕	口縁部	24-9	39		
9	T3	06-04	14	1	3a	1	6.2	甕	胴部	24-12	39	0.7	
9	T3	06-04	17		3a	1	1.2	甕	口縁部	24-12	39		
9	T3	06-04	31		3a下	1	9.5	甕	口縁部	24-12	39		
10	T4	06-04	19		3a	1	6.9	甕	口縁部	24-6	39	1.0	NW-SE
10	T4	06-04	29		3a	1	15.0	甕	口縁部	24-6	39		
11	T5	06-04	20	2	3a	1	5.6	甕	口縁部	24-8	39	0.1	
11	T5	06-04	21	1	3a	1	3.2	甕	口縁部	24-8	39		
12	T6	06-04	27		3a	1	7.0	甕	口縁部	24-13	39	0.2	
12	T6	06-04	28		3a	1	4.0	甕	口縁部	24-13	39		
13		03-03	2		3a	1	10.4	甕	胴部			0.1	
13		03-03	3		3a	1	4.0	甕	胴部				

接合 番号	拓本 番号	区 名	遺物 番号	枝番号	層位	点数	重量(g)	器種	部 位	挿図 番号	図 版 番 号	接 合 距離(m)	方 向
14	T39	06-04	10		3a	2	69.1	坏	底部	25-3	37-5	0.9	NE-SW
14	T39	06-04	11	1	3a	2	8.5	坏	底部	25-3	37-5		
15	T7	03-03	4		3a	2	15.7	坏	体部	25-4	39		
16	T8	06-04	12	1	3a	2	6.5	坏	口縁部	25-10	39		
17	T9	06-04	11	2	3a	3	9.5	坏	体—底部	25-16	39	0.3	
17	T9	06-04	13	1	3a	1	3.6	坏	体—底部	25-16	39		
17	T9	不明				1	0.9	坏	胴部	25-16	39		
18		05-04	24	2	3a下	2	0.9	甕	胴部				
30	T19	HP1	2		Va~f	1	44.0	甕	胴部	14-3	19	19.4	NW-SE
30	T19	HP1	7		Va~f	1	77.0	甕	胴部	14-3	19		
30	T19	HP1	11	1	VII	1	70.3	甕	胴部	14-3	19		
30	T19	06-04	25		3a	1	19.3	甕	胴部	14-3	19		
31	T20	HP1	4		Va~f	1	13.1	甕	胴部	14-2	19	20.7	NW-SE
31	T20	HP1	9		VII	1	26.6	甕	胴部	14-2	19		
31	T20	HP1	15	1	カマド	1	24.9	甕	胴部	14-2	19		
31	T20	06-04	12	2	3a	2	35.0	甕	胴部	14-2	19		
31	T20	06-04	23		3a	1	31.9	甕	胴部	14-2	19		
31	T20	06-04	24		3a	1	7.2	甕	胴部	14-2	19		
32	T21	HP1	6		Va~f	1	44.7	甕	口縁部	14-1	19	0.4	
32	T21	HP1	11	2	VII	1	54.4	甕	口縁部	14-1	19		
33		HP1	13		カマド	5	83.7	坏	体—底部	14-8	12B-2		
34	T22	HP1	17		カマド	8	31.2	坏	口—体部	14-9	19		
35		HP1	1	1	Va~f	2	1.6	坏	体部				
36		HP2	2	1	カマド袖	17	1,078.7	甕	口—胴部	17-2	26-1	2.1	E-W
36		HP2	3	1	IIIb,c	8	461.6	甕	胴—底部	17-2	26-1		
36		HP2	5	1	IIIb,c	1	6.2	甕	胴部	17-2	26-1		
37		HP2	5	2	IIIb,c	51	1,685.0	甕	口—胴部	17-1	26-2		
38		HP2	2	2	カマド袖	1	37.4	坏	口—体部	18-1	26-5	1.0	E-W
38		HP2	4		IIIb,c	6	260.1	坏	口—底部	18-1	26-5		
39		HP2	7		IIIb,c	2	141.5	甕	胴—底部	17-4	26-4	0.2	
39		HP2	8		IIIb,c	1	13.6	甕	胴部	17-4	26-4		
39		HP2	9		IIIb,c	2	77.9	甕	胴—底部	17-4	26-4		
39		HP2	10		IIIb,c	3	98.0	甕	胴部	17-4	26-4		
39		HP2	11		IIIb,c	1	202.5	甕	底部	17-4	26-4		
40	T40	HP2	15		IIIb,c	1	8.6	甕	胴部	17-3	26-3	3.3	E-W
40	T40	HP2	16		IIIb,c	1	49.6	甕	胴部	17-3	26-3		
40	T40	HP2	25		カマド	1	98.5	甕	底部	17-3	26-3		
40	T40	HP2	26	1	カマド	1	25.8	甕	胴部	17-3	26-3		
41		HP2	28		カマド	1	144.2	坏	体—底部	18-3	26-6		
42	T29	HP2	24		カマド	1	25.0	甕	胴部	17-5	27A	0.1	
42	T29	HP2	26	2	カマド	1	36.4	甕	胴部	17-5	27A		
43	T30	HP2	34		カマド	3	40.0	坏	口—体部	18-2	27A		
44		HP2	31		カマド	1	18.0	甕	胴部			0.1	
44		HP2	33		カマド	1	26.6	甕	胴部				
45	T28	HP1	18		カマド	1	26.7	甕	口縁部	14-7	19		
45	T28	HP1	H.F.		カマド	1	3.4	甕	口縁部	14-7	19		
50A		04-03	18		9b	1	12.2	甕	口縁部	10-1	12B-1		
50A		04-03	19		9b	1	7.6	甕	口縁部	10-1	12B-1		
50A		04-03	25		9b	1	11.1	甕	胴部	10-1	12B-1		
50A		05-04	35		9b	1	38.9	甕	胴—底部	10-1	11B,12B	6.5	NW-SE

接合 番号	拓本 番号	区 名	遺物 番号	枝番号	層位	点数	重量(g)	器種	部 位	挿図 番号	図 版 番 号	接 合 距離(m)	方 向
50A		05-04	37	1	9b	3	45.2	甕	胴部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	39	1	9b	1	1.4	甕	胴部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	41		9b	1	0.4	甕	底部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	42	1	9b	1	29.0	甕	胴部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	43		9b	2	77.3	甕	口縁部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	44		9b	1	51.1	甕	胴一底部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	45		9b	1	59.7	甕	胴一底部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	47		9b	1	35.0	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	48		9b	1	110.6	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	49		9b	3	52.0	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	50	1	9b	3	20.0	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	51		9b	1	84.0	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	52		9b	1	9.0	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	53	1	9b	1	89.6	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	55		9b	4	54.0	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	56		9b	1	6.9	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	57		9b	1	8.2	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	59		9b	3	5.1	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	60	1	9b	4	5.7	甕	胴一底部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	61	1	9b	5	40.6	甕	胴一底部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	62		9b	1	6.4	甕	胴部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	64		9b	1	23.7	甕	胴一底部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	65		9b	1	3.0	甕	胴部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	66		9b	1	2.6	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	67		9b	1	37.6	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	68		9b	1	65.6	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	69		9b	1	128.0	甕	口縁部	10-1	11B, 12B-1		
50A		05-04	70		9b	2	127.0	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	71		9b	1	111.6	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	72		9b	6	134.4	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	73		9b	1	38.4	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	74		9b	1	66.8	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	75		9b	1	51.9	甕	胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	76		9b	2	56.4	甕	口一胴部	10-1	11B, 12A, 12B-1		

接合 番号	拓本 番号	区 名	遺物 番号	枝番号	層位	点数	重量(g)	器種	部 位	挿図 番号	図 版 番 号	接 合 距離(m)	方 向
50A		05-04	77		9b	1	32.8	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50A		05-04	78		9b	4	85.8	甕	口縁部	10-1	11B, 12A, 12B-1		
50B	T35	04-03	17		9b	1	12.1	甕	胴部	10-4	13A		
50B	T35	04-03	23		9b	1	11.4	甕	胴部	10-4	13A		
50(C)		04-03	15		9b	3	6.7	甕	胴部				
50(C)		04-03	16		9b	1	2.7	甕	胴部				
50(C)		04-03	20		9b	1	0.4	甕	胴部				
50(C)		04-03	21		9b	2	5.0	甕	胴部				
50(C)	T37	04-03	22	1	9b	1	14.7	甕	胴部	10-5	13A		
50(C)		04-03	22	2	9b	1	1.8	甕	胴部				
50(C)		04-03	24		9b	1	2.5	甕	胴部				
50(C)		04-03	27		9b	1	6.6	甕	胴部				
50(C)		04-03	29		9b	1	2.2	甕	胴部				
50(C)	T38	04-03	30	1	9b	1	4.9	甕	胴部	10-2	13A		
50(C)		05-04	37	2	9b	5	2.0	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	38		9b	1	0.9	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	39	2	9b	1	0.2	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	40		9b	1	1.9	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	42	2	9b	1	1.9	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	50	2	9b	1	2.0	甕	胴部		11B, 12A		
50(C)		05-04	53	2	9b	1	1.5	甕	胴部		11B, 12A		
50(C)		05-04	58		9b	1	1.7	甕	胴部		11B, 12A		
50(C)		05-04	60	2	9b	4	3.3	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	61	2	9b	1	0.2	甕	胴部		11B		
50(C)		05-04	63		9b	4	3.6	甕	胴部		11B		
51	T36	04-04	3		9b	1	22.9	甕	胴部	10-3	11B, 13A	4.8	N-S
51	T36	04-04	27		9b	1	27.0	甕	胴部	10-3	13A		
51	T36	05-04	36		9b	1	4.5	甕	胴部	10-3	11B, 13A		
S19		05-04	9		3a	1	79.0	磑				3.0	E-W
S19		05-04	14		3a	1	385.0	磑					

報告書抄録

ふりがな	けいひやくじゅうさんいせききたさんじゅうよじょうちてん							
書名	K113遺跡北34条地点							
副書名								
巻次								
シリーズ名	札幌市文化財調査報告書							
シリーズ番号	49							
編著者名	上野秀一							
編集機関	札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）							
所在地	〒064 北海道札幌市中央区南22条西13丁目 Tel 011-512-5430							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m²	調査原因
けいひやくじゅうさん K 1 1 3	さつぼろしきたくきたさんじゅうよじょう 札幌市北区北34条 にしご、ろくちょうめ 西5、6丁目	01102	113	43° 5' 55"	141° 20' 32"	19940601～ 19940628	500	集合住宅建設にともなう事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
K 1 1 3	集落	擦文時代前期	竪穴住居跡2軒 焼土9ヵ所		擦文式土器 紡錘車		3 a 層検出。住居の内 1 軒は焼失家屋	
		続縄文時代末	焼土等2ヵ所		北大式土器 小型搔器等石器		9 b 層検出。	

図 版



K113遺跡北34条地点付近空中写真（○印は遺跡、1:10,000、平成4年5月31日撮影）



A K113遺跡北34条地点全景(1) (北北西より)



B K113遺跡北34条地点全景(2) (南東より)



A 試掘坑12セクション(1) (05-04区; 北より)



B 試掘坑12セクション(2) (05-04区; 南より)



A 試掘坑12セクション(3) (05-04区; 南より)



B 試掘坑12セクション(4) (05-04、05-03区; 南より)



A E-Fセクション(1) (05-03区; 北より)



B E-Fセクション(2) (05-03区; 北より)



A C-Dセクション(1) (04-03区; 東より)



B C-Dセクション(2) (05-03区; 東より)



A 焼土9(1) (04-04区9b層; 北東より)



B 焼土9(2) (部分、04-04区9b層; 北東より)



A 焼土9(3) (部分、04-04区9b層; 北東より)



B 焼土10 (05-04区9b層; 東より)



A 第1、2号ピット (05-04区; 北より)



B 第1号ピット (05-04区; 北より)



A 第2号ピット (05-04区; 南より)



B 第2号ピットセクション (05-04区; 南より)



A 遺物出土状況(1) (05-04区9b層、礫No.15、16；北より)



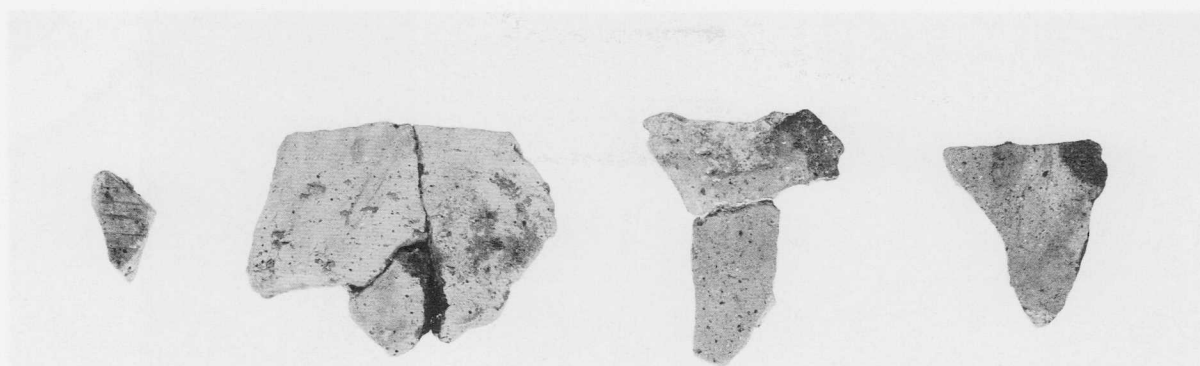
B 遺物出土状況(2) (05-04区9b層、土器等No.35～78；南より)



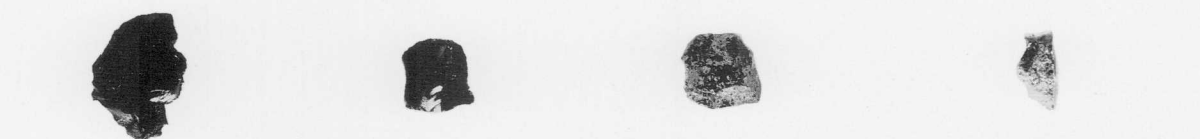
A 遺物出土状況(3) (05-04区9b層、土器等No.47～59、66～68、70～78；西より)



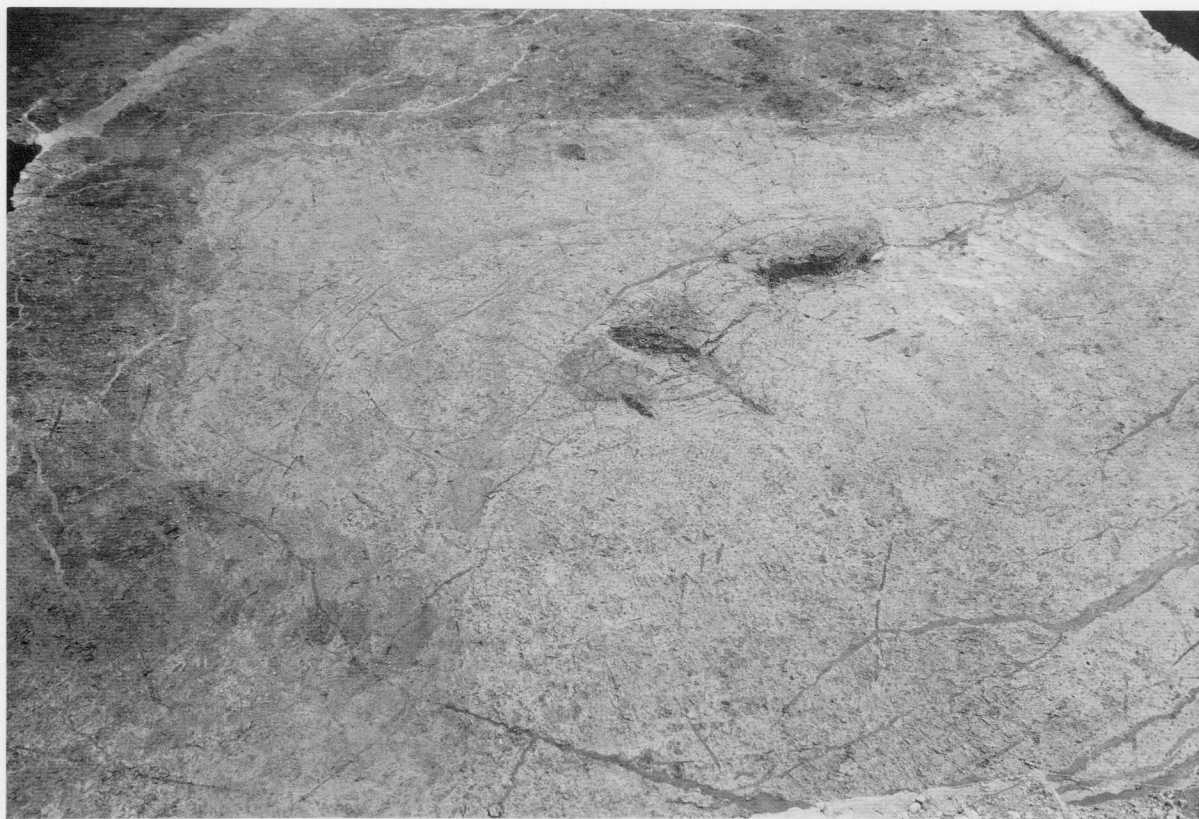
B 出土遺物(1) (1；発掘区9b層出土土器、2；第1号竖穴住居跡出土土器)



A 出土遺物(2) (発掘区9b層出土土器)



B 出土遺物(3) (発掘区9b層出土石器)



A 第1号竪穴住居跡（確認面；東より）



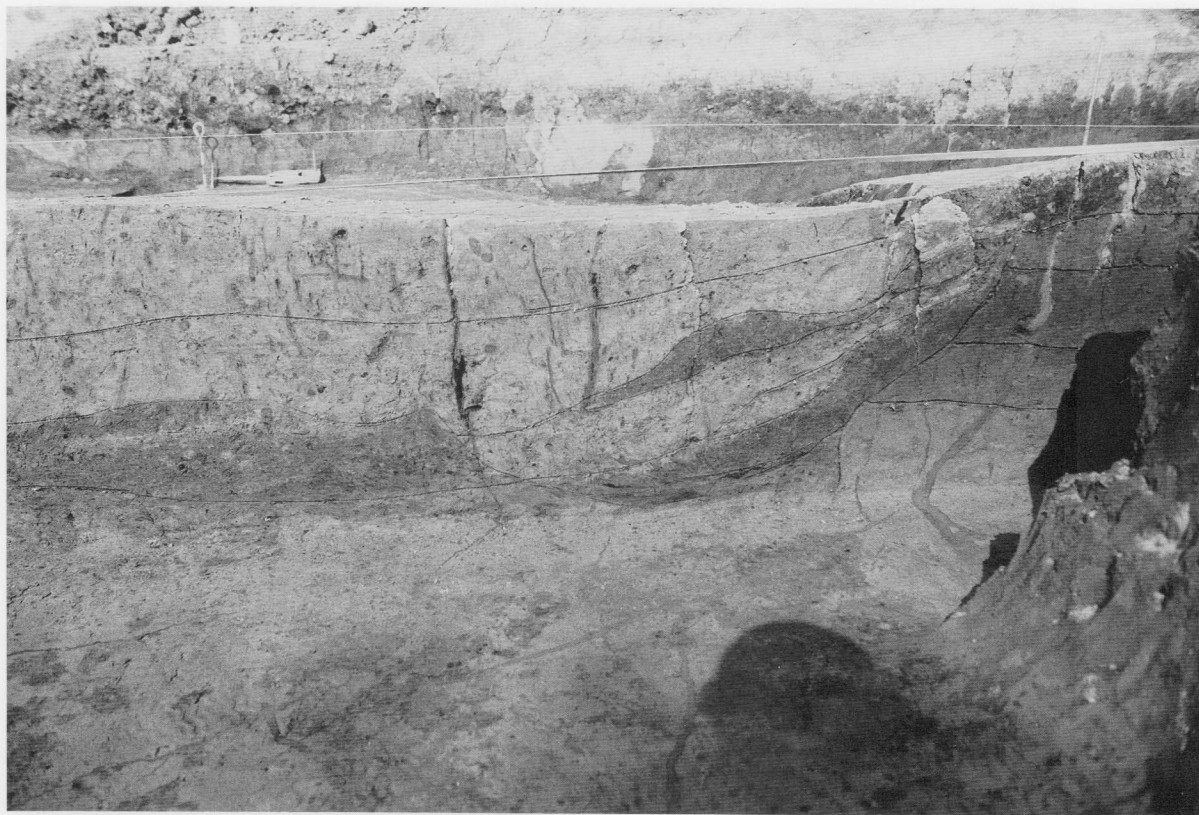
B 第1号竪穴住居跡（全景；東より）



A 第1号竖穴住居跡 (A-Bセクション西側；南より)



B 第1号竖穴住居跡 (A-Bセクション中央付近；南より)



A 第1号竪穴住居跡 (C-Dセクション南側；西より)



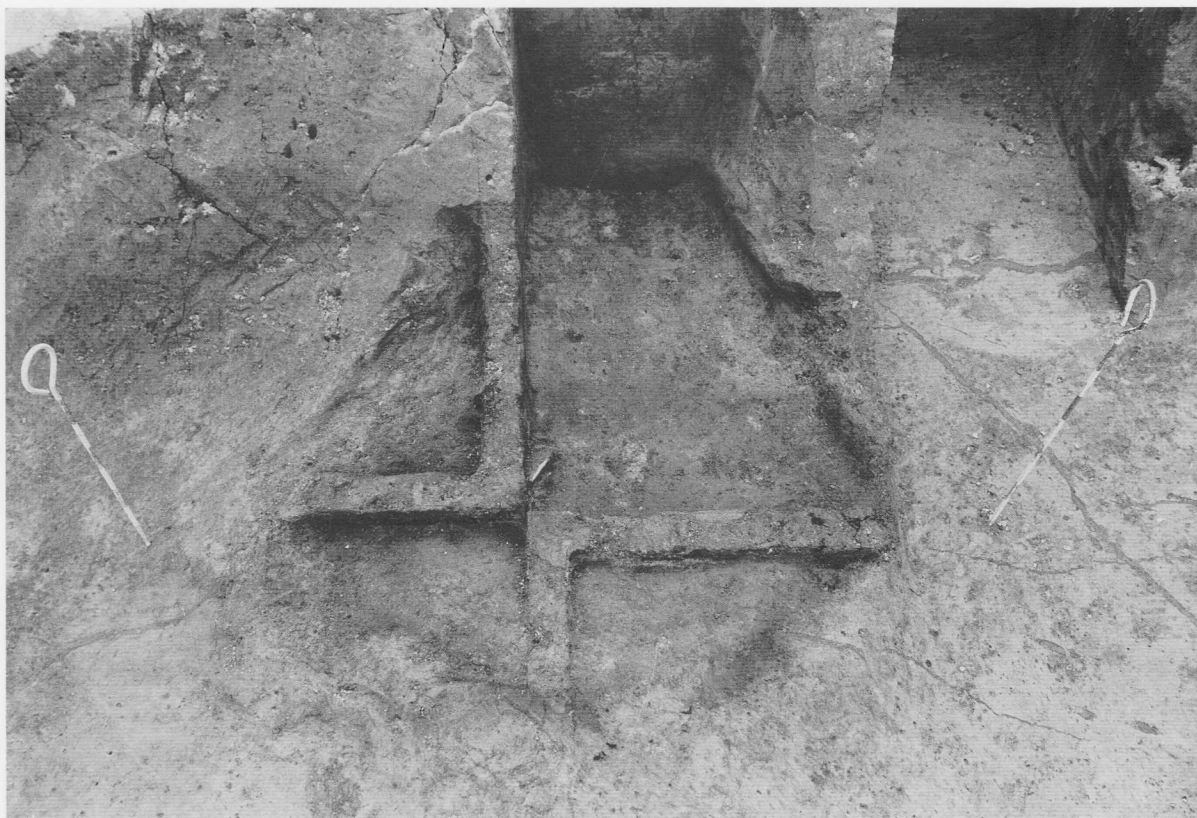
B 第1号竪穴住居跡 (C-Dセクション北側；東より)



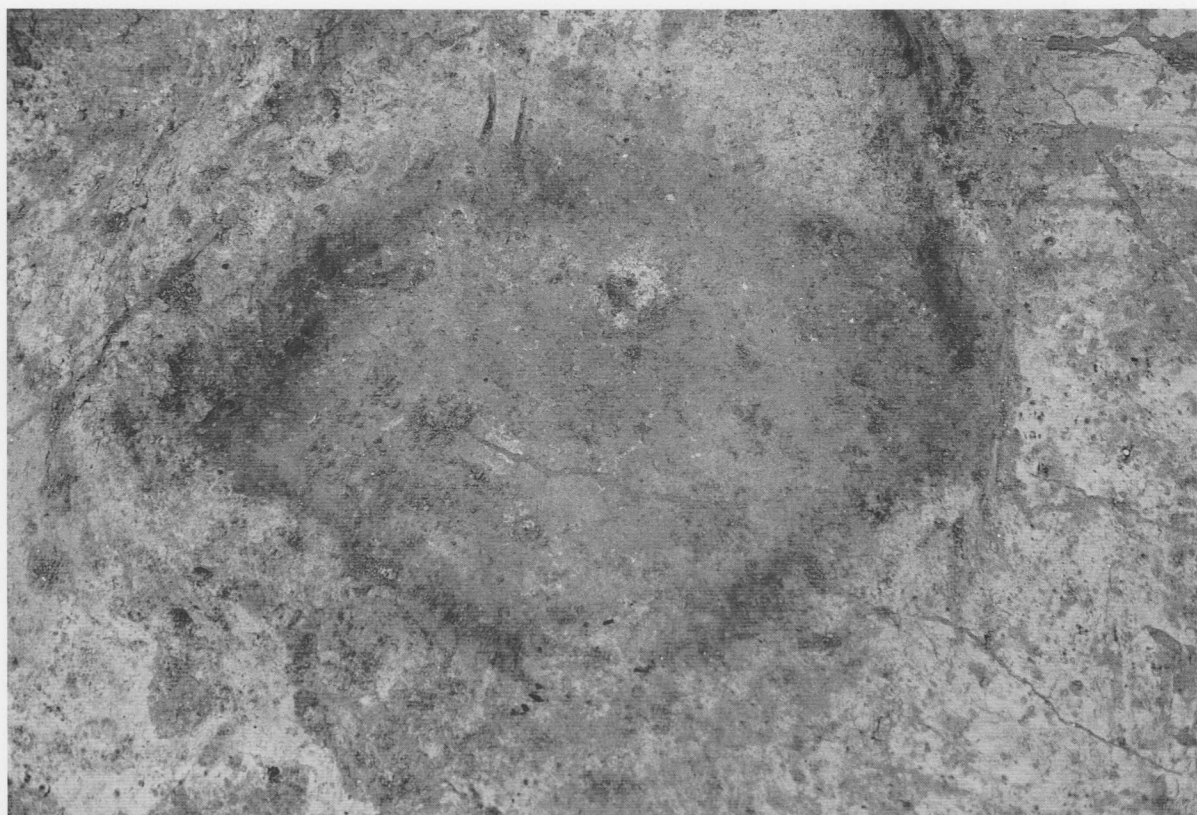
A 第1号竪穴住居跡 (A-Bセクション東側；北より)



B 第1号竪穴住居跡かまど (全景；北より)



A 第1号竪穴住居跡かまど（セクション；北より）



B 第1号竪穴住居跡かまど（火床；北より）



出土遺物(4) (第1号竖穴住居跡出土土器)



A 第2号竪穴住居跡（確認面；東より）



B 第2号竪穴住居跡（全景；南東より）



A 第2号竖穴住居跡（全景；北東より）



B 第2号竖穴住居跡（E-Fセクション；北東より）



A 第2号竪穴住居跡 (A-Bセクション北西側；北東より)



B 第2号竪穴住居跡 (A-Bセクション中央付近；北東より)



A 第2号竪穴住居跡（A-Bセクションおよび炭化材全景；北東より）



B 第2号竪穴住居跡（中央部付近炭化材；南東より）



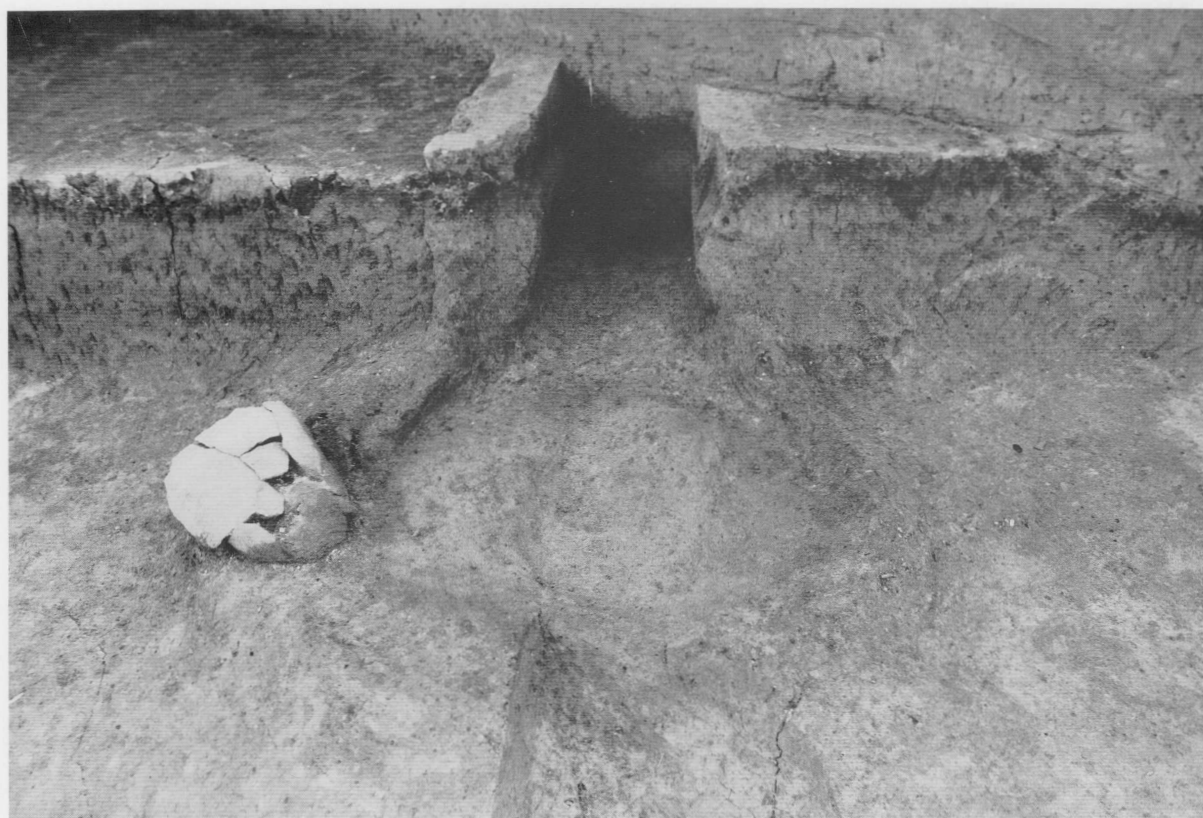
A 第2号竪穴住居跡（北西壁側炭化材；東より）



B 第2号竪穴住居跡（かまど付近炭化材および遺物出土状況；北北東より）



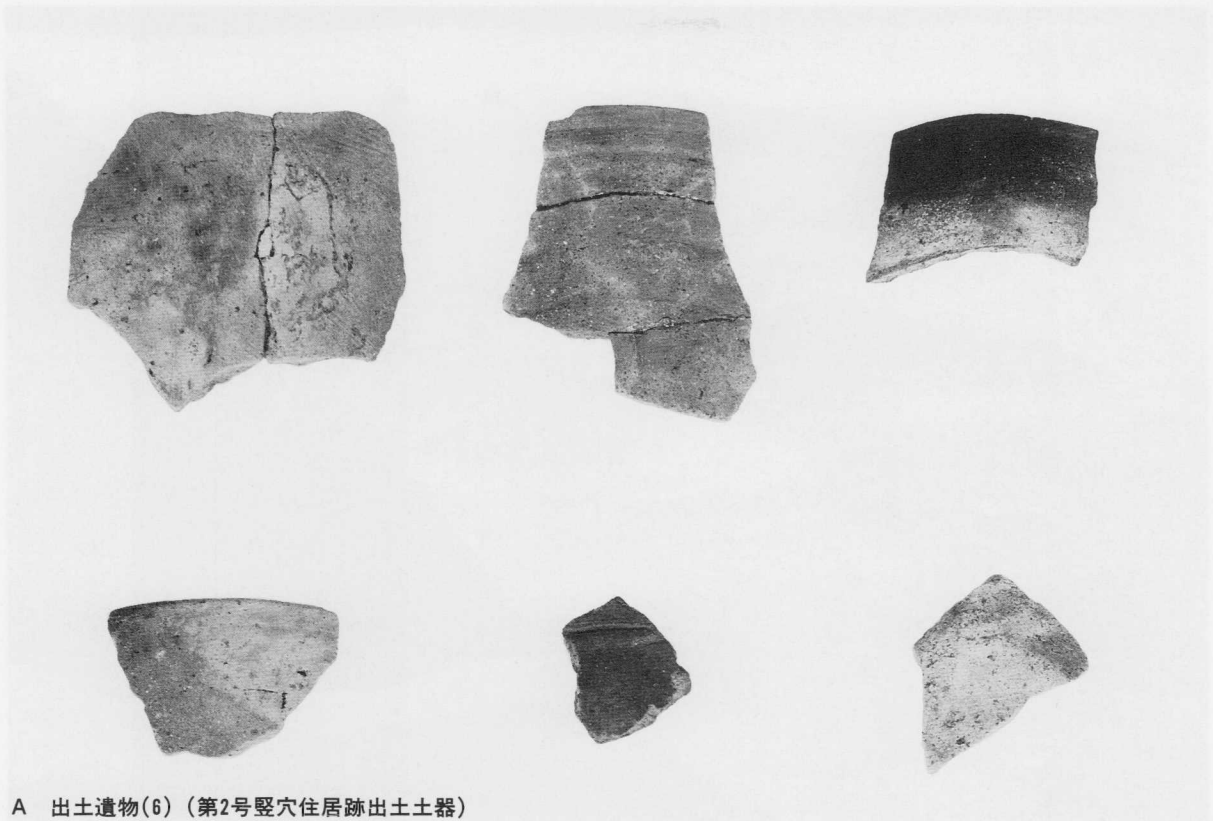
A 第2号竖穴住居跡（南東隅付近炭化材および遺物出土状況；北西より）



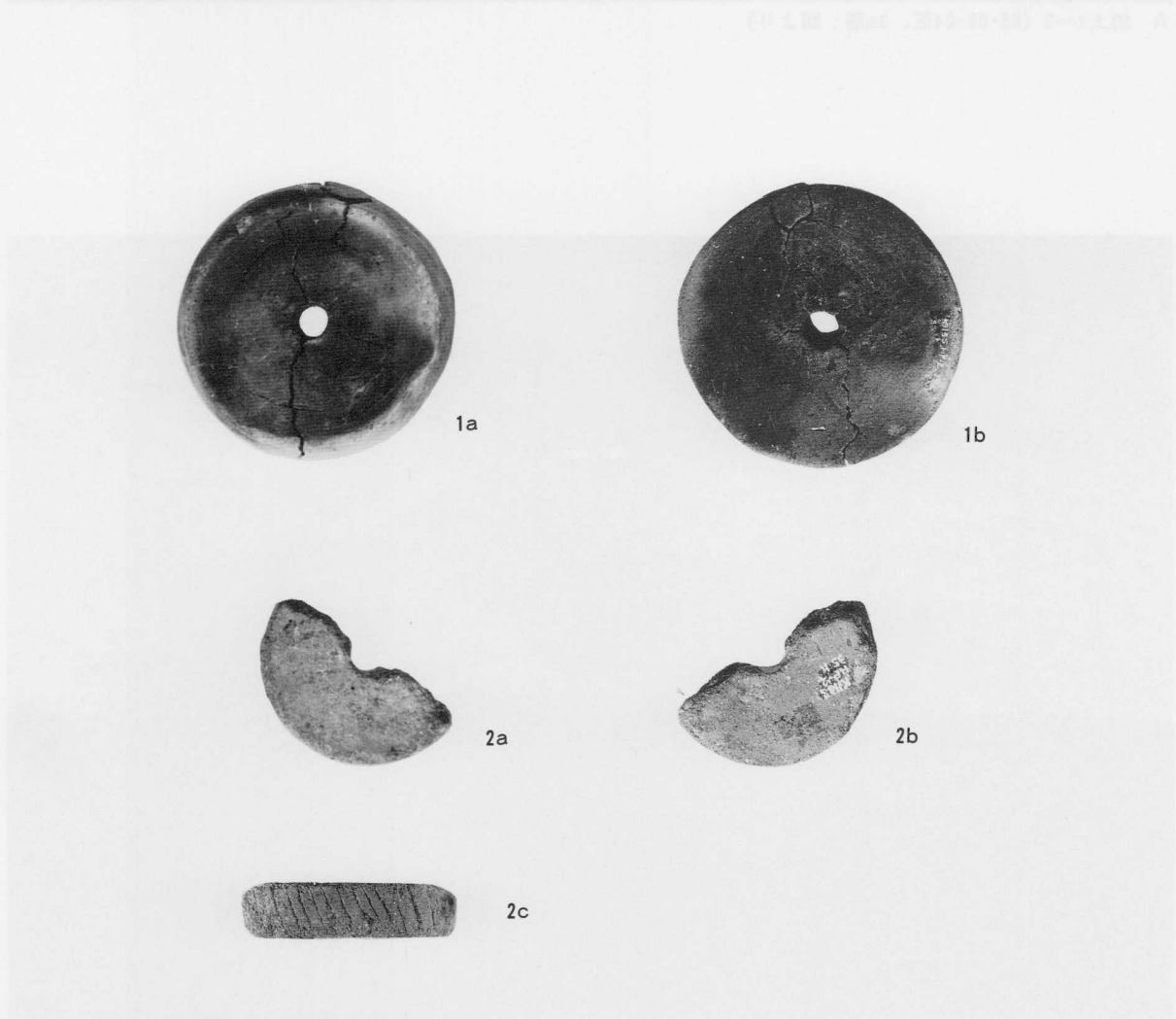
B 第2号竖穴住居跡かまど（全景；北東より）



出土遺物(5) (第2号竖穴住居跡出土土器)



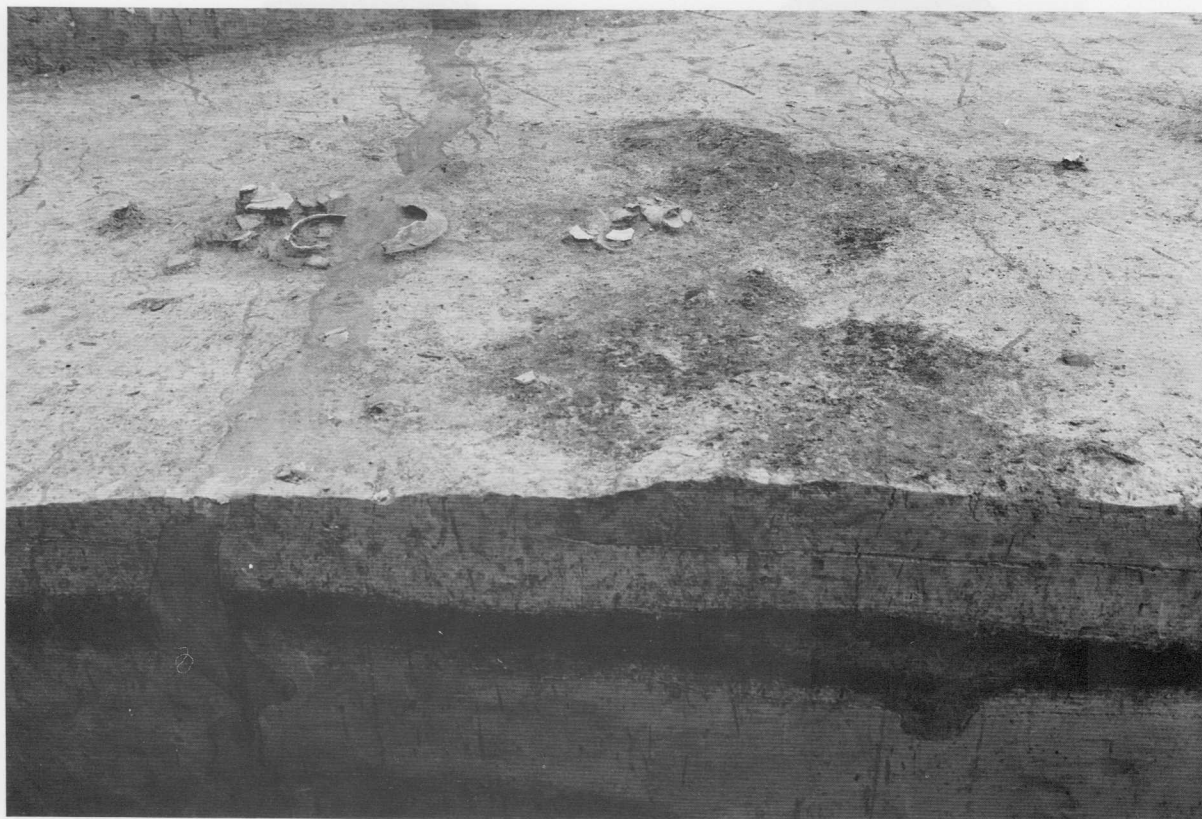
A 出土遺物(6) (第2号竖穴住居跡出土土器)



B 出土遺物(7) (第2号竖穴住居跡出土紡錘車)



A 焼土1〜3 (05・06-04区、3a層；西より)



B 焼土1〜3 (05・06-04区、3a層；南より)



A 焼土1 (05-04区、3a層；北より)



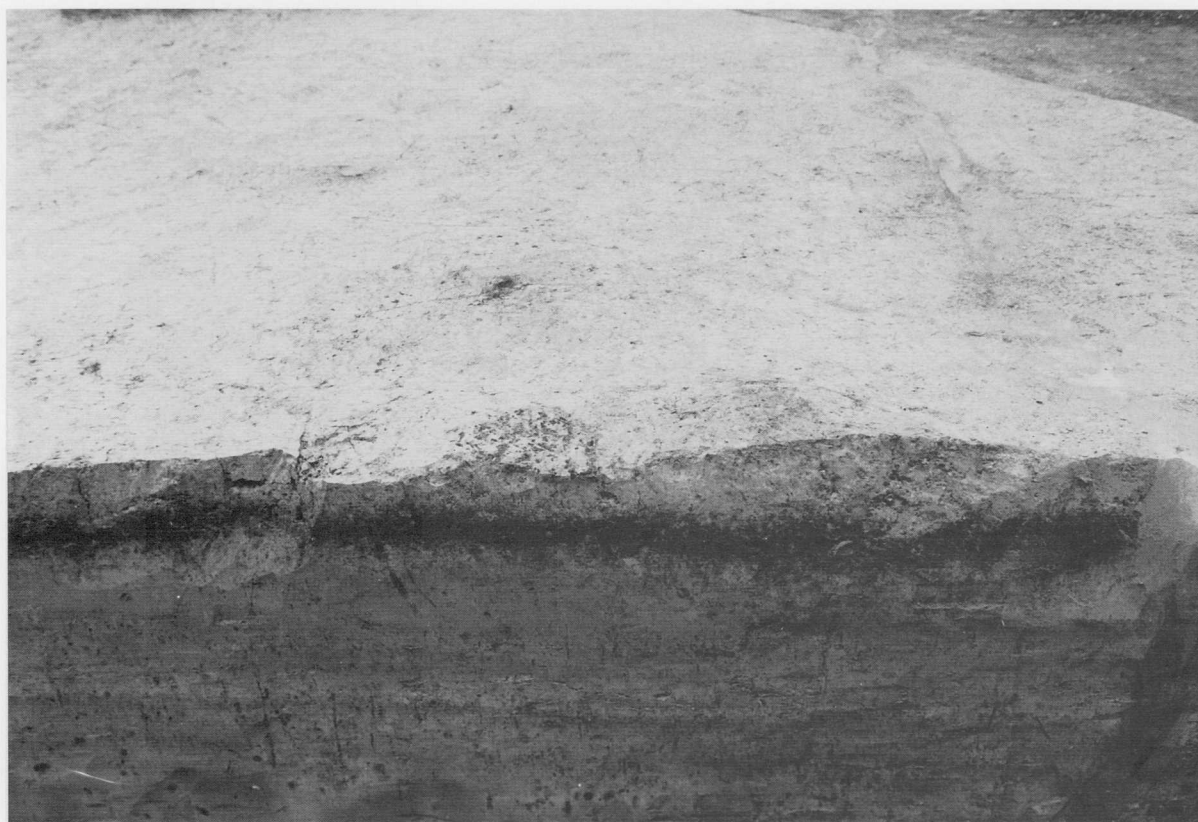
B 焼土1、2 (05-04区、3a層；北より)



A 焼土3 (05・06-04区、3a層；北より)



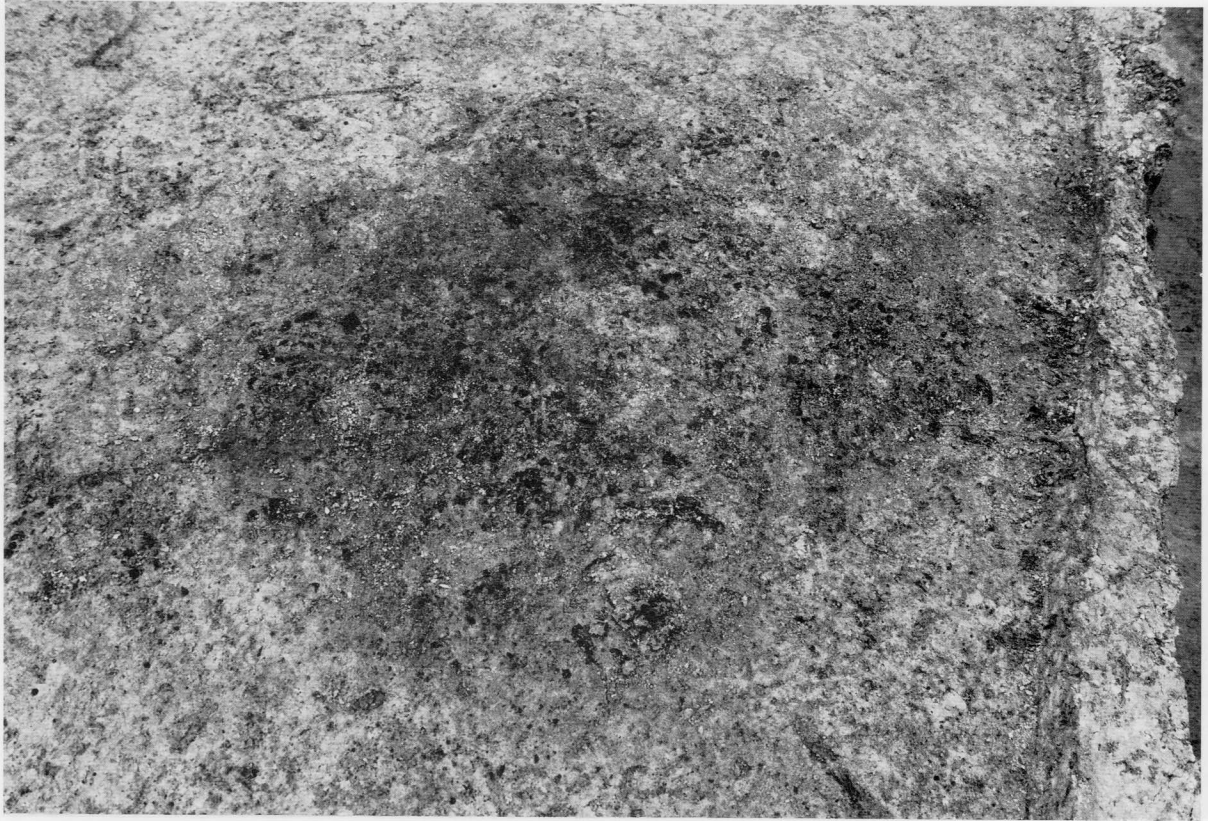
B 焼土4A、B (05-04区、3a層；南より)



A 焼土4A、B (05-04区、3a層；北より)



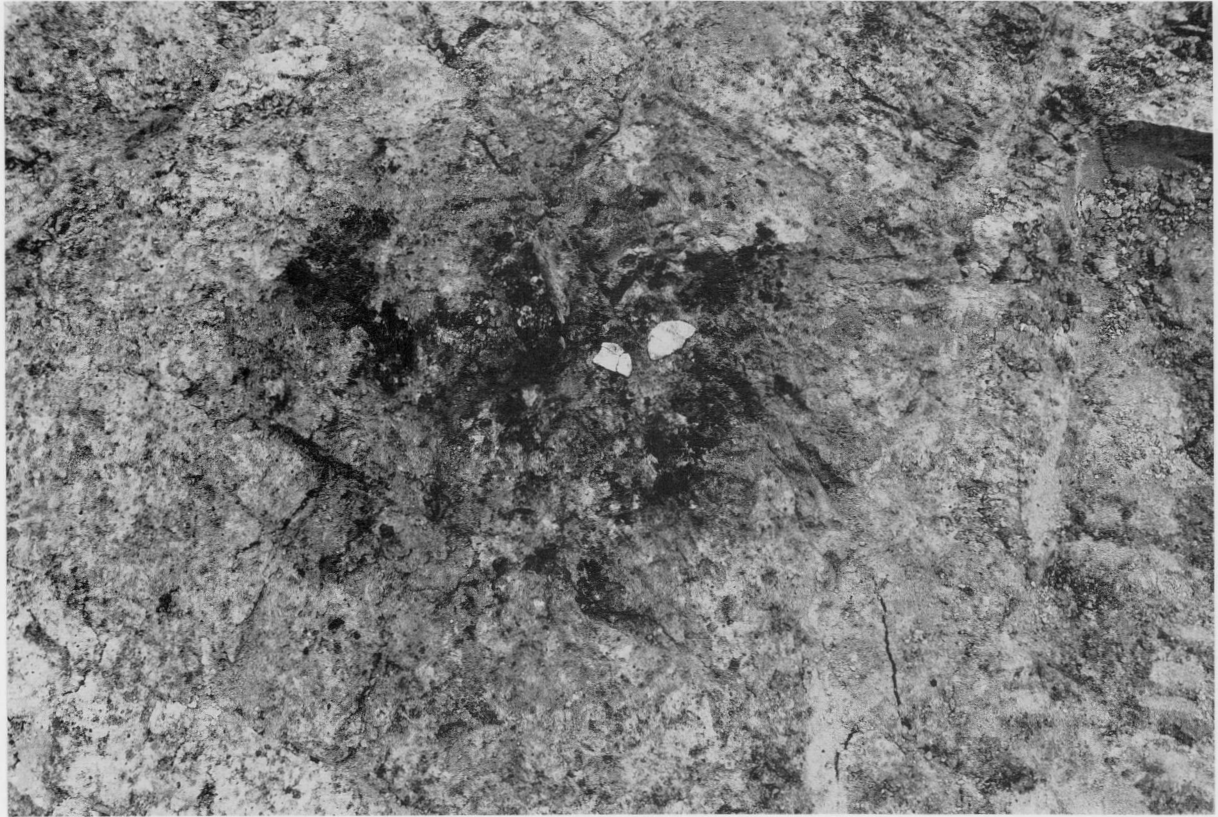
B 焼土5 (05-04区、3a層；西より)



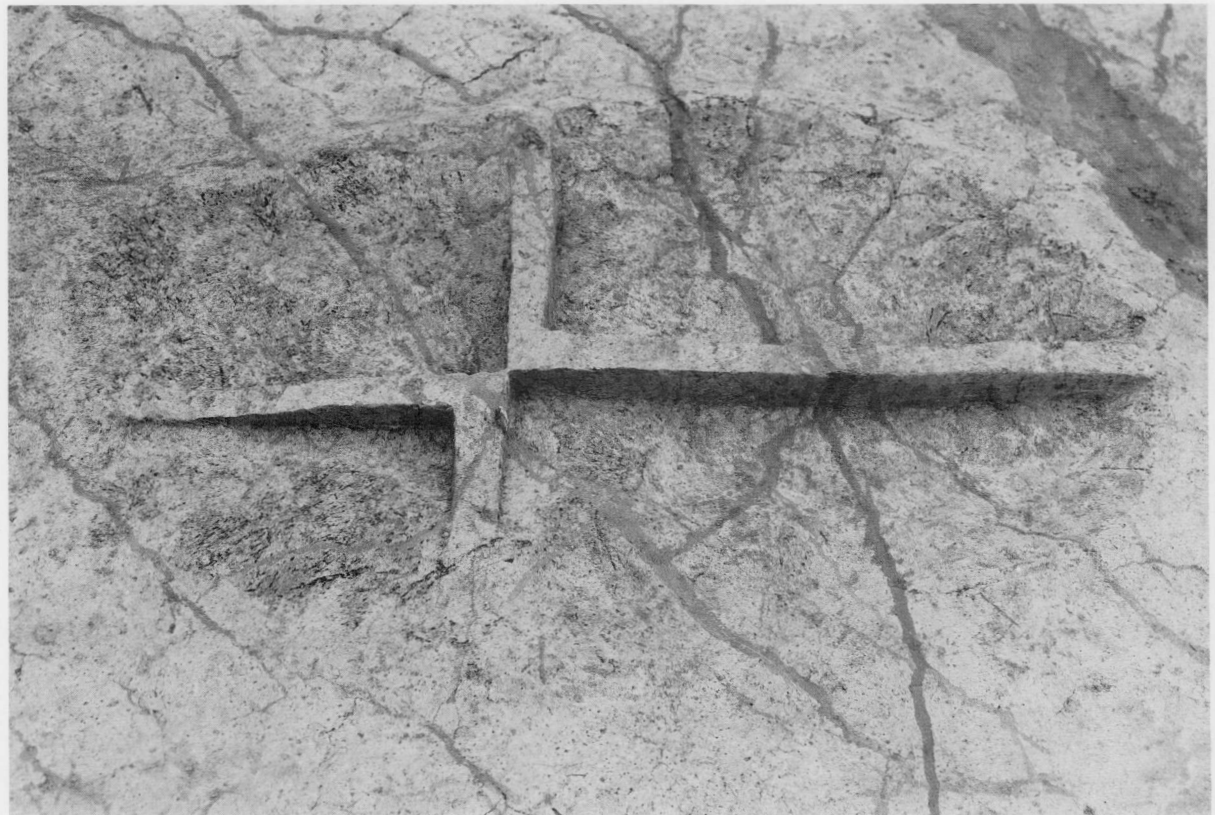
A 焼土6 (03-03区、3a層；東より)



B 焼土7 (03-03区、3a層；東より)



A 焼土8 (04-03区、3a層；南より)



B 焼土11 (05-03区、3a層；北東より)



A 発掘区遺物出土状況(1) (05・06-04区No.1~3、3a層; 北より)



B 発掘区遺物出土状況(2) (05・06-04区No.1、3a層; 北より)



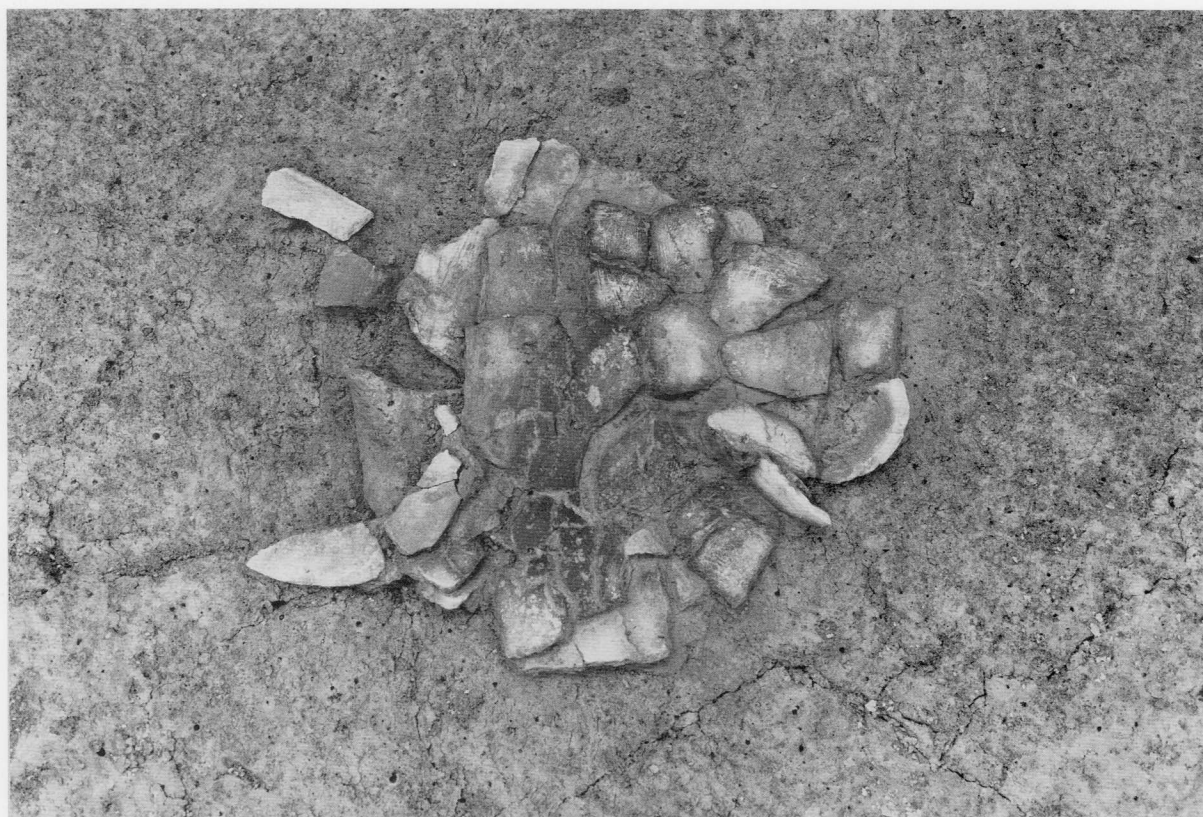
A 発掘区遺物出土状況(3) (06-04区No.15~33、3a層; 北より)



B 発掘区遺物出土状況(4) (04-04区No.1・2、3a層; 東より)



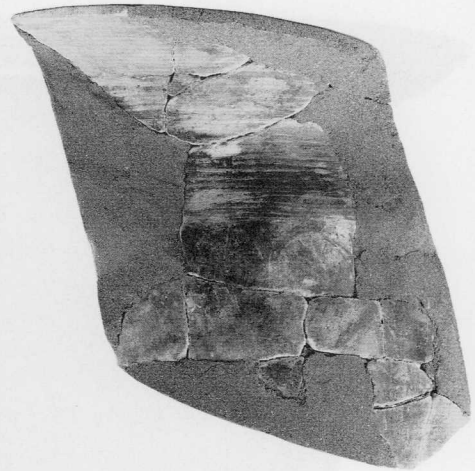
A 発掘区遺物出土状況(5) (04-04区No.2、3a層；南東より)



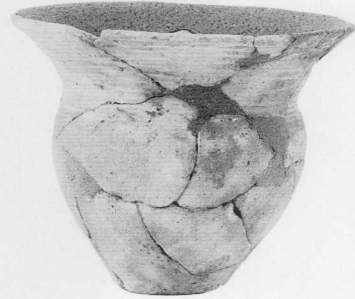
B 発掘区遺物出土状況(6) (04-04区No.1、3a層；真上より)



1



3



4



2a



5

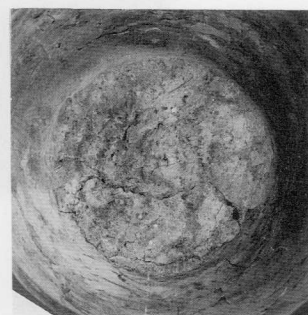


2b

出土遺物(8) (発掘区3a層出土土器)



1a



1b

A 出土遺物(9) (発掘区3a層出土土器)



B 出土遺物(10) (発掘区3a層出土石器)



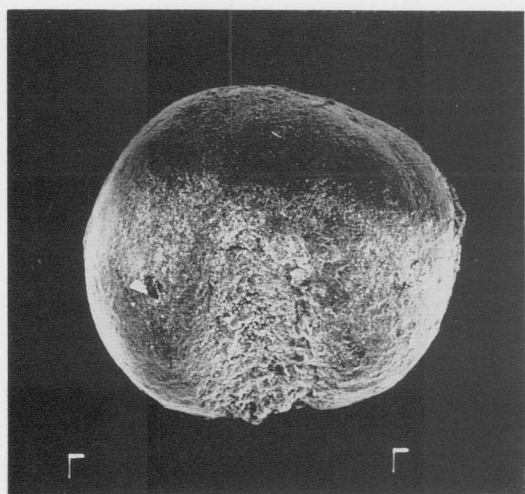
出土遺物(11) (発掘区3a層出土土器)



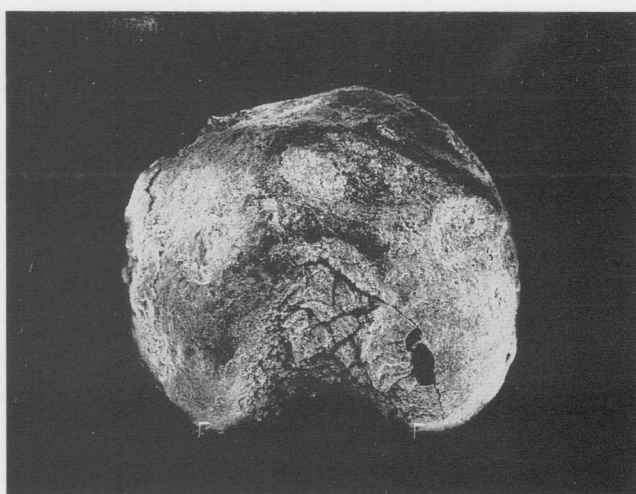
A 発掘風景(1)



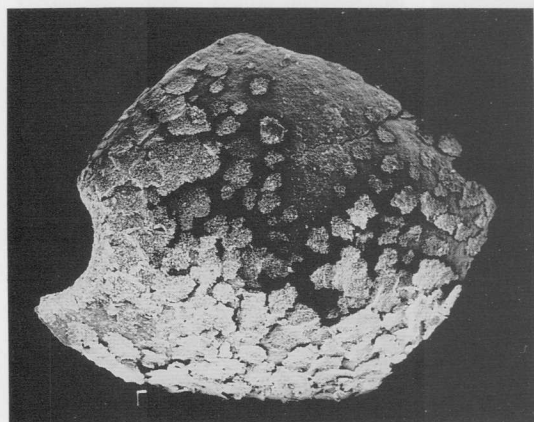
B 発掘風景(2)



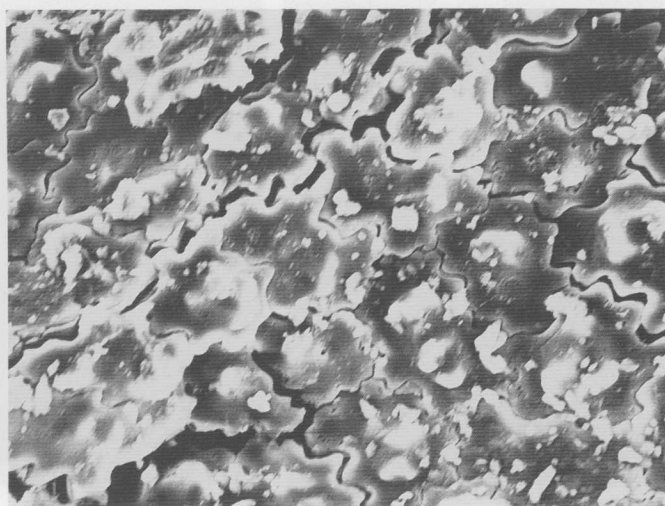
1 アワ ×35



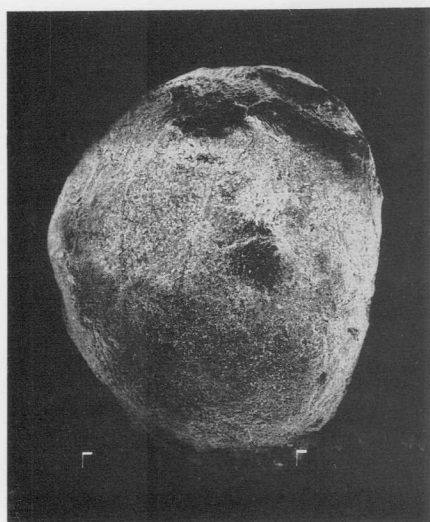
2 キビ ×35



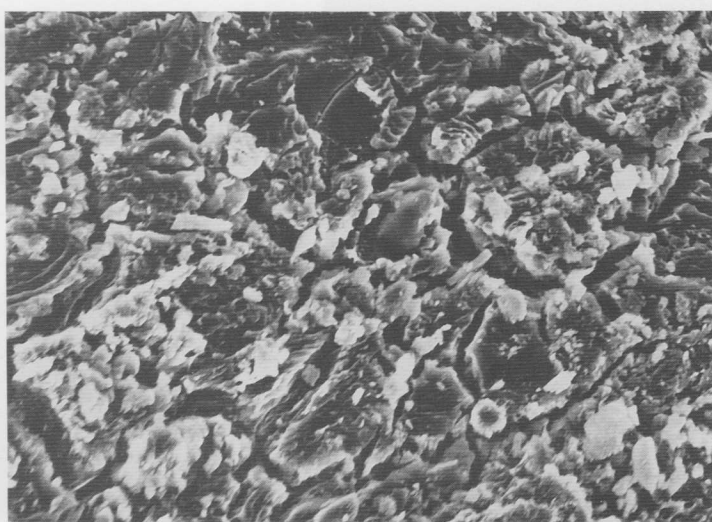
3a アサ破片 ×35



3b 3aの拡大 ×1500



4a シソ属 ×35



4b 4aの拡大 ×1500

×○○○は撮影時の倍率。35倍で撮影スケール「」の間隔1.0mm

K113遺跡北34条地点出土炭化種子(1) (1～4: 焼土2)

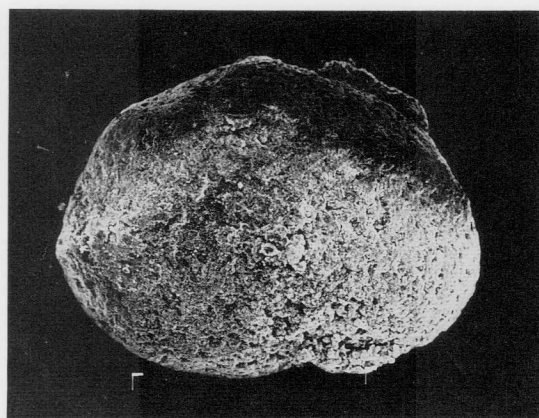


5a マメ科種子葉表面

(焼土 9)

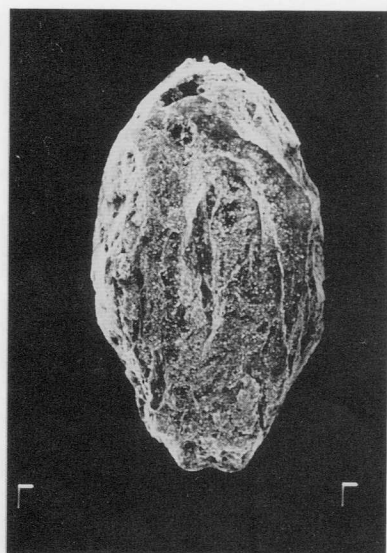


5b 裏面



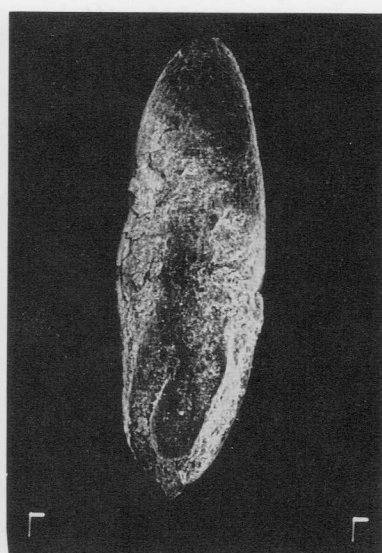
6 ナス科 ×35

(焼土 2)



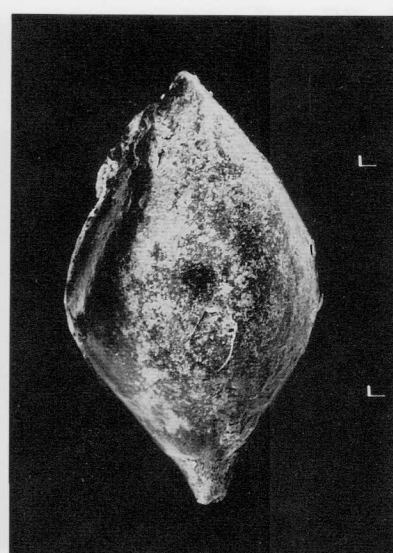
7 イネ科 ×35

(焼土 2)



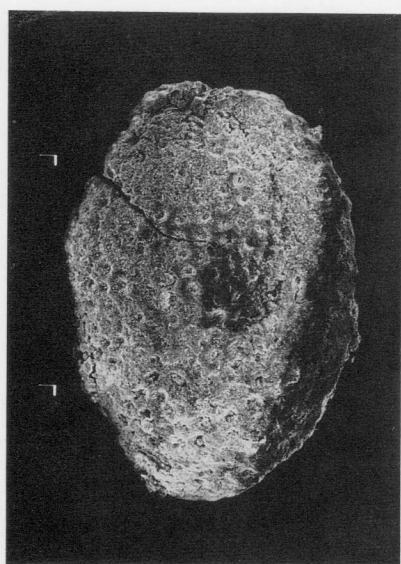
8 イネ科 ×35

(焼土 2)



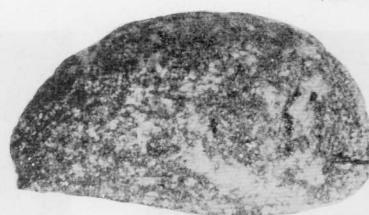
9 DATE 属 ×35

(第 2 号 竪穴住居跡 SP2)



10 マタタビ属 ×35

(焼土 9)



11 キハダ属 (焼土 3)



12a ブドウ属 腹面



12b 背面 (焼土 1)

K113遺跡北34条地点出土炭化種子(2)

札幌市文化財調査報告書49

K 113 遺 跡

北34条地点

平成 7 年 3 月25日印刷

平成 7 年 3 月31日発行

発行者 札幌市教育委員会

060 札幌市中央区南 1 条西14丁目

編集者 札幌市埋蔵文化財センター

064 札幌市中央区南22条西15丁目

TEL. 011(512)5430

FAX. 011(512)5467

印刷所 中西印刷株式会社

065 札幌市東区東雁来 3 条 1 丁目



付図1 K113遺跡北34条地点出土遺物分布図(1) (下層;9b層)



付図2 K113遺跡北34条地点出土遺物分布図(2) (上層;3a層)